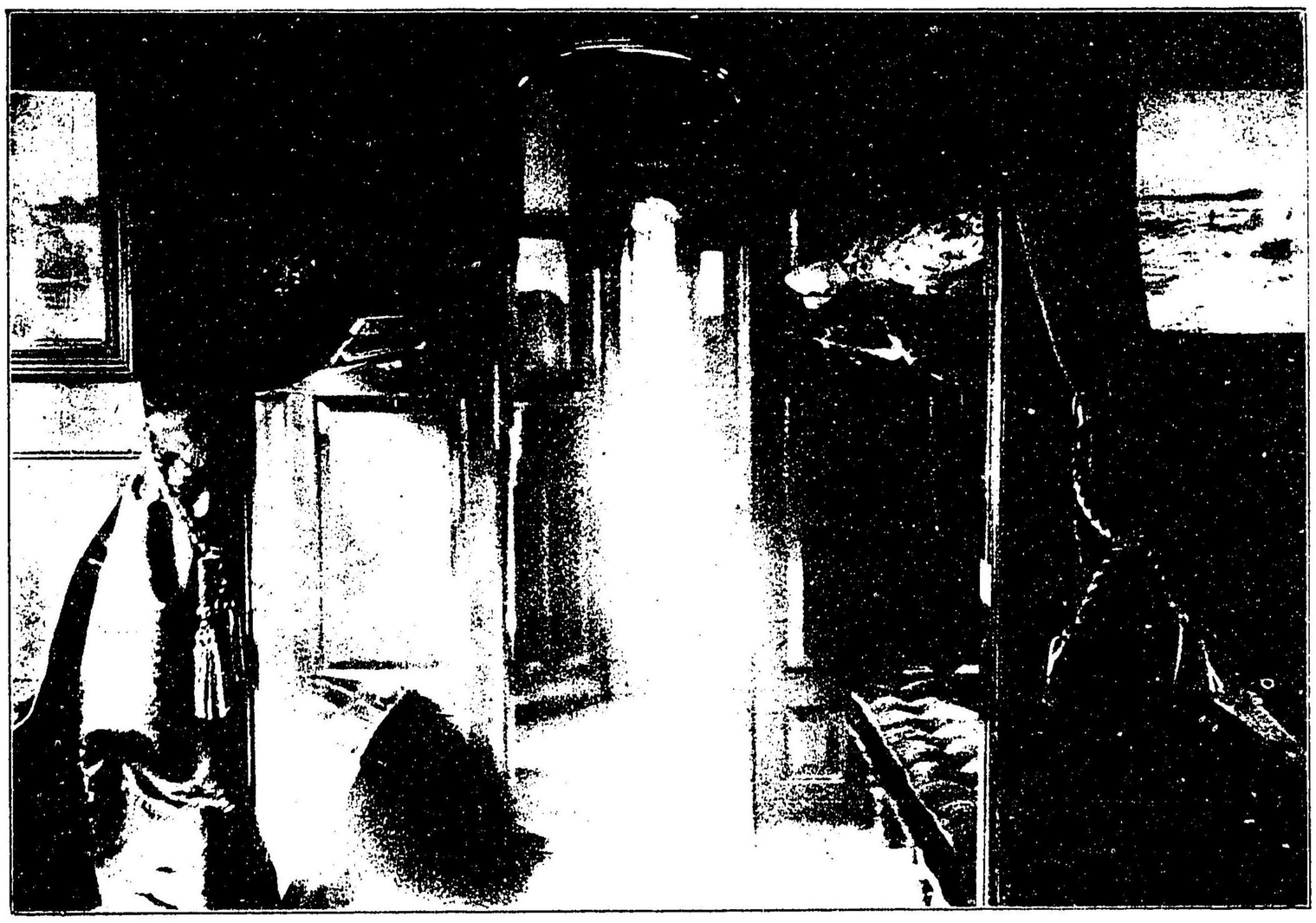
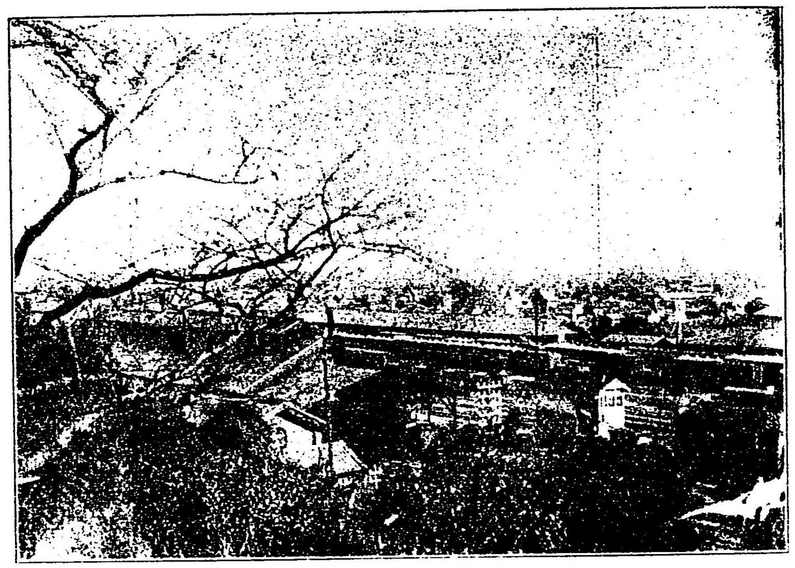
日本鐵道青森直行列車之圖



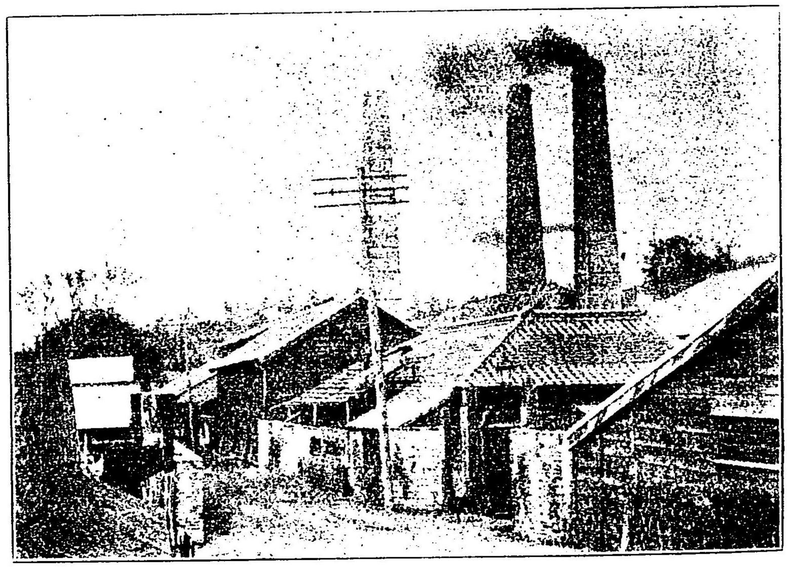
日本鐵道列車寢室內部之圖

日本鐵道上野停車場之圖　其一

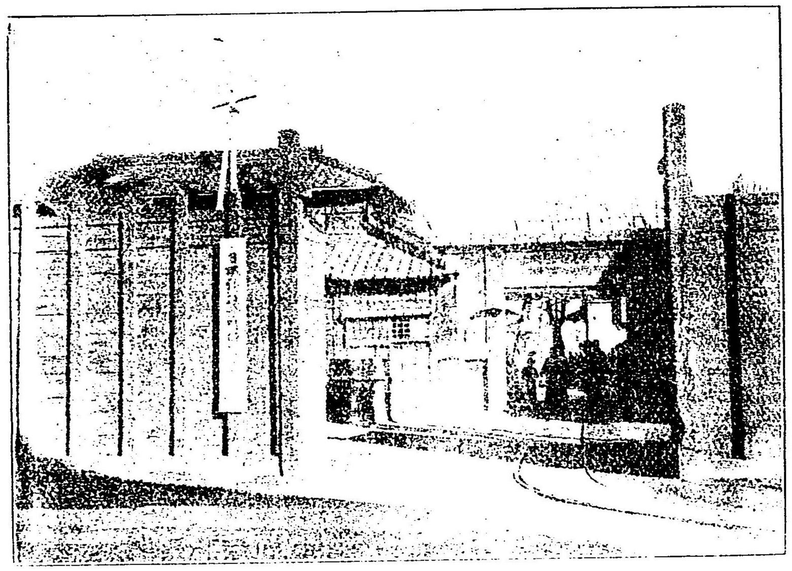
其二



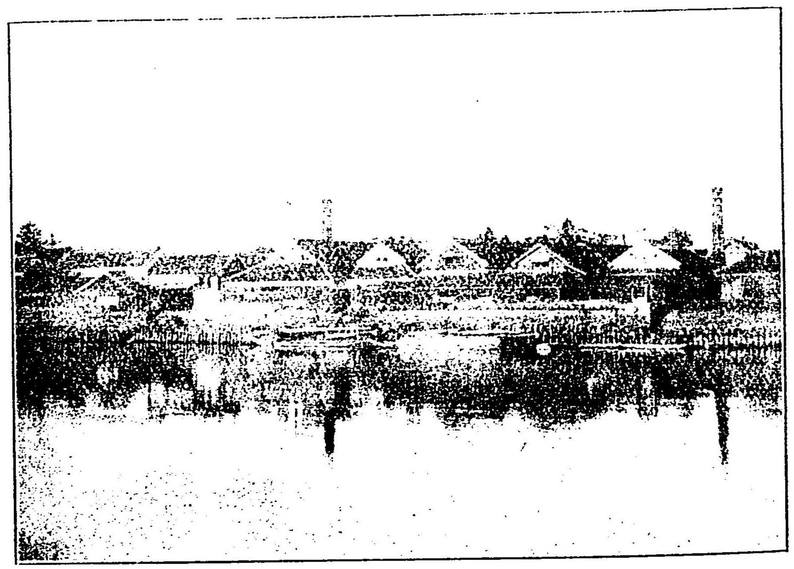
上野公園ヨリ日本鉄道構内ヲ望ム



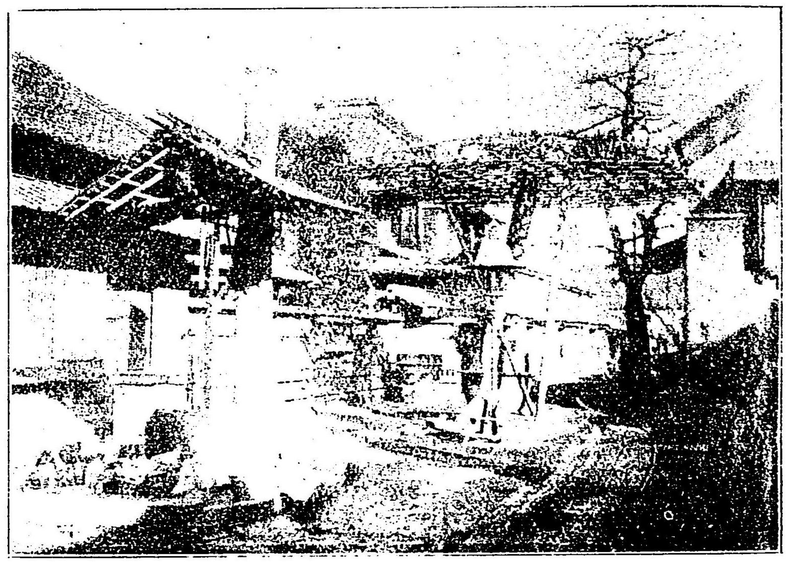
東京品川白煉瓦株式會社門前



茂木佐平治右邸前之圖

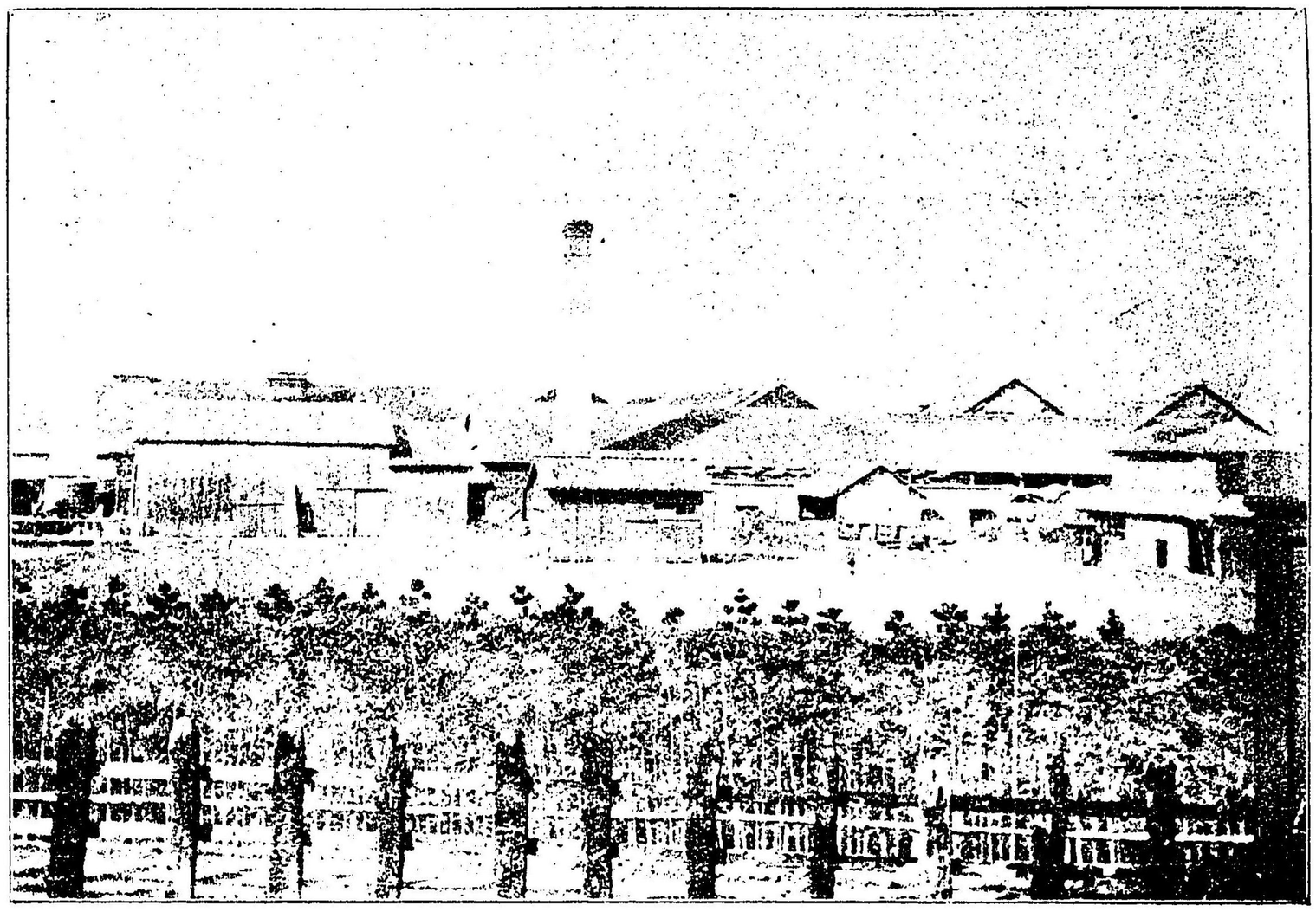


龜甲萬醸造場之圖



龜甲萬本店茂木佐平治君邸內之圖

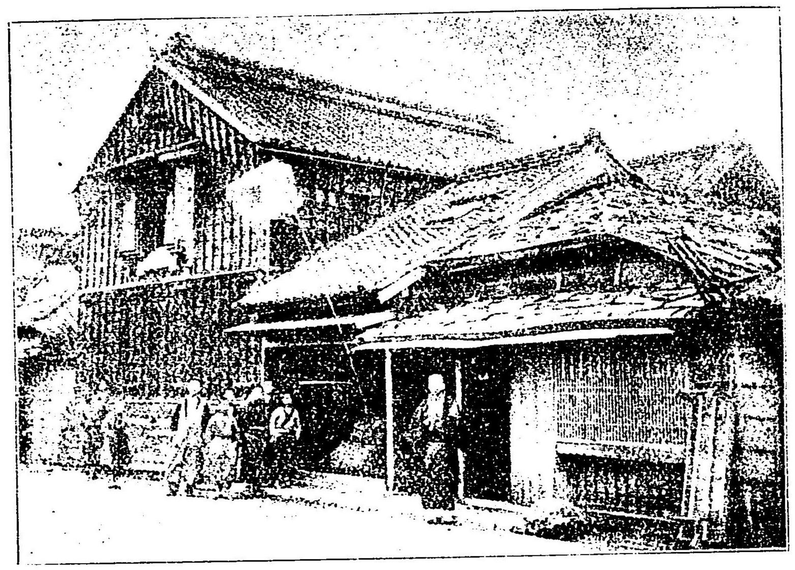
龜甲萬釀造場雨祓之圖



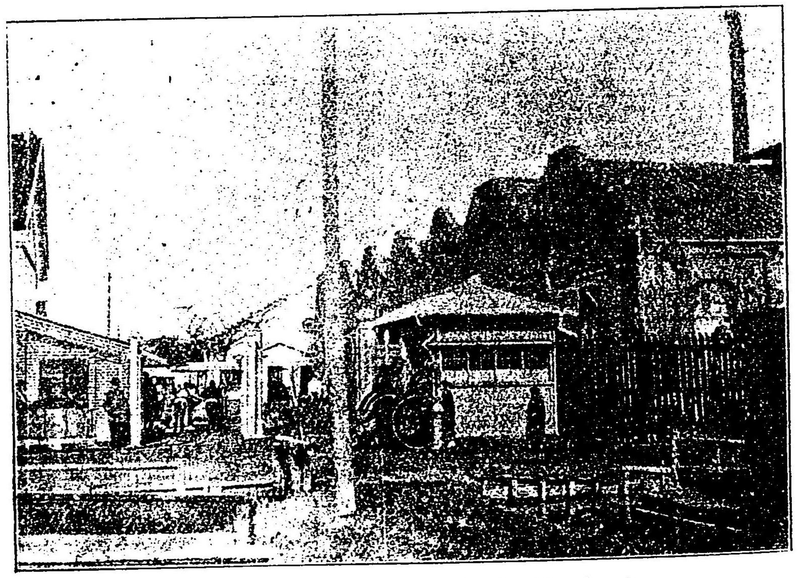
山サ醬油店最新模範醸造場之圖

全商店之圖銚子港

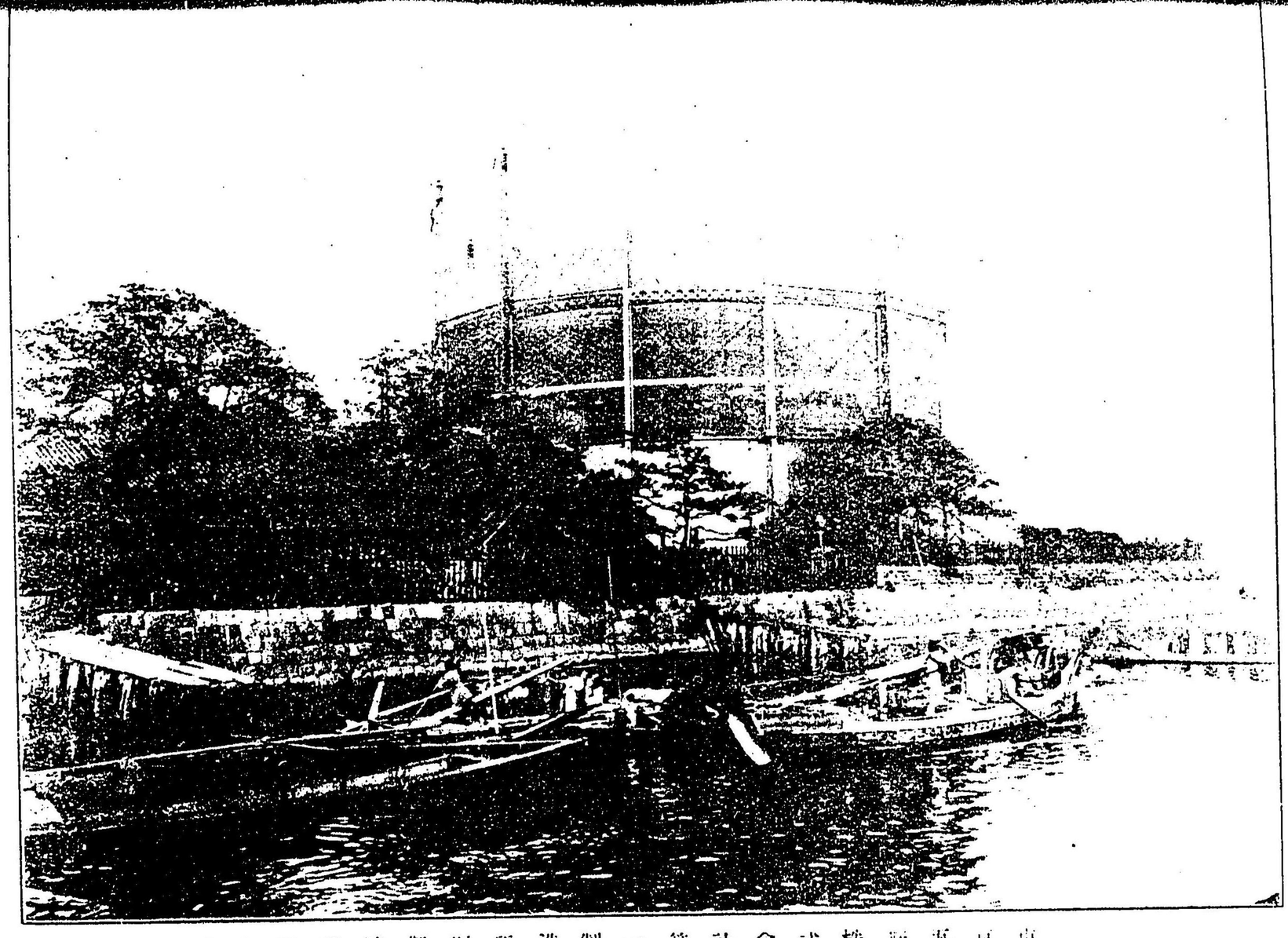
岡田源吉君



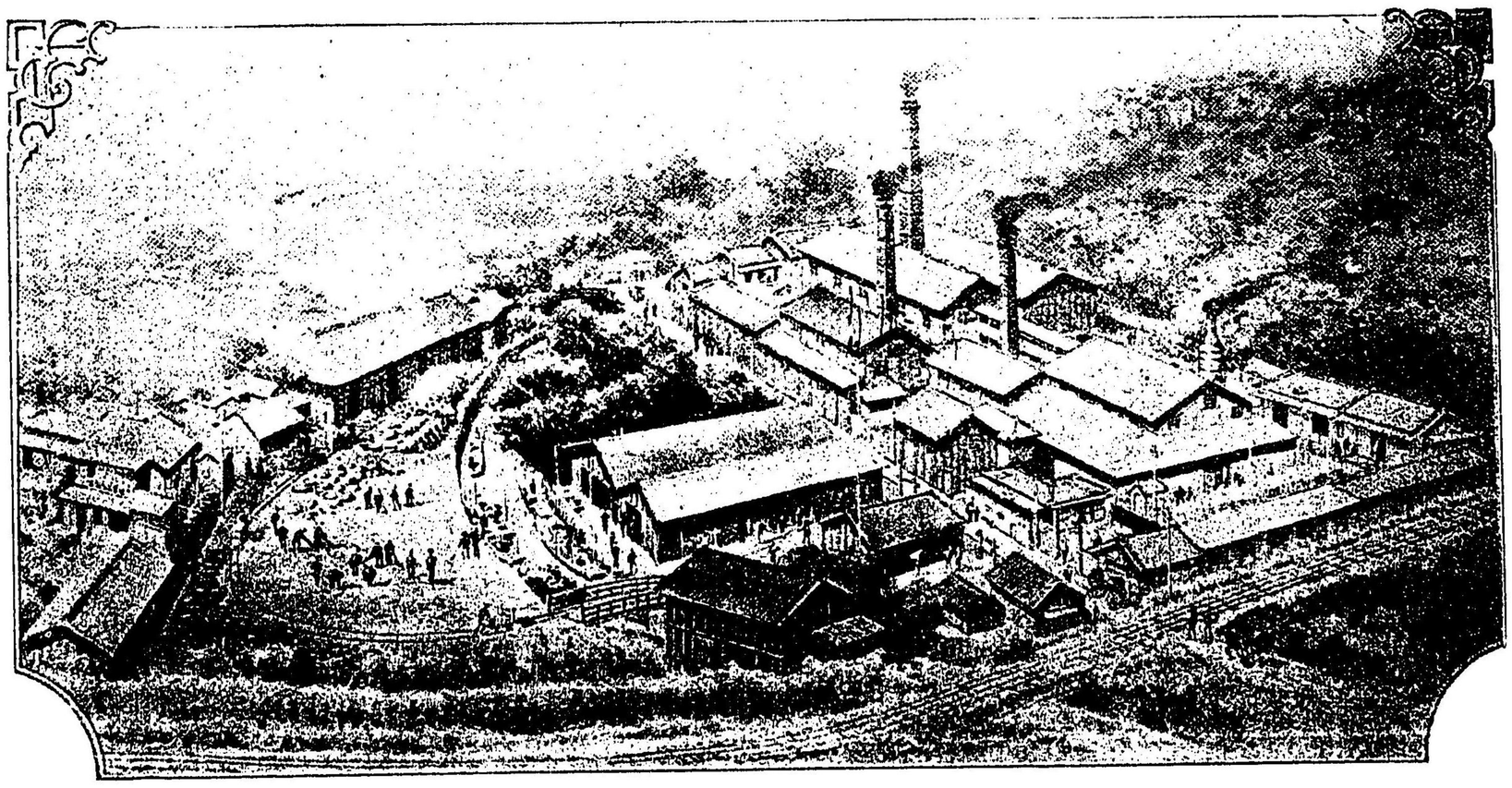
銚子港山本喜平君商店之圖



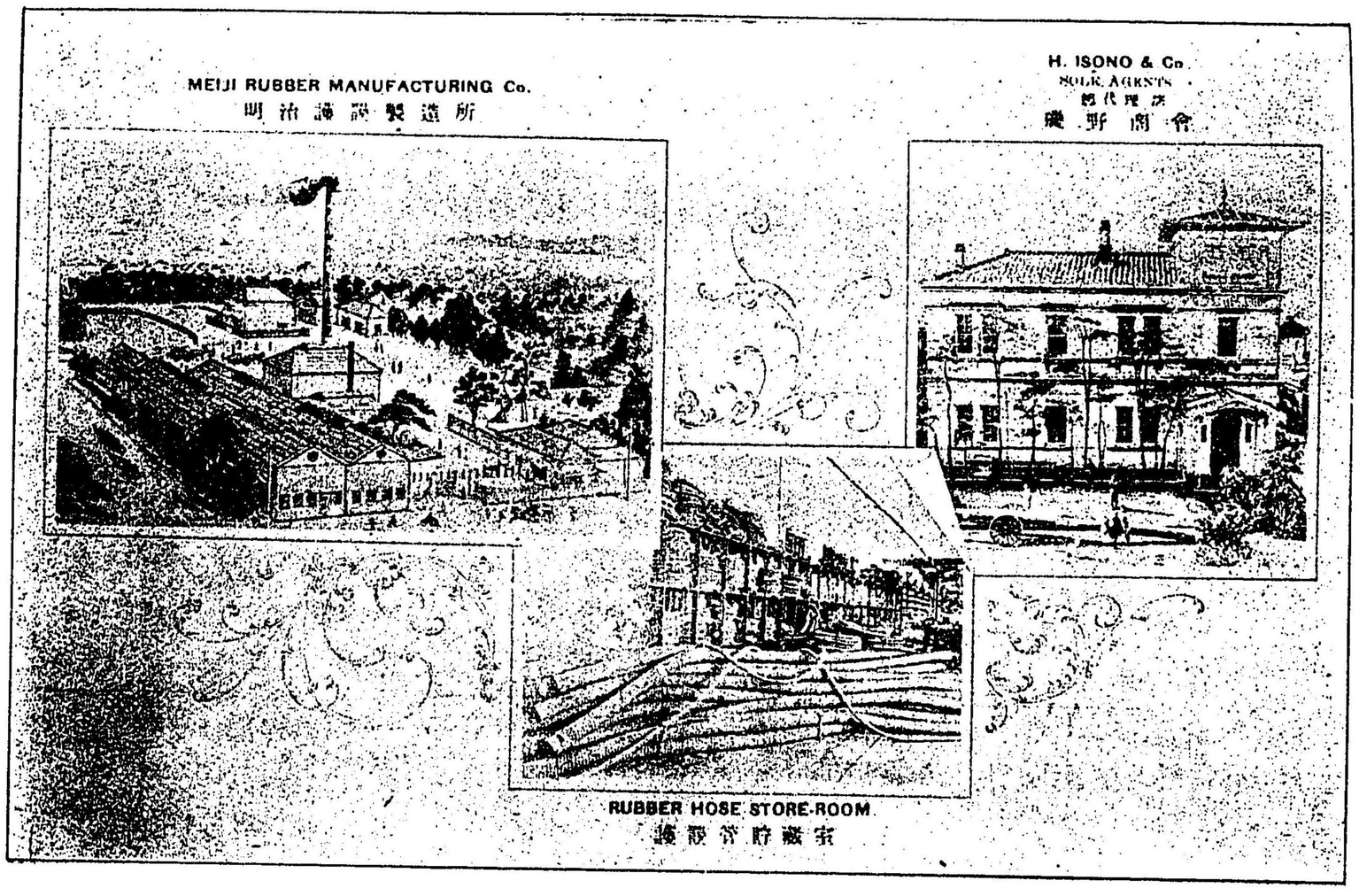
東京瓦斯紡績株式會社之圖



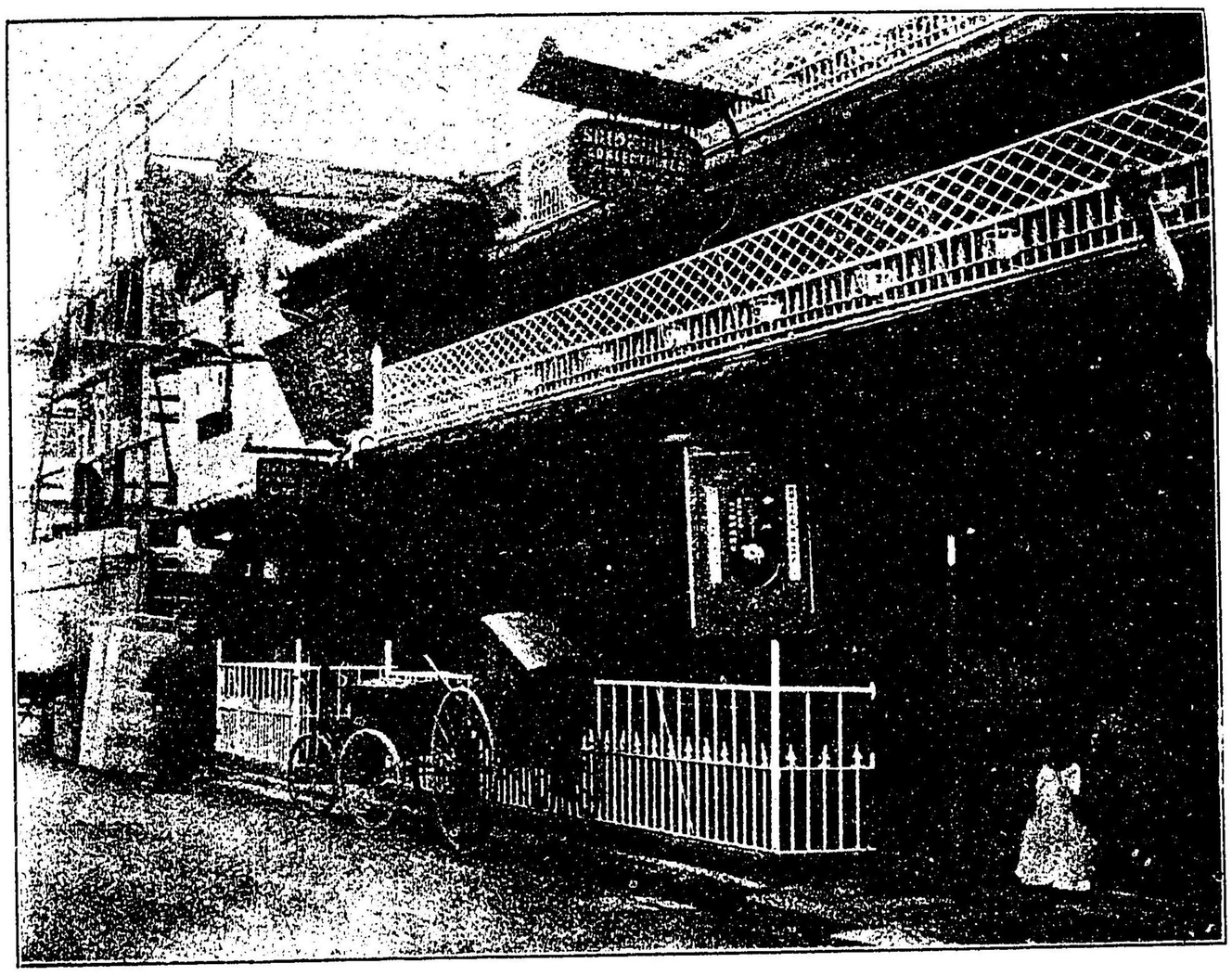
東京瓦斯株式會社第一製造所瓦斯貯蓄器之圖



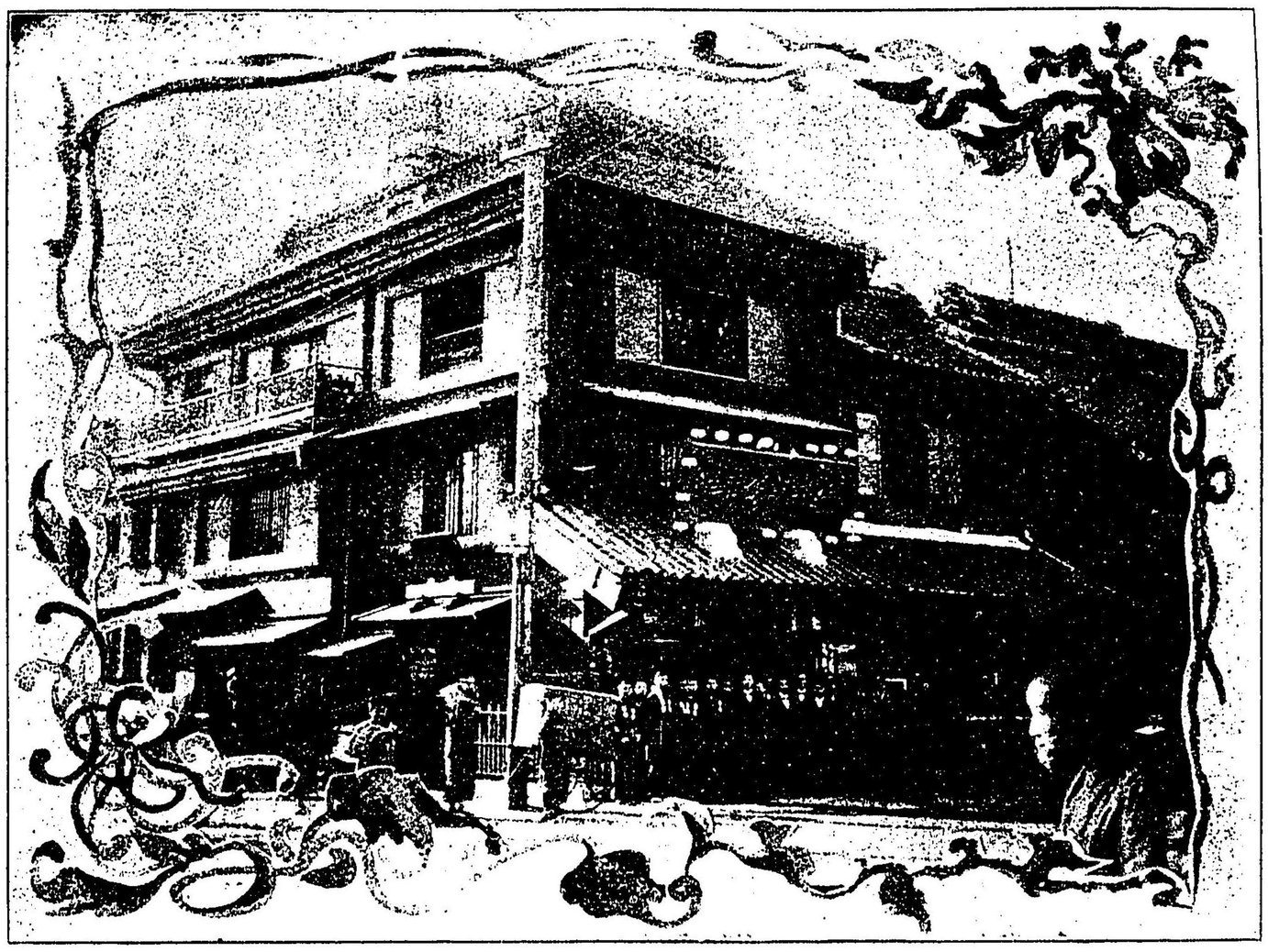
東京品川白煉瓦株式會社工場之圖



明治護謨製造所　　同代理店磯野商會

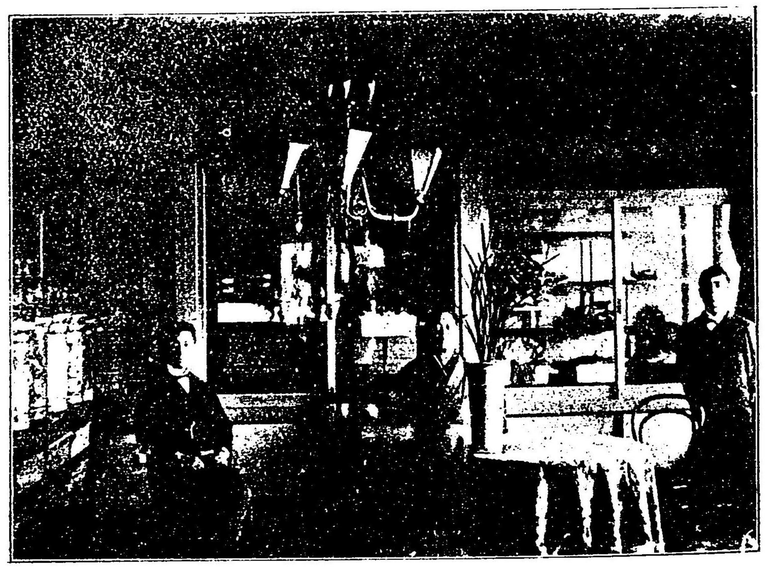


橫濱新杵本店之圖

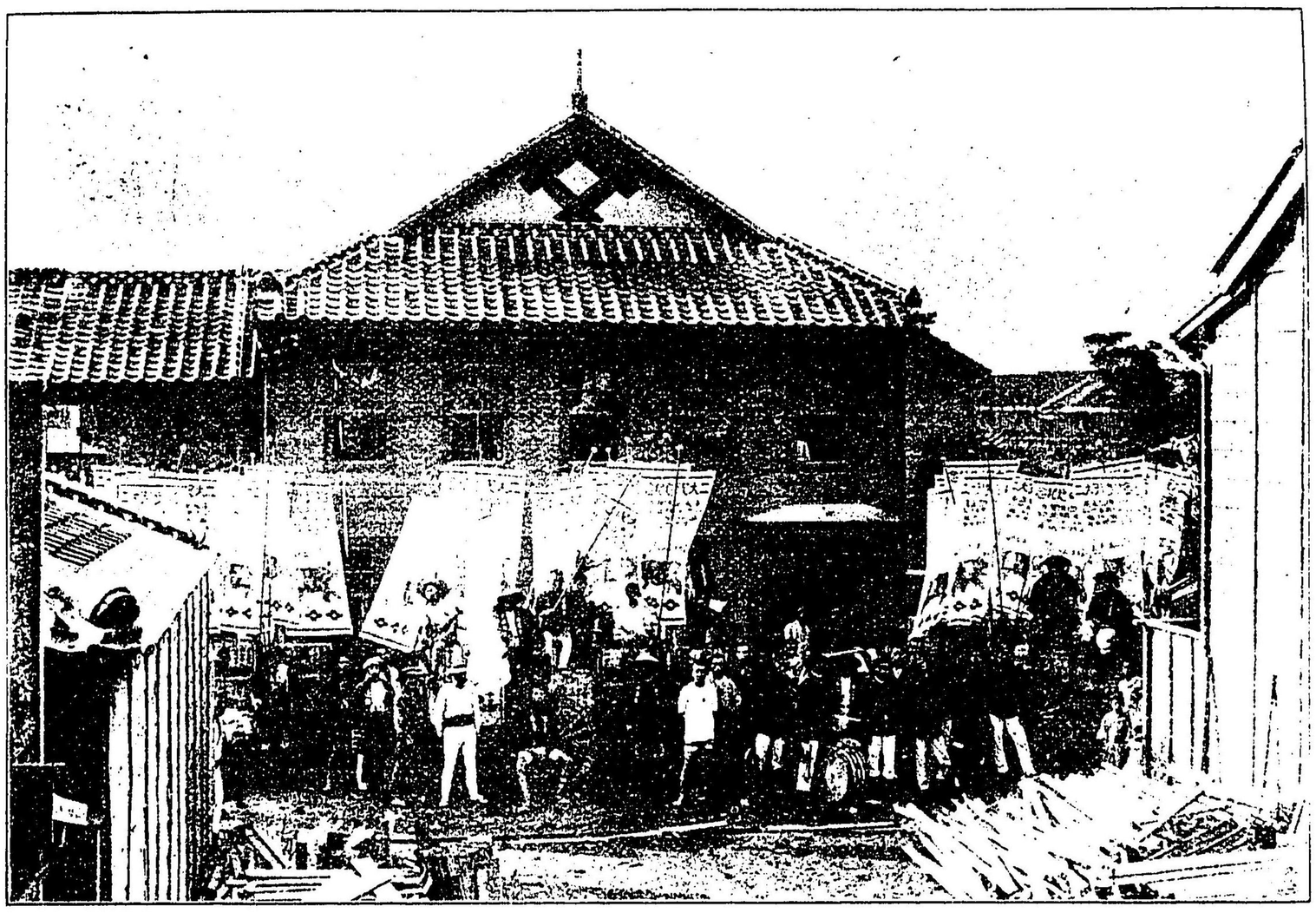


東京新作分店之圖

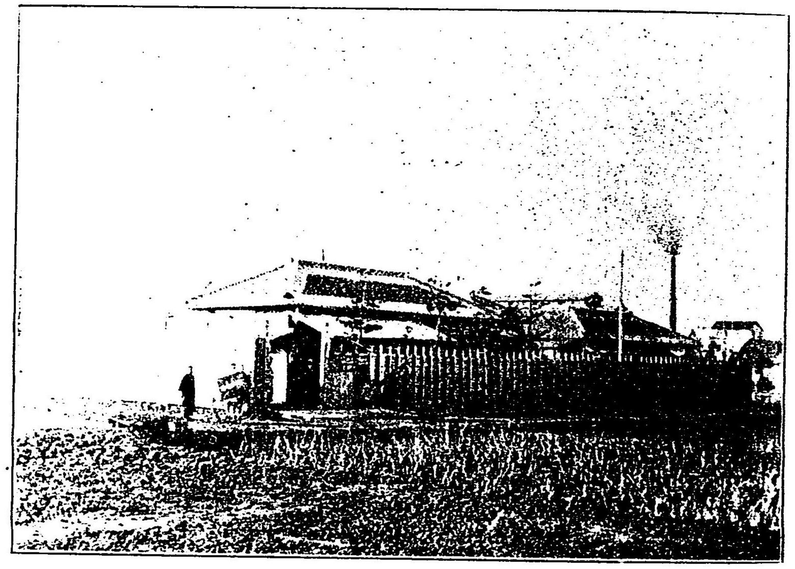
東京新桥分店內部之圖



其二

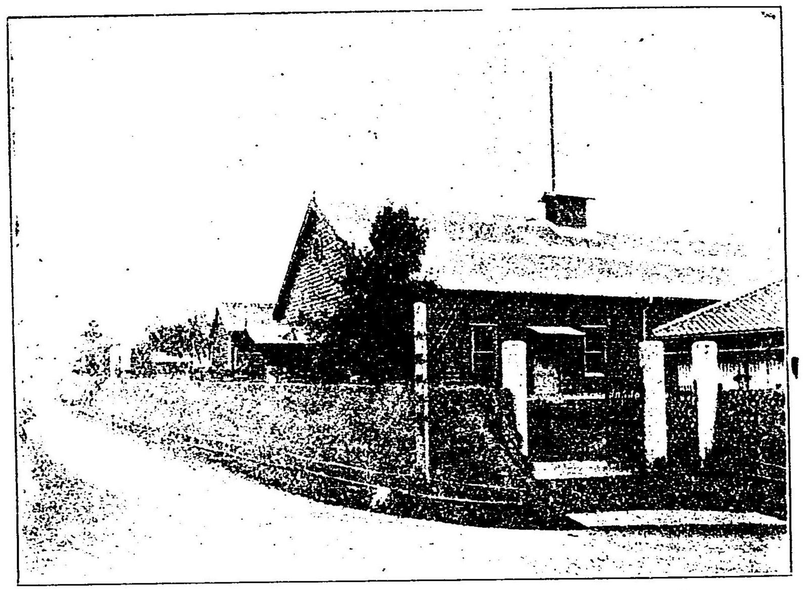


荷蘭國慶十周年紀念荷物發送之光景

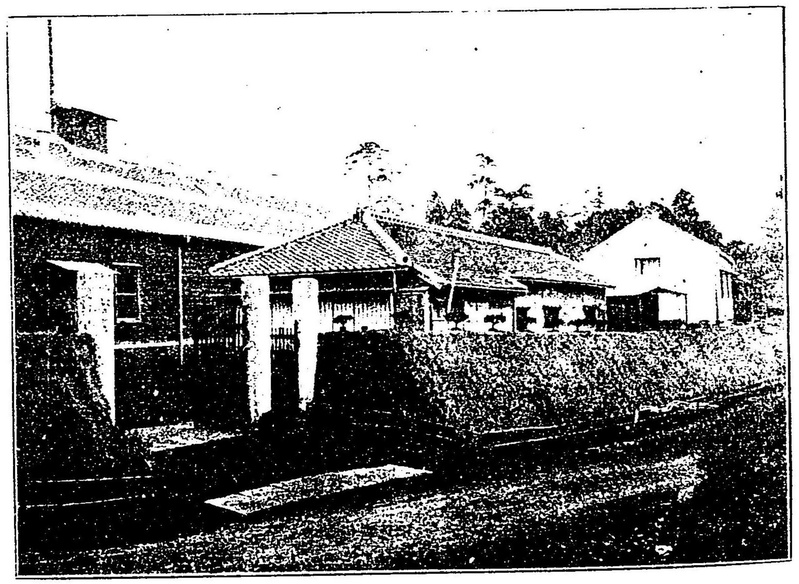


赤十字石鹼井村整與舍之圖

工場內部之圖

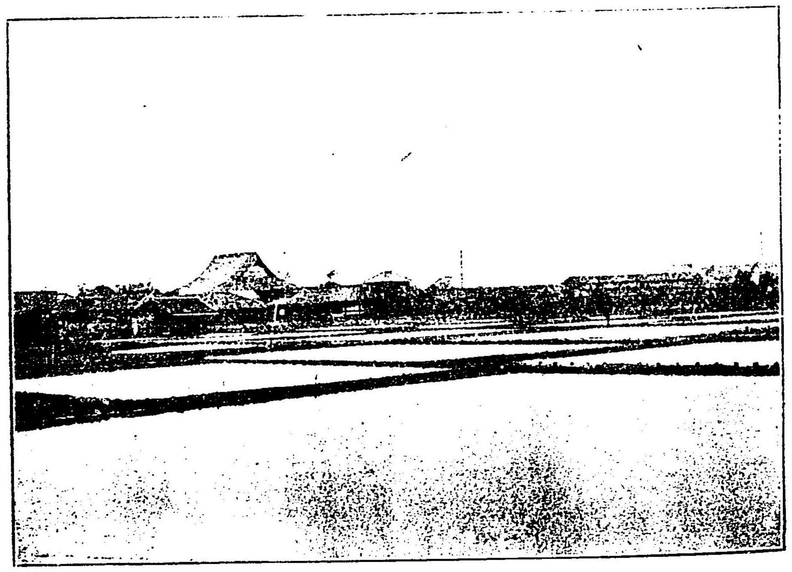


六櫻社寫眞乾板製造場之圖　其一

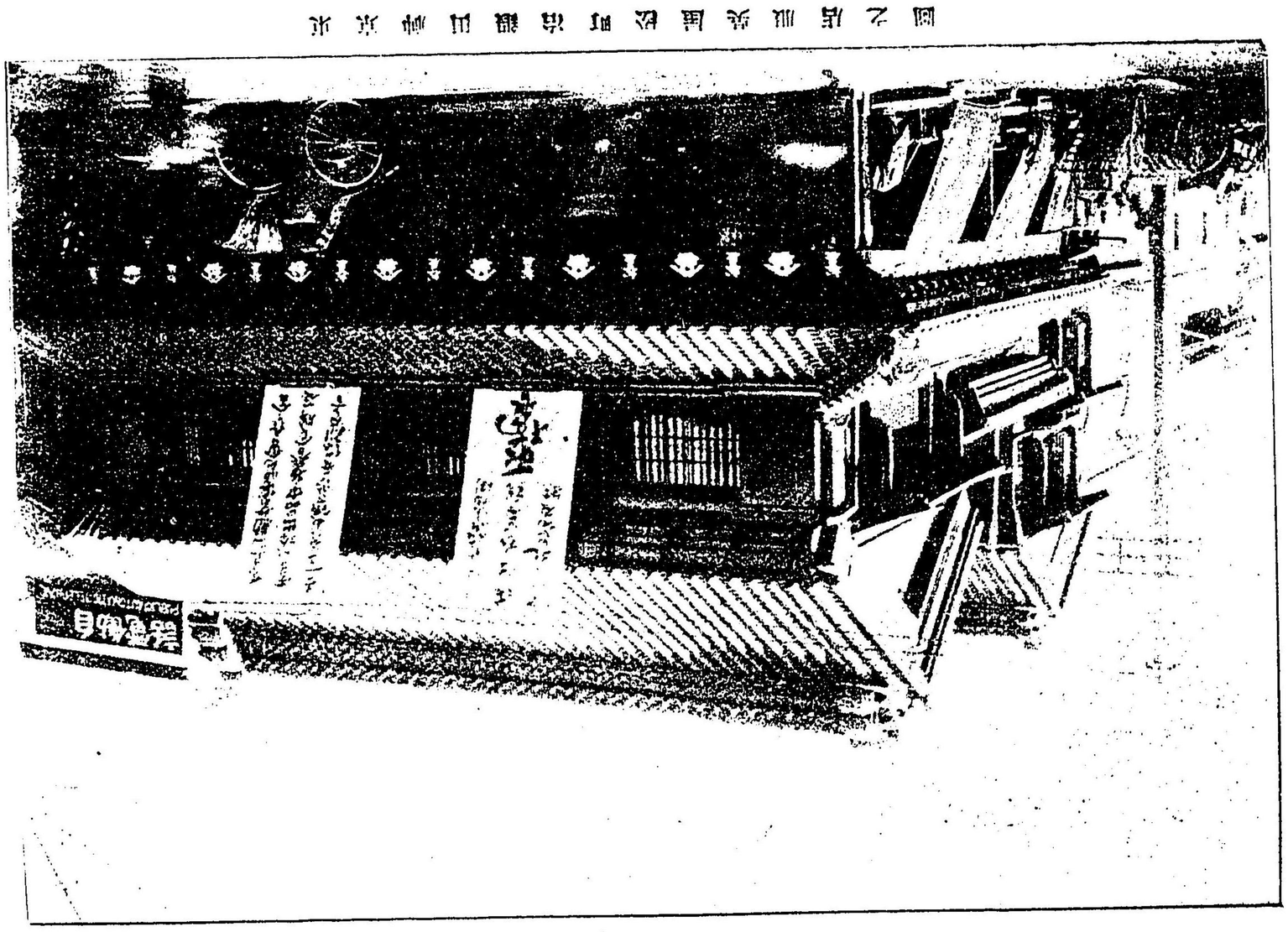


其二

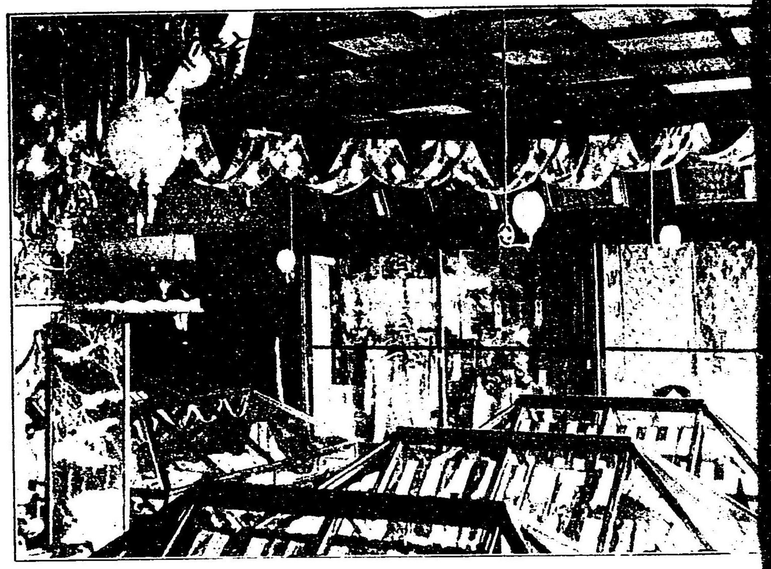
東京魚商組合頭取
鈴木熊吉君



東京木所梅森町鈴木熊吉君養殖場之圖

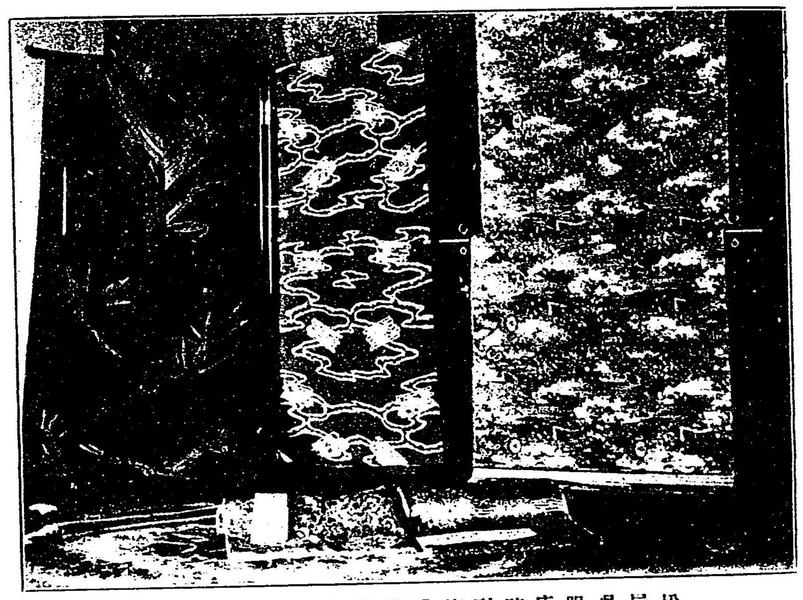


図之塔川洗屋松町治郎川神京北

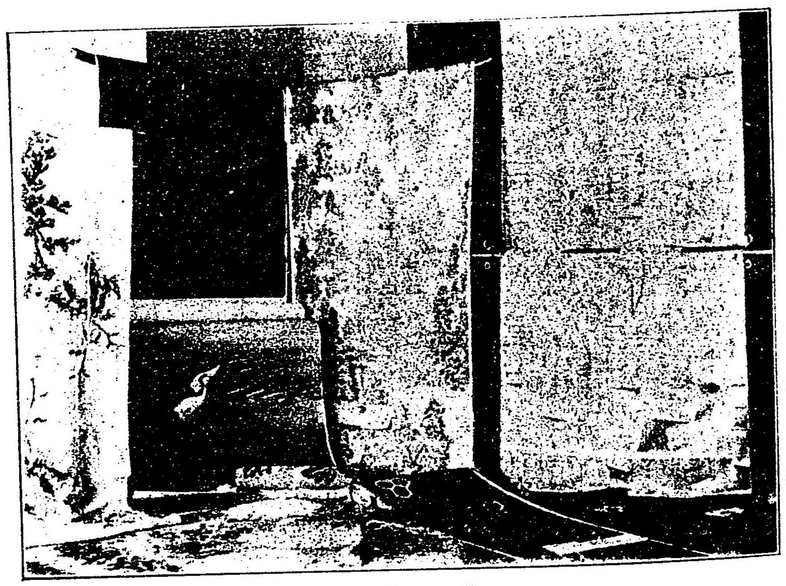


松屋吳服店陳列場受賞品陳列之景 其一

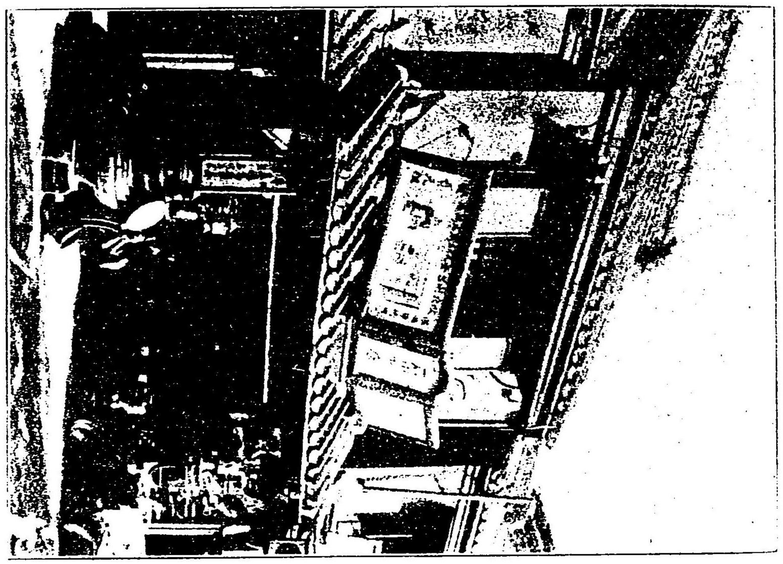
其二



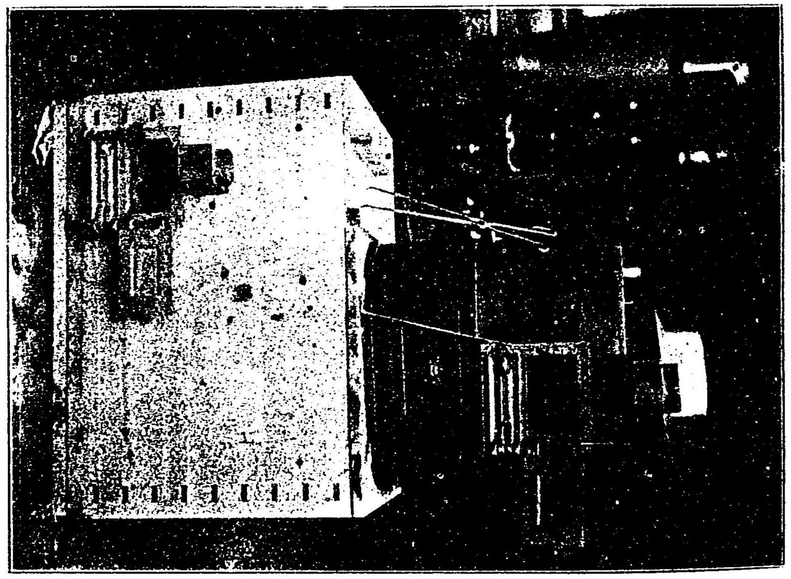
松屋吳服店陳列場受賞品之圖　其一



其二



圖之店商郎五松川石



圖之釜及呂風据賞受

[illegible]丸帶白茶地加茂葵祭の摸様
賣價 五百圓
松屋特製

鹽瀬地丸帶花筏摸様
賣價 三十八圓
松屋特製

塩瀬地丸帶呉竹摸様
賣價 四十二圓
松屋特製

透綾風通菊模様
賣價 十九圓

仝牡丹模様
賣價 十六圓三十錢
二等賞受領 製造人 大嶋與助氏

朱珍小倉式紙摸様
賣價 八十五圓
一等賞受領 製造人 清水半兵衛氏

朱珍胴裏日光全景
賣價 十五圓
二等賞受領 製造人 富田卯三郎氏

塩瀬桔梗染帛紗海邊の鶴
賣價 八圓五拾錢

同旭に若松
賣價 拾五圓五拾錢
松屋特製

中巾友禪縮緬菊模様
賣價 四拾貳圓
壹等賞受領 製造人 廣岡伊兵衛氏

第五回内國勸業博覽會ニ於テ
君代
花鬼 刺繍手巾
御買上榮ノ賜ル
賜二等賞牌手巾各種
東宮兩殿下
賜二等賞牌マヲ各種
絹綿ハンカチーフ
絹首巾巻商
東京市日本橋區葺屋町七番地
中西儀兵衛
電話浪花七百番

中西儀兵衛君

平尾賛平君

小西六石衛門君

[illegible]善兵[illegible]君

前田眞吉君

沓谷瀧次郎君

桐澤潔吉君

桐澤樫八君

佐野韮夫君

下田庄次郎君

任主場工料塗進日

磯矢完山君

六角紫水君

鈴木淺之助君

山路良三君

守田重兵衛君

先代高橋成次郎君

佐藤勝次郎君

松金新次郎君

77-223

凡例

一本書は我邦勸業上功績ある人々の事歴を不朽に傳へ、以て後進者奬勵の資に供すると同時に、所謂本邦の勸業史として、總ての事業の大勢を一目の下に明瞭ならしむるを以て目的とす。

一本書の記事は總て其人に就て之が材料を聞き、原稿作成の上更に之を其人に示して誤謬なきやを訂し、然る後初めて刻版に附したるものなるを以て、毫末の些事と雖も決して其眞實なきを斷言す。

一本書第一編及び第二編は、共に第五回內國勸業博覽會に於ける受賞者のみを蒐むるを以て目的としたるものなるも、既に其書に名くるに勸業功績錄を以てする以上は、其事歷掲載を獨り同會の受賞者に限るは頗る妥當ならざるの嫌あり、之を受賞者の側よりして云へば、從來の博覽會共進會等に出品して重賞を得たる人々の偶ま事故ありて今回の博覽會に出品せざりしものも尠からず、之を受賞者以外の人よりして云へば、受賞者に倍して勸業上に功績ある人も亦た決して尠きにあらざるなり、左れば悉く此等の人々を網羅してこそ初めて勸業功績錄の名に稱ふ

明治 37 1 8 内交

ことをも得べく、又た本書の目的とする、所謂本邦勸業史たるの實をも擧ぐることを得べしと、他より忠告し來るもの甚だ尠からず、其言頗る理あるを以て之を容れ本書第三編以下は先づ第五回博覽會の受賞者を基礎として、其事歷を蒐集するの側ら、他博覽會共進會等の受賞者、及び受賞者にあらざるも特に勸業上功績著しきものは、併せて之を掲載することとしたり、讀者之を諒せよ。

編者識

勸業功績錄　第二編

日本鐵道株式會社

（東京市下谷區上野山下町二番地）

名譽金牌受領

我が日本に於ける私設鐵道會社中最古にして而して最大なるものを日本鐵道となす其營業線路の延長實に八百五十八哩三十六鎖の長きに達し、全國官私鐵道の總延長四千三百餘哩中實に五分の一以上を占む、亦た盛んなりと云ふべきなり、而して其線路の及ぶ所實に東北の咽喉を扼し、加ふるに幾多樞要の支線を以てし、運輸交通の利便之が恩惠に浴すること實に莫大なるものあるは敢て言を俟たざる所なりとす此最大最重の鐵道は果して何人に依りて企圖せられたるか。

其主唱者と重役　此鐵道の創設に際して最初最も力を盡したるを贈太政大臣岩倉具視公となす、公は人の知れるが如く華胄社會中の最も俊傑を以て目せられたるの人

其維新の大業を援けたるの卓腕を拉して、更に之を事業整成の上に揮ひ、身は要路に立ちて施設せる處のもの尠からず、而して公の炯眼なる早くも文運の進化は交通の利便にあるを悟り、乃ち主として此鐵道の敷設に力を竭したるものなるや知るべきなり、當時公と共に此議を主唱したるは高崎正風、安川繁成、安場保和、中村弘毅、大田黒惟信、林賢徳、肥田濱五郎、西村貞陽、小野義眞、蜂須賀茂昭、伊達宗城、藤波言忠、大久保利和、萬里小路通房、武者小路實世の諸氏にして、其顔觸よりして見るに、此鐵道は多く華胄公子の手に依りて作り出されたるを知るべきなり思ふに此等の人岩倉公の勸誘に依りて此議に贊したるか、將た公此等の人に推されて其主唱者となりたるか、編者之を知らずと雖も、何れにせよ此鐵道に對する諸氏の功勞は沒すべからざるものあり、今や此鐵道は施設益々其宜しきを得て、全國鐵道中の第一位を占め、國家に貢獻する處極めて尠からざるを見ば、主唱者諸氏の本懷果して如何、其今日に現存して此盛況を目擊せる人々は言ふを俟たず、既に逝ける岩倉公を初め其他の人々も、亦た喜んで地下に瞑すべきなり、斯の如くして此等の人は一意其經營に任じ、種々の困難を犯して工事に着手し、十六日を以て其創立を允可され、且つ特許條約書を下付せられたり、是に於て全會社は其重役を選みたるに、最初社長の任に上りたるは吉井友實氏にして、而して理事員として鐵道の線路に沿へる各府縣より一名宛を選擧し、其人員十八名を得て之を

上任せしめ、副社長は當時別に之を置かずして、理事員中代理之を勤務したり、斯の如くして此等の人は一意其經營に任じ、種々の困難を犯して工事に着手し、十六年七月初めて上野熊谷間の運輸を開くに至りたり、十七年五月初めて專任副社長を置き、北川亥之作氏之に任せられしが、全年七月に至りて吉井氏社長の任を辭したるを以て、全年十月奈良原繁氏を社長に選任す、二十二年七月に至り、北川副社長病死し、小野義眞氏之に代り、全九月二日上任したり、二十五年三月奈良原氏社長を辭め、小野副社長之に代り、毛利重輔氏副社長に任せらる、三十一年三月社長の改選に際し、小野氏退ひて毛利副社長之に代り、而して副社長は欠員のまゝとせり全年八月更に社長の改選あり、乃ち現任社長たる曾我祐準子之に選ばれ、毛利子再び副社長となりたるが、翌年二月に至り氏は辭任したり、三十三年十二月取締役中有島武、久米良作の兩氏常務取締役に選ばれ、以て今日に至れり、而して現今其他の取締役は富田鐵之助、角田林兵衛、二橋元長、澁澤榮一、菊池長四郎、若尾幾造渡邊福三郎、青山幸宜、園田孝吉の諸氏にして、又た監査役は安川繁成、林賢徳、久野昌一の三氏なりとす、以上列記の重役諸氏が如何に全會社の經營に對して盡したるかは、現今全社の隆盛に徹して知るべきなり。

工事の困難　初め日本鐵道の工事に着手せるの時に當つてや、文運未だ甚だ開けず人民尚ほ鐵道の利便を感ずるの念薄くして、時に之が敷設に妨害を加ふるものなき

にあらず、又た其土地買收の如き、或ひは不當の代價を貪らんとする者あり、種々の困難を經て漸くに土地の買收を了し、而して其工事に着手せんとするや、民間之に經驗あるの技師工夫等あるなく、爲めに政府に依賴して、政府の技師と工夫とに依り、之を敷設するの止むなきに至りたり、而して其工事の設計は全線路を五區に分ち、最初は線端を品川に起すの豫定なりしも、後之を變更して上野を起點とし、之より高崎に至るものを第一區と定め、品川よりは別に赤羽に至るの支線を敷設することに決したり、斯くの如くして工事の材料は無論同會社に於て一切を購ひ、而して之に從事するものは技師長より工夫に至るまで俸給を悉く同會社に於て支拂ひたる上、政府の手に依りて愈々起工することとなり、右五區の大別中更に之を小區分して日子を費し、漸くにして此間三十八哩の工を竣へ、十六年七月二十八日を以て初めて之が營業を開始したり、而して右の竣工と共に、直ちに第二小區分たる熊谷本庄間の工事に着手し、全年十月二十一日之が營業を初め、第三小區分たる本庄新町間は十六年五月の起工にして、全年十二月二十七日之が業を初め、新町高崎間、高崎前橋間亦た同時に起工して、前者は十七年五月一日に、後者は全年八月二十日に運輸開通し、又た其支線たる品川赤羽間は十七年一月に起工して、十八年三月一日に開業し、是にて全く第一區幹線六十九哩九鎖、支線十二哩七十六鎖の工事を竣りた

り、第二區は大宮より白河に至る九十九哩三鎖のものにして、其小區分たる大宮宇都宮間は十八年一月起工して、全年七月十六日開業し、宇都宮西那須野間、西那須野黒磯間、黒磯白河間は十九年三月同時に起工して、而して第一は全年十月一日、第二は全年十二月一日、第三は二十年七月十六日何れも開業の運に至りたり、第三區線は白河より仙臺に至る百〇一哩餘のものにして、其小區分たる白河郡山間、郡山仙臺間共に十九年六月起工して、前者は廿年七月十六日、後者は全年十二月十五日開業し、又其支線たる鹽釜線岩切鹽釜間四哩餘も同時に起工し、二十年十二月十五日開業したり、第四區線は仙臺より盛岡に至る百十二哩六十鎖にして、其中仙臺岩切間は十九年六月起工して二十年十二月十五日開業し、岩切一ノ關間は二十一年四月起工して、二十三年四月十六日開業し、一ノ關盛岡間は二十一年九月起工して二十三年十一月一日開業したり、又た其支線たる小山水戸間は他の手に依りて二十年八月起工し二十二年一月十六日開業したるものなるを、二十五年三月一日全社に買收したるものにして、此延長は四十一哩餘なりとす、同じく其支線たる日光線は、其延長二十五哩にして、之を二小區に分ち、宇都宮今市間を二十三年一月起工して、全年六月一日開業し、今市日光間を全年三月起工して、全八月一日開業したり、同じく其支線たる秋葉原線は上野より佐久間町に至る延長一哩十五鎖のものにして、二十三年四月に起工し、全年十一月一日開業したり、第五區線たる盛岡青森間は、二

十一年五月起工し、二十四年九月一日開業したるものにして、此延長百二十六哩餘なり、是れにて支線は未だ完了の域に至らざるも、幹線のみの總延長を以てするも實に四百五十六哩七十一鎖の長きに達したり、而して之に要したる工事年數を積算すれば、前後殆んど十年の長日月を費したるなり、以て其難工事たりしを知るべきなり、其他右列記の諸線の外尻内湊間五哩餘は二十六年七月起工して二十七年十月一日開業し、南千住友部間五十九哩餘は二十七年十一月起工し、海岸線田端隅田川間二哩五十二鎖は二十八年五月起工して、而して右の兩者は共に二十九年十二月營業を開始し、前橋小山間五十哩七十五鎖は三十年一月兩毛鐵道會社より買收し、水戸岩沼間百四十一哩餘は二十八年二月起工して、三十一年八月開業し、田端池袋間三哩二十鎖は三十五年一月起工して三十六年四月一日開業したり、是れにて現今同會社が營業せる所の全線の開通を告げたるものにして、其總延長實に八百五十八哩三十六鎖に達し、而して百九十九の停車場其間に介在す

以上記す所の各區間延長哩數と起工及開業年月とに徴し、全會社が如何に着々此大工事を進行したるかを見るべきなり、由來東北の野交通最も開けず、加ふるに山河の多きを以てす、十年間の大工事、思ふに其間言ふべからざるの困難は一にして足らざりしならん、加ふるに其初めや多く經驗なきの人を以てし、纔かに政府の手を借りて起工したる程の有樣なるに於てをや、而して能く此大事業を成遂し、國防上

に運輸上に、幾多の恩惠を與へたる全會社の功勞は世人の齊しく感謝せざるべからざる所なりとす、其後二十六年に至り、更に上野大宮間に複線を敷設し、茲に愈々運輸上の完全を得たり、今其線路に就て見るに、隧道を有すること六十餘、橋梁を架せること實に七百有餘、中に就て海岸線利根川鐵橋最も長く、三千百呎を算す、而して幹線は多く政府の手を借りて成就したるものなるも、支線は大抵全會社自己の手に成りしものなりとす。

陛下の臨幸　私設鐵道の開通に際して、陛下臨幸の榮を荷ひたるもの、他會社多く其類例を見す、日本鐵道は曾て其上野高崎間開通の時に際して、恰かも明治十七年六月二十五日　天皇陛下の行幸を辱ふし、超へて三日　故英照皇太后及　皇后兩陛下の行啓を辱ふし、更に十九年六月第二區利根川鐵橋工事の成るに及んで　天皇陛下の行幸を辱ふしたるとあり、全橋は當時實に日本第一の大鐵橋たりしなり、今日は鐵道事業益々發達して、之に優るの大鐵橋を見るに至りたりと雖も、當時にありて千三百餘呎の大鐵橋を架設せんと實に容易の業にあらざりしなり、左れば同年七月該橋天覽として再ひ　行幸在せられ、玉車上野を發して此橋梁にかゝるや、特に其運轉を徐め、蜿々大河を横ぎるの際　陛下は車窓より親しく橋梁を御覽あり、大に之を御嘉賞あらせられたりと云ふ、獨り此橋の光榮のみならず、又た全會社の光榮と云ふべきなり。

資本額　此我國第一の大私設鐵道は果して幾許の資本に依りて成就せられたるか、其創立の際に當りては僅かに二千萬圓を以て成就せらるゝの豫算なりしなり、蓋し當時に在つては物價極めて廉に、諸賃金の如き亦極めて低かりしなり、左れば二千萬の小資本額も當時に於ては充分なりしならん、然るに物價は日一日に昂騰し、未だ數年ならずして其資本の不足を感じたると、支線の建設に多額の資本を要したる爲めに增株をなせること數回に及び、終に今日總額六千六百萬圓、拂込高四千六百五十萬圓の大資本を有するに至りたり、而して通常諸會社の增株の如きは、廣く之を全國に募るを例とせるに拘はらず、仝會社の最も特色とする處は、數回の增株未だ一回も之を他に募集したることなく、總て之を舊來の株主に割當て、更に其不足を生じたるとあらずと云ふ、以て愈々其基礎の鞏固なるを證すべきなり。

營業成績　仝會社の營業成績は常に順潮を以て進み、十六年始めて營業を開始せるの際、既に一割の利益配當をなし、十八年上半期より二十年上半期に渉り、爾來常に一配當の一割以下に下りたることあるも、仝下半季より更に一割に復し、左れば初め其工事着手の時に當り當事者割内外を配當し、以て今日に至り居れり、左れば初め其工事着手の時に當り當事者何れも營業の困難なるを思ひ、其不足額に對して政府の補給を得んことを乞ひ、政府之を許して八分の補給をなすことなり居たるにも拘はらず、第一區開業の成績極めて良好にして、殆んど之に對して補給を受けず、第二區亦た同樣にして終り、第三

區は其一部開業の時に際して多少の補給を受けたるも、是亦た須臾にして已み、只だ第四、第五兩區に對しては、多少の補給を受くることゝ云ふ、以て其營業成績の極めて良好なるを見るべきなり。

内部の組織　仝會社現今の組織は庶務、主計、出納の三課及び營業部を以て成立せり、初め營業部は運輸、汽車、保線、工作の四課に分れ居たるも、本年改革の結果之を一部に纏め、多少の人員を減じたるが、本年六月三十日現在の仝會社職員職工等は、實に一萬千七百二十五人の多數なりとす、以て其組織の大なるを見るべきなり。

工作場　仝會社は先年大宮に一大工場を設立し、自己所用の車輛は一切此工場に於て製作するのみならず、尚ほ其餘方を以て他會社の依頼にも應じ得るの設備をなし其他の諸品亦た多くは此工場に於て製作しつゝあり、而して偶ま車輛等の破損修繕を要するものゝ如きは、一々之を仝工場に廻送せんと、長距離の線路に在りては甚だ困難の事なるを以て、是等に對しては更に其附近に於て之を修繕し得る樣要所々々の機關庫に小工場を設けて、諸般の設備全く整頓せるを見る。

運輸上の設備　仝會社は三百十一輛の機關車、八百五十二輛の客車、四千四百九十三輛の貨車を有し、寢臺車、其他の設備に就て、敢て他の官私線に後れざるは勿論乘客に對しては常に出來得る限りの便利を圖らんとを期し、常に孜々として之が實

行に力めつゝあり、彼の時季に應じて回遊列車を出す等億の機先を制せるもの亦甚だ尠からず、又た貨物の運輸に對しても、出來得る限りの設備を施し、收入は往々旅客收入を凌ぐことありと云ふ。

受賞の薦文　今回全會社の第五回內國勸業博覽會に於て名譽金牌を受領したるは其鐵道事業經營及び出品の車輛に對したるものにして、而して其薦文は左の如し。

日本に於ける最初の私設鐵道會社にして創立以後鋭意業務の擴張を圖り日本最大の鐵道會社として運輸交通に資し明治二十七八年の戰役に於て軍隊の輸送を擔任したる等其功績特に賞揚すべし

其最上の賞を得たる亦た偶然にあらざるを見るなり。

醫科器械製作業

前田眞吉君

（東京市淺草區東三筋町二十三番地電話下谷二一五六）

名譽銀牌及二等賞受領

第五回內國勸業博覽會に醫科器械の出品甚だ尠からず、而して名譽銀牌を得たるもの、全國中只君一人あるのみ、此一事既に以て其精巧なるを知るべきなり、君の家斯業を營むこと既に數十年、代を重ぬる事三にして、實に斯業第一の老舖たり、而して皆俊光を以て號となす、初代俊光氏は其名を與吉と呼び、上總の人なり、安政四年六月初めて東京市淺草區淺草寺地內に外科道具と稱する、則ち今の醫科器械及器具の製造業を起し、能く之に精熟して、以て其家名を起したり。

二代俊光氏は其名を眞吉と呼び、下總八幡の人岩澤佐五衛門の男にして、幼名を友吉と稱し、弘化四年を以て生る、十四歲にして斯業を研究すること實に十五年、能く勵精の功を積んで、初代俊光氏の門に入り、其技衆に擢んずるものあり、初代俊光氏之を愛し、乃ち養ふて子となし、其家を讓る、是に於て氏は二世俊光と號し、益々斯業に勉勵し、維新前諸名醫の用ゐたる外科諸道具の如き、多く其需要を茲に仰ぎたり、明治二年第一大學區醫學校の創設せらるゝや、氏先づ召され

て其外科道具御用達となり、爾來其名稱幾多の變更を見たるも、依然醫科大學の御用達を繼續して、以て今日に至れり、次で明治四年十月軍醫寮の創設せらるゝに當り、亦た其御用達を命せられ、今日其陸海軍病院と改めらるゝに至るまで、尚ほ依然として其御用達を繼續しつゝあり、而して更に明治二十一年宮內省侍醫局御用を仰付けられ、是亦た今日に至つて更に變ずるとなし、其他各縣立公私立病院及び諸大醫等の用達たること枚擧に暇あらざるなり。

明治十三年初世俊光氏死し、爾來二世俊光氏は益々世技を顯はして、能く家門の隆盛を極め、業に從ふこと前後四十年の長きに及び、而して其間子弟を敎養すること甚だ多く、現今其門下にして業務を營めるもの實に二百名を下らず、特に東京及び大坂に於て相當の地位を保てるもの、亦た實に數十名を下らずと云ふ、斯くの如くして二世俊光氏の斯界に貢獻せる所のもの甚だ尠からざりしが、惜ひ哉三十三年十一月二十二日腦出血を以て斃るゝに至りたり、聞くもの之を惜まざるはなし。

君は二世俊光氏の四男にして、明治十五年十二月を以て東京市淺草區西鳥越に生れ、尙弱冠の身を以てして能く祖業を繼ぎ、三世俊光と號して、以て今日經營の任に當りつゝあり、君資性溫厚篤實にして、敢て聊かも誇慢の念なく、一意斯業に奮勵して更に他意あるなし、其行動實に今日群青年の模範とするに足るべきものあり、二世俊光氏曾て一の家憲を遺して曰く、他人の說く所苟くも之を輕視する勿れ、能く

之を試みよ、之を驗して、而して後に其取捨を決せよと、是れ最も服膺すべきの金言なり、蓋し世間多くの人、他山の石以て己が玉を磨くべきを知らず、輕々しく人言に聞きて以て其身を誤るもの、將た人の忠言を容れずして反つて其身を損するもの、來れば滔々其比にあらざるはなし、若夫れ仔細に人言を味ひ、其採るべきを採りて棄つべきを棄て、以て之を其心に收むれば、處世の上に資すること果して幾許ぞ、君最も此金言に服して、能く謹嚴愼重、敢て苟くも人言を忽かせにせず、仔細に味ふて徐ろに其取捨を定む、其思慮の綿密なる老人も及ばざるものあり、是れ實に君が弱冠の身を以て能く家門を襲ぎたる所以にして、而して又た其聲名を益々隆昌ならしむる所以たり。

君の令兄を俊彥氏と云ふ、蒲柳の質自ら家門を襲ぐの任にあらざるを悟りて家を君に讓る、而かも家政と業務と併せて之を君に委ねんは、其伎の發達を得る所以にあらざるを知り、自ら內政を管理して君に後顧の憂なからしむ、茲を以て君は一意專心其業務に勵精して、復た他を顧みるの要あらず、依て以て愈々其伎を速達せしむることを得、君常に曰く、余の家門を繼承し得る所以のものは、余の伎の發達を君に委ねたるにあらずして、父が遺せる金言の、日夜余が一身を守護して以て其方向を誤らしめざると兄の慈能く余を扶けて意を玆に專らにせしむるとにあるのみ、余や何の伎倆あるなし、只だ父と兄との恩惠に依て行動するのみと、其心事の優にして美なること如の如

し、業に當つて能く忠實なる亦た故なしとせんや、其十三歳市めて業に就てより今日に至るまで僅かに九年、而して其伎其倆能く老大家を凌ぐに足るものある、一に其優美なる心事の存すればなり、編者は此點に於て最も君を賞揚せずんばあらざるなり。

君の家初世俊光氏以來其製品の精巧なるを以て賞與を得たると勘からず、則ち初世俊光氏の時にあつては、明治六年澳國維納府大博覽會に外科道具を出品して賞與を得、仝十年第一回内國勸業博覽會に卵巢器械を出品して龍紋賞牌を受け、二世俊光氏の時にあつては、同じく第一回勸業博覽會に眼科器械、顯微鏡器械等を出品して龍紋賞牌を得、仝十四年第二回博覽會に切斷器械、口内手術器械　尿道器械等を出品して有功一等賞を受け、仝二十三年第三回内國勸業博覽會に、其製造の切斷器械を、岩本五兵衛氏の名を以て出品し、有功二等賞を領し、仝二十八年第四回内國勸業博覽會に、其製造の眼科器械を、岩本金藏氏の名を以て出品し、同じく有功二等賞を授かり、而して君の代に至り、則ち本年第五回内國勸業博覽會に、外科刀及截除刀を出品して能く斯業唯一の重賞たる名譽銀牌を得、又た同時に出品したる眼科器械に對しては、二等賞牌の重きを授かりたり、而して其外科刀截除刀の受賞薦文に曰く。

本人の出品に係る外科刀及截除刀は製作極めて巧緻にして之を數回煮沸消毒するも毫も刀刃の鋭利を損することなく頗る優群のものとす

嗚呼此最重の名譽銀牌、能く幾十百の老同業者を凌ひで、獨り此一青年の手に受けたりとせば、人誰れか其伎の卓絶せるに感せざるものあらんや、而かも君決して之を以て己れを誇らず、一に父祖の餘光に顧客の教訓愛顧を加へて得たるものとし深く之を世に向つて謝せりと云ふ、其謙なる實に愛すべきものあり、尚二世俊光氏の門人にして、今回の博覽會に醫科器械を出品し受賞したるもの、東京大坂を合して十數名の多きに上れりと云ふ、亦た以て君が家門を照すの一端たらんか。因に君が出品して受賞せる眼科器械は、宮内省御買上の榮を蒙り、又た其外科刀截除刀は購求の申込をなすもの甚だ多きを以て、君は一に輿へて一に不平を買ふとを虞り、一切の申込を謝絶して、而して之を赤十字社病院に寄附する筈なりと云ふ、亦以て其志のある所を見るべきなり。

右の名譽銀牌を得たる外科刀及截除刀は能く外科手術に就て應用なし得るやう組合せたるものにして、各刀共總て外科專門醫の撰定を經て製造したるものなり、而して此品の特長とする所は、鋼鐵地金を精選し、刀刃をして長く使用に耐へしむるやう、多年の經驗と練磨の技術とに依り、最も精巧に製作したるものなれば、其鋭利なること殆んど他に比を見ず、又た其附屬刀架は、消毒の際刀を之に載せたるまゝ消毒し得るやう、特に新案したるものなりと云ふ、又た其二等賞を得たる眼科器械は

眼科一般の手術に應用なし得るやう、組合せたるものにして、是亦諸器械共總て專門醫の選定を受け、而して之を最も完全なる容器に納め、器械を使用する時、其容器は消毒器を兼用なし得るの構造なり、本器内容品たる刀、剪刀、錄子其他の製作に就ては、從來の製品は鋼鐵其儘なるを以て酸化し易く、甚しきは消毒後使用するに際し、已に錆を生じて使用に耐ゑ難きものも多く、各專門醫の最も遺憾としたる所なり、依て君は種々研究の結果、刀刃以外の部分は總てニッケルを以て鋼鐵に代ゑ、之が試用を專門醫に乞ひたるに、毫も鋼鐵と異なるなきの好結果を得たり、依て全刀製作上に一大改良を加ふるに至りるそは君の功に依るものとす、蓋し是等の特長優に其重賞を受くるに足るを見るべきなり。

君の家醫油釀造業を創むること、實に今を距ること百二十餘年、天明二年の往昔にありとす、當時其祖佐平治氏自ら醬油釀造法を案出し、斯業を野田町に開始して、能く精良の醬油を販賣したるより、家運隆々として振興し、今日に至るまで九世を重ねて、連綿敢て異ることなく、追年其製造高を增加して、全國の斯業者に冠たること既に久し、之を以て曾て文政三年同郡梅鄉村字今上二千五百七十七番地に一大釀造場を新築し、更に嘉永六年同郡同村二千五百十一番地に一大增築をなし、此兩所を以て龜甲萬印の釀造場に宛て、又た野田町三百五十番地に在る釀造場を以て、龜甲奇印其他の醬油を釀造することとし、爾後益々原品を撰み、製造法を改良したるより、人氣は愈々之に向つて集注し、交通不便の維新前に在てすら龜甲萬の名は早く全國に普及して、三尺の童子も之を知らざるなきの盛況を呈したり、明治維新の後は其名聲愈々內地に擴まれるのみならず、早く既に外國にまで知らるゝに至り、明治六年には墺國維納府大博覽會に於て賞狀を賜はり、以て外國に於ける日本醬油受賞の嚆

醬油釀造業

茂木佐平治君

（千葉縣葛飾郡野田町）

名譽銀牌受領

矢たる名譽を博したり、次で仝十年第一回內國勸業博覽會に於ては、從來釀造法に熱するを以て、製品頗る優美にして、最も調理に宜しとの理由に依り、花紋賞牌の重きを荷へる等、愈々其名聲の隆々たるを致したり、斯くの如くして益々其製品を精選すると同時に、世の文運に伴ふ諸種の新設備に怠ることなく、彼の醬油にペーパーを貼用する如き、實に明治十二年初めて君の家に於て之を企てたる處にして、當時君の家にては之が僞造を防がん爲め、特に其製造を佛國巴里に注文したりと云ふ其新進の氣象に富めると以て見るべきなり、明治十四年には第二回勸業博覽會の開かるゝあり、君の家又た之に出品して、品位極めて良好、且つ製法其宜しきに適して殊に製額の多きを致す、洵に著明の製品たるに負かず、其有功最も嘉賞すべしとの旨を以て有功一等賞牌を受け、同十六年には和蘭陀アムステルダム府大博覽會に出品して、金牌の重きを受けたる等、愈々內外に其地位を高むるに至りたり、依て愈々其販路に對する新設備を怠らず、十八年六月龜甲萬同奇の兩印商標登錄を出願して許可を受け、十九年には獨乙國政府に、同じく商標登錄の出願をなし、同年十一月其許可を得て、爾來獨乙、和蘭陀、白耳義等の諸國に向け、大に其輸出を計るに至りたり、二十三年には第三回內國勸業博覽會に出品して、香味善良色澤艷麗極めて精良なり、製額亦多し、斯業の勞を觀る、其有功嘉賞すべしとの旨を以て、二等有功賞牌を受領し、同年東京市なる時事新報社にては、該博覽會出品中の百種を選

み、最良品を投票せんとを公衆に仰ぎ、此擧に依り龜甲萬印醬油は其最良品と認められ、多數の投票を得、依て同社より金牌を贈與せられたり、二十八年第四回內國勸業博覽會には、品質他に超越し、香味色澤共に佳、製額亦頗る多し、多年經驗の結果に非ずんば、焉んぞ能く此に至らん、洵に斯業の領袖たりとの讃辭を得て、斯業最重の有功一等賞を授與せられ、三十二年には佛國巴里萬國博覽會に於て亦た斯業最重の金牌を受けたり、斯くの如くして其名聲の愈々高まると共に、其販路益々擴張せられ、從來の設備を以てしては、汎く內地の需要に應ずる能はざるのみならず、外國の輸出の如きも、前記の諸國のみならす、更に米國及び布哇、南洋埃洲等愈々著しく輸出額の增加したる爲め、更に之に應ずる新設備の必要に迫られ、三十四年を以て仝郡今上二千五百七十七番地に建坪二百二十五坪二千五百七十七番地に建坪四十二坪仕込高八百石の大增築をなし、又た三十五年中再び二千二百石の增加をなして、終に總計三萬石を釀造するに至りたり、斯くの如くにして今回の第五回內國勸業博覽會には、其出品の龜甲萬印醬油に對し、實に斯業の最重賞たる名譽銀牌の榮を荷ふに至りたり、而して其受賞の薦文に曰く

父祖の遺業を繼襲し經營宜しきを得釀造の器具を改良して方法亦宜しきを致し品質卓絕產額年を追て增加す洵に斯業の摸範たり

此榮賞に接す、亦た名譽と云ふべきなり。

君の先考幼名延太郎氏、明治二十一年十一月十六日七世佐平治氏の隱遁して名を龜雄と改むるに及び、家督を相續して八世佐平治と改めたるが、夙に斯業に熱心にして、且つ博覽宏記、能く一鄉の推服する所たり、曾て安廣伴一郎氏を伴ふて英國に遊び、ケンブリッヂ大學に入つて孜々勉勵する所あり、歸來益々全力を斯業の改善に注ぎ、側ら公共事業に力を竭し、又た官私の事業に金品を寄附したること頗る莫大の額に達したるが、惜ひ哉皇天年を假さず、二十八年十二月十五日を以て溘焉逝去するに至りたり、君は其一子にして幼名文吉、二十九年一月二十三日家名を相續して、九世佐平治と改むるに至りたり、君尚ほ幼未だ自ら家政に與らず、而かも其質聰明にして、栴檀の嫩にして馨ばしきものあり、編者は切に其健全の發育を望んで已まざるなり。

品川白煉瓦株式會社

本社　東京府荏原郡品川町大字北品川三百一番地
支社　大阪府大阪市南區木津三島町
支工場　磐城國石城郡小名濱町

一等賞牌受領

近時社會の益々發達するに從ふて諸工業の愈々隆盛に赴けるは云ふ迄もなき事實なり、而して其工業中特に製鍛、煉銅、造船、鐵工、硝子等の事業は、最も國家必須のものにして、一日も之を忽諸に附すべからざる所のものたり、左れば方今官に私に是等諸事業の發達を企畫すること益々熾んにして、其完全の域に達するも決して遠き將來にあらざるべきなり、而して是等重要なる諸事業は、一として精良なる耐火煉瓦の供給を仰がざるはあらざるなり、若し夫れ工業を以て我國現今の國是なりとすれば、以上の諸事業は其國是中の重大分子にして、而して更に是等の諸事業悉く精良なる耐火煉瓦の供給を俟ちて、初めて其運用を完ふし得べしとせば、又た耐火煉瓦を以て國是中の重大分子なりと云ふも敢て誣言にあらざるべきなり、煉瓦事業

の國家に貢献する處亦大ならずや、而して我國に於て耐火煉瓦を作れるもの、品川白煉瓦會社を以て嚆矢とすとせば、同社の功績決して表彰せずして已むべからざるなり。

同社の創立は實に明治八年に在り、現社長西村勝三君が早くも同事業の國家有益のものたるを悟り、佛國工學士ペレゲレン氏に就て其製造法を研究し、元瓦斯局附屬地たりし東京府芝區芝浦に於て、其一家業として創始したる所に係る、當時は明治維新の後未だ幾許もあらずして、我國の工業は尚ほ極めて幼稚の域に在り、耐火煉瓦製造業の如き未だ一人の之を企圖するもののあらざるのみならず、殆んど其効用すら知らざるもの多きの有様にして、其偶ま之を使用するものは悉く供給を外國品に仰ぎたり、然るに耐火煉瓦は其元價の低廉なる割合に比して、其量極めて重きを以て、外國品を使用せんと欲せば、殆んど元價に等しき多額の運賃を拂はざるべからず、特にシリカ煉瓦の如きは運搬中破壞損傷を生ずること極めて多く、遠く歐州より輸入して能く其全形を保つものは、僅かに全數の半に過ぎざるの有様にして、彼此の損失甚だ大なるものあり、是れ輸入品を使用するの極めて不利なるを證すると共に、本邦に於て是非とも此業を起さゞるべからざる必要ある所以にして、君の率先して斯業に就きたるもの、茲に見る所ありたるを以てなり、然れども未だ其需要は甚だ多からざるに、之が經驗を積むとも極めて薄くして、營業の困難は實に云ふべ

からざるものありたるも、君敢て之に屈するとなく、拮据經營能く之を持續したり、斯くの如くして漸く其需要を增し、茲に業務の擴張を圖るべき機運に際會したるを以て、明治十六年元工部省工作分局に於て起業したる、深川區清住町の白煉瓦工場の拂下を受け、從來の芝浦にありたる工場を此處に合し、伊勢勝白煉瓦製造所と稱して、爾來君は益々銳意此業に從事し、愈々精良なるものを出して全く輸入を防遏せんとを期し、考究研鑽せる所甚だ勘からず、且つ明治十九年自ら歐州に渡航して、斯業に對する精密の觀察をなし、其後更に技手中島宣氏、技師海老名龍四氏を歐米諸國に派遣して、大に研究を遂げしむる等、經營一日として忘れるとなし、斯くの如くして愈々精良の品を出し得るに至りたると同時に、益々其需要を增加して、更に一層規模の擴張を圖らざるべからざるとなり、乃ち明治二十年を以て其工場を府下品川町、即ち現今の處に移轉して、品川白煉瓦製造所と改稱するに至り、君を初め所員一同愈々勵精刻苦する所あり、其間幾多の辛苦を經て、茲に業務成功の域に進み、二十七年に至りては、最も强熱度に耐ゆる所のシリカ煉瓦製作を發明いして、之が專賣特許を得るの盛運に達せり、爾後其業務を繼續し、三十三年七月に至り、愈々事業擴張の趣旨を以て其組織を合資會社に變更し、品川白煉瓦合資會社と改稱したり、斯の如く日進月歩其盛運を來すと共に、原料を要するとも一層多きを加へ、乃ち愛知、福島、茨城、岡山等の各縣下に

於て、豐富なる原料地若くは原料採收地を所有するに至り、特に三十四年中大阪市附近に於て、最も良好なる耐火の原料を發見し、同年一月より初めて之が採堀を施し、殆んど半ケ年餘の試驗を經て、其品質の極めて善良にして、且つ極めて饒多なるを確認し、同年八月其原料地を買收したるより、愈々同事業を擴張する一大基礎を作るに至りたり、是れ獨り同社の幸福たるのみならず、又た實に本業の爲め將た國家の爲め得難きの大幸福なりと云ふを得べし。

方今同社に於て製造せるものゝ種類を大別すれば、礬土質耐火煉瓦、硅酸質耐火煉瓦、耐酸煉瓦、耐火モルタル、ガニスターサンド、シルバーサンド、假定セメント試驗用標準砂等にして、更に之を小別すれば、實に幾十種の多きに及ぶも、煩を避けて今之を錄せず、以上の製品何れも其精良なるは云ふ迄もなく、殊に彼の專賣特許品たるシリカ質耐火煉瓦の如きは、佛國クルーゾー社の專賣品に比し少しも優劣なき精良品にして、其用途は各種製鐵爐、製鋼爐、粗銅精煉、瓦斯發生爐、コークス及び玻璃製造爐等に、必須欠ぐべからざるの大資料たり、左れば橫須賀幷に吳造船廠、東京、大阪兩砲兵工廠等に於て、特種品として購買せらるゝのみならず、世間一般の最も重要視する所たり、尙其他各種製品の如き、何れも技光製鐵所、橫須賀及吳造船廠、東京及大阪砲兵工廠、古河鑛山、住友鑛山、釜石田中鑛山、東京瓦斯株式會社等より、指名製造の特約を受け、又た吳製

鋼所の如き、遠からずして其事業を開始するに至れば、從つて同社製品の用途は益々擴張さるゝに至るは明かなる事實なりとす、斯くの如く同社は此事業に於て大成功を告げ、而して其事業の性質前述の如く國家有要のものたるを以て、官曾て其創始者西村君を賞するに綠綬褒章を以てしたり、即ち左の如し

東京府東京市京橋區築地一丁目

西村勝三

（前略）最も力を耐火煉瓦の製造に用ゐ、今や供給內地に足り、舶載殆んど其跡を絕てり、洵に實業に精勵し、衆民の模範たる者とす、依て明治十四年十二月七日勅定の綠綬褒章を賜ひ其善行を表彰す

明治三十三年一月二十五日

是れ獨り西村君の光榮たるのみならず、又た同社の光榮大なりと云ふべきなり、尙ほ同社製品の精良なるを證する諸所の證明書なるもの甚だ尠からず、今其四五を摘記すれば左の如し。

耐火煉瓦實地使用成績書

當工場反焰爐築造の煉瓦は從來獨國アルレン會社製造の耐火煉瓦（シリークートフワイヤブリック）を使用せしも這般貴所製造の耐火煉瓦を代用せしに最初は原質の完全ならざりしか將た製造法の整はざりしか獨國製に比し劣る所ありしも漸々事

業の整備に隨ひ其質益々良く近來製造のものに至りては却つて獨國製に優り且其價の廉なる當工場之を用ゐて大に經濟に益するを得たり茲に之を證明す

明治二十五年十月

東京市本所區柳原町三丁目十五番地
古河鎔銅所長　福岡健良　印

品川白煉瓦製造所御中

耐火土實地使用成績書

當工場鎔銅用の反焔爐床は從來外國より輸入せるガニスターサンドを以て築造し粗銅量大凡三萬英磅を容るべき爐にして精製度數少なくも百回に堪ゆ得たりしが今回貴所製造の耐火土を使用せしに其銅に對するの作用及び久しきに耐ゆるの時日は毫も外來物に讓らずして而かも其値の廉にして彼我遠近の便否ある等我工場に益する所實に尠からずとす茲に之を證明す

但爐床築造に於て該粉末を爐中に投じ灼熱するの際數々爐外に拘出し之を撿すれば時として粒々鳴碎するを視るとあり此鳴碎の止むを度として搗堅むるを最安全なりとす斯く鳴碎の兆ある時は外來物に比し灼熱時間大凡四時乃至十時間の長きを要すべし

明治二十六年五月七日

東京市本所區柳原町三丁目廿五番地
古河鎔銅所長　福岡健良　印

品川白煉瓦製造所御中

田浦安定品川白煉瓦合資會社横須賀代理店主出願に係る鎔鋼容解爐用一號シリカ煉瓦試驗を遂ぐるに舶來品と略ぼ同質のものと認定す

明治二十八年一月二十一日

横須賀鎮守府司令長官　印

一第二號シリカ耐火煉瓦石
一摸製ガニスターサンド

右二品當鎔鋼所精良反射爐に供用せしに耐火煉瓦は熾熱及び酸化鎔銅の浸食に耐へ殊にガニスターサンドは舶來品に比するに却て其優等なるの成績を得たり爲めに反射爐持長耐久鎔銅上使用に適するの精品にして鑛業上尠からざる便益を得たり因て爰に證明致候也

明治二十九年九月

第二編　品川白煉瓦株式會社

伊豫國新居濱住友鎔鑛所

堀又次郎　印

品川白煉瓦製造所御中

勸業功績錄

謹啓凡そ鎔鑛事業に於て火爐の耐久より必要なるはなし弊所に於て近來貴所のシリカ煉瓦とガニスターサンドを用ゆるに及びてより以來頓に著く爐中要部の壽命を長ふし從ふて熔解の回數を增し以て至大の利益を享くるに至れり蓋し貴所が擇ぶ所の原料甚だ純良にして且つ特に其製法に堪能なるに非れば焉ぞ能く此の如き好成績を得るの理あらんや其國家を利する莫大なりと云ふべし本所は貴所製品の洵に精良なるを讃賞し且つ我同業者及び這般の物質を要する諸工業家に此精良品を紹介し以て國利の增進を務むべし爰に其精品なることを證して感謝す

明治三十年九月九日

伊豫　住友別子鑛業所　印

品川白煉瓦製造所御中

又た同社が得たる特許證の寫は左の如し

第二三三九號　特許證　品ノ八

愛知縣西加茂郡擧母町三百八十八番戶原籍

東京府荏原郡品川町元北品川三百一番地寄留

品川白煉瓦製造所技師　海老名龍四

本證附屬明細書の請求區域に對し特許條例に依り右記名の者に十五年間特許を與ふるもの也

明治二十七年九月二十四日　品ノ九

農商務大臣子爵　榎本武揚　印

農商務省特許局長　柳谷謙太郎　印

附屬明細書略之

第二三三九號　改訂特許證

一シリカ耐火煉瓦

前記發明に對し特許局審査官に於て明治二十七年九月二十四日附第二三三九號特許證の改訂を許可すべきものと査定したり仍て本證を下付するものなり

明治三十四年四月十一日

農商務省特許局長　柳谷謙太郎　印

同社の製品は右の如く精良無比のものなるを以て、日に月に其需要を增加し、漸次輸入を防遏するに至り、特に近年となりては强度の耐火力其他堅固なる理學的作用

を要するものは、殆んど全く同社の製品を使用し、獨り輸入品を驅逐せるのみならず、更に進んでマニラ地方に輸出し、又た支那漢口製鉄所に於ては現に其試驗中に屬し、尚ほ東京横濱等の商館を經由して諸外國に供給しつゝあり、而して是等輸出品も日を逐ふて益々其增加せるを見る、斯の如くして同社が國益に資せる所も亦た甚だ尠からざるを見るべきなり。

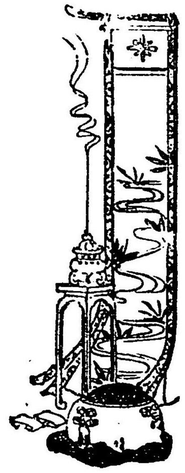
同社が從來各種の博覽會共進會等に出品して得たる所の賞牌の重なるものを摘記すれば、明治二十年には東京府工藝品共進會に於て、其耐火煉瓦に對し三等賞銅牌を受け、其瓦斯レトルトに對して二等賞銀牌を得、二十三年第三回內國勸業博覽會に於ては、同じく耐火煉瓦に對して有功賞銅牌を得、二十八年第四回同博覽會に於ては、同じく耐火煉瓦に對して進歩賞銅牌を受け、三十四年第一回全國窯業共進會に於ては亦た耐火煉瓦に對して協賛一等賞金牌を領し、今回の第五回內國勸業博覽會には特に出品を製造するの暇なく、偶々在庫の瓦斯レトルト其他數點を出陳したるものなるにも拘らず、大に世人の注意を喚起し且つ斯業に於ける第一の重賞たる一等賞銀牌を授けられたる等、亦た以て其精品なるを知るに足るべきなり。

同社の機運は爾後益々發達して、從來の組織尚其規摸の小なるを感ずるに至り、茲に同社の出資社員及び其他同志の首唱發起となり、之を株式組織に改むるの計畫熟し、本年七月を以て終に其成立を見るに至りたり、即ち其資本金を二十五萬圓とし

從來の合資會社所有に係る財産、營業權、特許權、得意等一切を買受けて、之れを品川白煉瓦株式會社と稱するに至りたり、而して此株式會社の成立と共に、從來磐城國小名濱町に在りたる支工場の外、更に大坂市南區木津三島町に支社を設け、大に業務を擴張し、東西相俟つて汎く全國の需要に應ずることとなりたり、茲に於て同社の事業は益々其完成の域に進むことを得たり、是れ獨り同社の幸福のみならず、又た實に國家の幸福と云ふべきなり、因に同社が合資會社たりし時の利益配當額を擧ぐれば、明治三十三年度に於ては年一割二分、同三十四年度に於ては年一割四分、同三十五年度に於ては年一割二分、同三十六年一月より六月に至る六ケ月間に於ては年一割二分の配當をなし來りたるに、株式會社となりたる後、同七月より九月に至る僅々三ケ月間に於て、尚ほ能く年一割の割合を以て其配當を爲したり、亦以て其前途益々有望なるを知るべきなり、現今同社の重役及ひ重なる社員の氏名を擧ぐれば左の如し、

取締役社長	西村勝三君	
取締役兼支配人	山内政良君	
監査役	高松錄太郎君	
技師	武藤三君	
專務取締役	藤村義苗君	
監査役	濱崎永三郎君	
主事	杉井定一郎君	
技師	梅田晉五郎君	

此國家的有益事業の前途は、係つて以上諸氏の双肩に在り、諸氏の任務亦大なりと云ふべきなり。



醬油醸造業

濱口儀兵衛君

（千葉縣海上郡銚子町）

名譽銀牌受領

第五回內國勸業博覽會に醬油の出品亦た甚だ尠しとせず、而して名譽銀牌の重賞を得たるもの、僅かに君と他に一人あるのみ、此一事既に以て其如何に醇良なるかを知るに足るべし、由來千葉縣は關東に於ける氣候温暖の地にして、寒暑の差劇甚ならざるが爲め、古來醸造業の發達は頗る見るべきものあり、而かも多數の醸造家中に在つて優に一等地を抜き、以て此名聲を博したるもの、益々以て其他に卓絶せるものあるを證すべきなり、君の祖は素と紀伊國有田郡廣邑の人にして、一日漁舟を同國和歌の浦沖に浮べたるに、黒潮の爲めに流されて、終に銚子港に漂着したり、依て足を此地に止め、其氣候風土を察するに、能く其故郷と似たるものあり、且つ利根川を控へて江戸との交通も不便ならず、乃ち此地に於て一業務を營むの、亦頗る有望ならんを思ひ、而して醬油醸造業は其以前早く既に紀州に於て發達したるものにして、之に經驗あるを以て、先づ此業務を試みんと欲し、諸種の準備を整へて、愈々其製造に着手したるは、正保二年後光明天皇の御宇にして、今を距ること實に二百

五十九年の古昔なりとす、然れども當時此業の如きは極めて微々たるものにして、君の祖亦た自ら少量を造り、而して自ら利根川に棹して之を江戸に運び、市中を廻つて又た自ら之を販賣するに過ぎざりしも、其製造早く既に宜しきに適ひ、香味亦た人の嗜好に投じたれば、日を逐ふて其販路の擴まるに至りたり、依て後來に至りては君の家は專ら其釀造に從事し、而して君の家より出でゝ別に一戸を立てたる、今の濱口吉右衛門氏の祖の、江戸にありて專ら其販賣の事を掌り、且つ小麥鹽等原料の仕送りをなしたれば、兩々相待つて繁榮を來すに至りたり、而して其醬油に山サの名を附するに至りたる次第は、其祖曾て土地の觀音に祈願して家運の隆盛を祈一夜山サ印の醬油累々として自巳の店頭に堆きを夢み、觀音の靈驗なりとし、乃ち此名を採るに至りたるものにして、果せるかな自今山サ醬油の名は到る處に喧傳せられ、以て益々家運の隆盛を見たり、而して其盛運に向ふに從ふて、益々原料を選み製法を改め、且つ其價を極めて低廉にし、世々決して粗製品を出さず、又た高利を貪らず、以て愈々其名聲を高めたり、曾て享保年間江戸に大飢饉あり、幕府時難を救濟せんが爲めに、普ねく諸商人に命じて其物品の價を引下げしむ、君の家は前述の如く常に出來得る限りの薄利を以てせるが爲めに、此命令に接するも最早代價を引下ぐるの餘地なく、依て其旨を具申して命令に抗す、町奉行其具申に依て具さに事情を取調べ、全く其僞りにあらざるを知りて、乃ち特に其醬油に限り、之を舊

價に販賣することを許可したり、且つ此異例の許可と共に、其品を他と區別せしめんが爲め、特に命じて最上の名を附せしむ、即ち最上の名は君の祖が時の政府より拜領したる所にして、亦た以て異數の榮譽と云ふべきなり、方今醬油業者の諸廣告を見るに、其醇良なるを證せん爲めに、特に最上の名を冠するもの頗る多し、而かも知らず、是れ潛越の濫稱なることを、依て君は是等の濫稱と區別せんが爲め、特に其醬油に冠らすに最上醬油元祖の六字を以てせるもの、亦其所以深しと云ふべきなり、斯くの如くして君の祖は代々其業に精勵し、敢て一人の家聲を失墜せるものあらず、特に君の祖父梧陵大翁は曠世の識と不世出の材を抱き、獨り業務に精勵なるのみならず、又た能く經綸の大業に精しく、曾て維新の際紀州侯より特に招かれて大參事となり、國政を處理して事々明晰、敢て一毫の違算あるなく、以て能く調理の大功を奏したるは、普ねく人の知れる處なりとす、翁又た好んで人材を養成し、故陸奥宗光伯の如き、實に翁に依て薫陶されたるの一人なりとす、其他翁は德澤を流布すること最も多く、曾て銚子港洪水の際の如き、罹災後の窮民を救ひ、其荒蕪せる田地の恢復を圖る等、悉く私財を投じて之を爲し、以て其塗炭の苦を免かれしめたるが如き、擧ぐべきの事蹟一にして足らず、左れば其易簀後二十餘年の今日に至るまで、殆んど三尺の童子にも喞炙せざるなく、萬民擧つて其德澤を仰ぎ、相謀つて其大碑を銚子港埠頭に建設し、屹然今日に至つて尙ほ餘光の人目を聳動せしむるものあり、翁

歿せるの時一女一男あり、其一男尚幼なり、依て養子を迎へて一女に娶し、以て其家を繼がしむ、君は即ち其生む所たり、幼にして祖翁の令質を享け、極めて聰明にして活達に、能く事務を截斷し、能く理義を明裁す、其釀造業に於けるが如き、一に學理を應用し、將た實驗に照し、壽策常に其宜しきを得ざるなし、嘗て明治十五年には斯界の大家宇都宮三郎氏を聘して、縱橫其蘊蓄せる所を改良の點に施さしめたるも、君尚ほ之を以て足れりとせず、仝二十六年自ら渡英して、グラハム氏に就き孜々化學を研究する所あり、歸朝の後之を釀造に應用して、更に面目を改むる所勘からず、爾來益々其蘊奥を發揮して、自ら之が改良を施すの側ら、三十二年更に研究所を開設し、勘からざるの私費を投じて幾多の人士を蒐め、試査驗案孜々として釀造の改善を圖り、或ひは新釀造場を起し、或ひは蒸滾力を使用する等、多年一日の如く孜々として倦むなし、是に於て又た更に一大改良の實を擧げ、山サの名聲をして旭日沖天の勢あらしめたり、斯くの如くにして其釀造の醬油は、夙に他同業者の製品に冠たるの故を以て、從來各博覽會共進會等に於て、重賞を得たると甚だ勘からず、而して今回の第五回內國勸業博覽會にては、前述の如く實に斯業第一の大名聲を博するに至りたり、今其受賞の薦文を見るに左の如し。

奮進多額を釀成し其品質佳良を極む傍ら私費を投じ研究所を設け試査驗案以て斯業の改善を圖る洵に斯業の龜鑑たり

此簡單なる一薦文亦た以て君の功績を仰ぐに充分なるべきなり、斯くの如く斯業に勵精なるの故を以て、販路は新たに倫敦、グラスゴー、愛蘭、濠洲、新嘉坡、上海等に擴張せられて、其輸出の國益に資するとも甚だ勘からざるものあり、又た其品質は含有窒素の量を增加し、徽の發生を防ぐため攝氏六十度に於て殺菌する等、釀造の方法殆んど盡さゞる處あらず、而して又た其原料を最も精選し、大豆は茨城縣筑波、新治兩郡及び千葉縣市原郡靑柳本場の大豆にして、最も光澤ある黃色白色のものを選べり、其理由は大豆に包有する多量の蛋白質は醬油の滋養分となり又た醱酵に依り蛋白質は分解して醬油の風味を作り、特有の紅褐色を呈する爲めなりとす、其他小麥は茨城縣筑波、新治の兩郡及び千葉縣山武郡の產にして實入良き飴色の最良品を選べるが、其理由とする所は、由來小麥に包有する處の澱分は、醱酵に依りて葡萄糖デキストリン及び酸或ひはアルデハイドに分解し、醬油の甘味と特有の香氣を作り、黑褐色を呈するものなるに、如上の小麥は此諸點に於て最も其特効あるを以てなり、又た食鹽英國鹽及び臺灣鹽等鹽の純白にして苦味少きものを使用する等、何れも學理と實驗に徵して、毫も遺算あるとなし、宜なるかな山サ醬油の名聲嘖々として、三尺の童子も其名を知らざるとなきや、君は以上の如くにして、夙に釀造界に於ける偉傑として仰がるゝのみならず、曾て武總銀行の起さるゝ

に當つては、江湖の信任德望一に君を推して之が頭取となし、更に家滿佐貯蓄銀行の君に依つて起さるゝあり、而して此兩者共に隆々として今日の銀行界に屹立し、以て君が頭取たるの榮を現はしつゝあり、其手腕益々以て見るべきなり、君は斯くの如くにして或は銚子に或は紀南に或は東都に、縱横奔馳して殆んど寧日なく、而して其博愛の資仁俠の質富膽の學淸温の情嫺雅の態鷹揚の風瀟洒の采皆以て君の重きを加へ、到る處其光彩を放ちつゝあり、君の如きは亦た近時稀に見る所の好實業家と云ふべきなり。

(因に記す本編卷首揭ぐる所の、君の釀造塲は今回更に最も完全なる構造に依り建築中のものにして、今や既に其の八九分を成功せり、思ふに此新釀造塲に依りて、將來更に斯業界に一新面目を施すに至らん。)

水産業家

岡田源吉君

(千葉縣海上郡銚子町)

名譽銀牌受領

君の家夙に水産業を營み、世々銚子港に住みて、近海の漁權を握ること年久し、君其家に生れて亦た夙に斯業に就き研磨する所あり、且つ水産業の最も國家有利の事業なるを知覺して、一意之が隆盛を圖らんと欲し、父祖の業を繼ひでより孜々奮勵敢て一日も怠ることあらず、漁獲の方法、漁具の改良等最も意を潛めて之が改善を圖り、爲めに大に其面目を一新し、斯業の發達を來したること頗る多きものあり、同業者夙に君を推して斯業の巨擘となす、而かも君之に甘んずることなくして益々刻苦奮勵、今日に至るまで尙ほ日夜孜々として其發達を企て、敢て撓むことあらざるなり、殊に君は鰛漁業の最も多量にして且最も有益なるに拘はらず、世間之に意を注ぐもの尠くして、爲めに同業の甚だ衰頽せるを憤慨して已まず、自ら奮つて同業の隆盛を企圖せんと欲し、殆んど一身を忘れて多年之に從事し、又た大に私財を投じて之が回復の方法を劃し、爲めに寢食を廢して苦辛經營したること實に言ふべからざるものありたり、之が爲めに其資産は殆んど蕩盡し、其身体は焦碎して再び起

つ能はざらんとする程の窮境に陷りたるも、君敢て之に屈することなくして、更に一層の勇氣を皷吹し、能く百難を排したるの結果、終に大に同漁の方法を改良することを得て、茲に同業の面目を一新し、鰮漁獲數に頓に著しき增加を來して以て、君が多年の宿志を果すと同時に、積年の辛苦茲に其の光輝を發して、再び產を興すの幸運に向ひたり、然るに鰮なるものは由來之を食料に供するは僅かに其一小部分にして、其油を搾り、及び其粕を肥料に供するを以て最も貴しとする所たり、左ればその漁獲數如何に多きを加ふるも、搾油及搾粕等の製法にして不完全ならんには、未だ以て全く其功績を擧ぐる能はざるなり、依て君は更に其製造法に就て大に苦心經營する所あり、又た之に資產と勞力とを吝まずして、日夜研鑽したるの結果、終に能く其製造法にも一大改善を加ふるに至り、茲に完全精良なる搾粕を得たるを以て更に又た其販路の擴張に就て盡粹する處あり、措置一も其宜しきを失はずして、爾來日に月に斯業の發達を來し、大に其販賣額を增すと同時に、之が需要者をして幾多の鴻益を受けしむるに至りたり、君は斯く身自ら斯業に盡瘁せるのみならず、又た大に同業者を興起せしめんことを企て、自ら率先して同志を誘導し、水產商組合なるものを組織して、大に斯業の隆盛を圖ると同時に、同業者に對して新智識を注入し、百難を排して以て能く其目的を達したり、銚子港水產業今日の隆盛を見たるもの、一に之を君の功に歸するも敢て溢美にあらざるべきなり、斯の如くにして君の

製品は極めて良好なるものあるを以て、曾て明治十六年神戸に於ける水產博覽會に於て有功一等賞を得、二十八年京都に於ける第四回內國勸業博覽會に於ては、其鰮搾粕に對して一等賞牌を受け、其鰮油に對して三等賞牌を頒したるが、爾來益々精良を加ふるに至り、今回の第五回同博覽會に於ては實に斯業第一の重賞たる名譽銀牌を授與せらるゝに至りたり、其受賞の薦文は能く君が多年の功勞を表彰するに足るものあり、即ち其全文を揭ぐること左の如し。

仄に父祖の遺業を繼承し鰮漁業の衰頹せるを慨し大に私財を投じて回復の方法を劃し併せて鰮搾粕製造の改良及販賣の擴張を企て續て同志を誘導して水產商組合を創設し百難を排して永く其局に當り刻苦精勵竟に其目的を達せり今回出品せる鰮搾粕は品質精良にして製額頗る多し洵に當業者の模範にして其の功績甚だ偉大なり

何ぞ其薦文の慇懃なるや、是れ洵に君一身の榮譽のみならず、又た君が家永世不磨の榮譽のみならず、又た更に銚子同業者の榮譽たり、君の功績亦た偉なるかな、君は爾かく斯業に忠實精勵なると共に、又た其資性純正義直にして、能く一鄉の推重する所となり、曾て町會議員、學務委員、赤十字社員等に推されて、能く公共の事務に力を盡すと共に、又た方今銚子銀行の監查役として、能く其職責を盡せるを見る。

因に記す君が製造の搾粕は、現今其販路東京府下を始めとし、茨城、栃木、福島、埼玉、群馬、長野、岐阜、神奈川等の諸縣に亘り、昨年の如きは實に三萬五千俵の巨額を販賣し、而して爾後益々其增加を見つゝありと云ふ、亦以て其精良なるを見るべきなり。

金庫製造販賣業

竹内善次郎君

（東京市日本橋區馬喰町二丁目一番地）

一等賞牌受領

君の父を彌兵衛氏と云ふ、元神奈川縣神奈川驛に住し、世々鐵工を以て業とせり、曾て慶應年間横濱居留地商館の火を失するあり、外人ウイルマン所藏の金庫火中に埋沒し、外部損傷を生じたり、ウイルマン其修理を彌兵衛氏に托して曰く、此器泰西の發明にして、金銀貨幣其他貴重の物品を秘藏し、以て盜火の難を防ぐの必要具たり、現に今火中に埋沒して外部を損傷せるも、其貯藏の物品に一の異狀を認めず、庫内の安全なると斯くの如し、依て泰西諸國專ら之を用ゐ、邦家一日も欠ぐべからざるの器とせり、貴邦未だ之を製造を試みず、此業を起さんとするの意あらば、今予が托する所の修繕を擔當し、側ら其構造を熟察し摸範を此に採らば必ず得る所あらんと、彌兵衛氏其厚意を謝し、數日にして之を修覆し、次で其實驗する所の構造を摸範とし、爰に市めて金庫を試製したり、是れ本邦に於ける金庫製造の嚆矢たり、以後彌兵衛氏は此業を繼續し、明治五年に至りて之を君に讓り、且つ曰く、我邦の家屋は泰西諸國の如く煉瓦鐵石の不燃質物を以て

せず、多く木材の燃質物を以てするに依り、金庫の製造亦是に應せざるべからず、是れ我が平素改良を施さんと欲して未だ果さゞる所なり、汝今より我志を襲ぎ、之を改良して以て愈々其業を隆盛ならしめよと、君是に於て銳意奮勵殆んど寢食を忘れて之が改良を圖ること數年、竟に能く外品に優るの金庫を完成することを得たり、然れども君未だ之を以て足れりとせず、其販賣の如きは暫く之を他の商手に委し、專ら其製造に從事して、傍ら子弟を募りて之を敎授せり、今日金庫製造業に從事するもの、殆んど君の示敎に依らざるなし、明治十八年始めて特許條例の發布あるや、君は更に一種改良の金庫を製出し、十九年に至りて特二六一號の專賣特許を受け、翌年東京府工藝品共進會に出品し銀牌二等賞を得たり、君又た鋼鐵金庫を製出し、關鎗の如き更に一層の改良を施し、頗る安全の裝置となし二十三年第八四九號の專賣特許を得、次で第三回內國勸業博覽會に出品したるに、構造堅牢にして戶扉密合し、關鎗の內機殊に周密を極む、以て盜火の難を避くるに足る、其有功二等賞を受領せり、又た當時時事新報社が實業奬勵の趣旨を以て同會の出品に就き、豫め一百種を選拔して縱覽者の投票を募集したるに、多數金庫の出品中、獨り君の製品に對して六千六百二十票の大多數を得て當選したり、依て同社は東京府廳を經て金牌を贈與せり、同年十一月第八八號を以て意匠登錄を得、翌二十四年又た風通金庫を發明して第一二三一號の特許

を得、次で二十六年より二十八年に至る三年間に於て、文字錠に改良を重ね專賣特許を得たるもの實に九回の多きに及べり、廿七年富山縣設博覽會に出品し、庫体堅牢にして開閉機變あり、以て盜火を防ぐに足る、製作極めて精巧なりとの故を以て銀牌を受け、二十八年第四回內國勸業博覽會には改進、鋼鐵、鍛鐵製の三種金庫を出品して、何れも庫扉堅固、鎗機精巧實驗の安全なる世信の厚きを徵すとし、進歩二等賞を授與せられ、二十九年五二回品評會に於ては進歩賞銀牌を受け、三十年創設二十五年紀念博覽會に於ては、有效賞金牌を受領し、今又た第五回內國勸業博覽會に於ては斯業中の最重賞たる一等賞銀牌を授けられたり、斯く多數の同業者中君獨り擢んでゝ幾多の重賞を得たるもの、全く斯業の元祖として多年刻苦精勵の功を積み、製作の完全にして效力の顯著なる、他に卓絕するものあるに依らずんばあらず、現に往年尾濃の震災、又た近く山形縣酒田港大火の際の如き、各家の金庫猛火に埋沒し、數十時間に涉つて燃燒され震動され、他製の金庫は一も之に堪ゆるものあらざりしに、獨り君の製品を用ゐたるものは悉く其安全を得たるが如き、世人の熟知せる事實なりとす、斯く卓絕せるを以て其販路亦た同業者中の第一位を占め、事業日を逐ふて益々隆盛に赴けるを以て、君は先年委托販賣の商手を解き、獨立販賣店を現今の處に開き、工場を神田區柳原河岸に新設し、大に規模を擴張せるも尚需要を充す能はず、依て更に本所に一大工場を建設し以て益々隆盛を極めつゝあり。

合資會社

明治護謨製造所

（東京府荏原郡品川町字北品川二百五十八番地）

一等賞牌受領

ゴム製造事業は一般機械工業の進歩に伴ひ茲に其必要を増加するものにして、將來極めて有望の事業たり、是を以て歐米各國に於ては日に月に其事業の益々隆盛なるものあり、然るに我邦に於ける斯業は尚ほ甚だ幼稚にして、徒々不振の狀態に在り之が爲めに其供給は殆んど之を外品に仰ぎ、輸入は年々增加して、方今其額六十餘万圓の巨額に上り、尚ほ底止する所を知らず、有志の士之を慨し、近年二三のゴム製造會社設立せらるゝに至りたるは、頗る人意を强ふするに足るものあり、只だ夫れゴムの製造は、何人にも摸倣し得べくして、而かも完全の製作をなすは極めて困難の事に屬す、此を以て斯業の經營甚だ容易ならず、往々にして遂に逆境に陷るものあるに當り、創業日尚淺きに拘らず斯業の先導者を以て自ら任じ、最も整頓せる設備に依り、其製品の改良、營業の增進に、極めて熱心鋭意なる、明治ゴム製造所の如きあり能く其難關を凌ぎ次第に成功の域に向ひつゝあるは、斯業の爲め將た邦家の爲め大に祝すべきの事實と云はざるべからざるなり。

明治ゴム製造所は明治三十三年、同志數名の計畫に依て設立し、同年八月今の北品川東海寺畔に工場建設の工を起し、製造機械は之を英國マンチエスター市に購入し翌三十四年七月漸く其据付を了り、茲に初めて開業したるものにして、同所開設の當時に在つては、本邦に於ける斯業極めて幼稚にして、固より熟練なる技師を得能はざるのみならず、多少の經驗を有する職工にすら乏しく、已むを得ず四方より壯夫を募集し、之に充てたるを以て、先づ機械の取扱より敎練せざるべからず、之を爲して漸く其緒に就き、爾來漸く其面目を改め、今や製作及び配合の方法に練熟し事業次第に其緒に就き、爾來漸く其面目を改め、今や製作及び配合の方法に練熟し精良の品を產出するに至り、其產額一ヶ月平均一萬五千封度に達するの盛況を見るを得たり、就中斯業界に於て至難とする所の、エボナイト、タイリングマツト、スチームホース等を首とし、其他ゴム類の製品一として製造し得ざるものなく、且つ其品質は現時舶來品の遠く及ばざる所のものもあり、而かも價格低廉にして、產額

を逐ふて增進し、營業の基礎も茲に確立して、最早後顧の憂なく、前途只だ一意敢進擴張に全力を傾けて、其將來益々多望なるものあるを見る。

全所は其製品に於て常に他に卒先する所あり、昨年三菱造船所の注文を受け、同所獻納東宮御遊船初加勢號用の爲め、本邦には曾て製造し得ざりし所の、タイリングマットの精巧なるものを製作し、斯業一般の進步を示したるが、近來同所は自轉車用タイヤの需要日に加り、而かも內地には未だ其製造に成功したるものなきを慨し英米に流行せるタイヤの長短を參酌して其試作に着手し、遂に舶來上等品に比し、更に遜色なきものを製出して、陸軍戶山學校に其試驗を乞ひ、本年十一月兵庫縣下に擧行せる特別大演習に於て、自轉車手に試用せられたるに、其結果は豫期に違はず該校より成績良好の證明書を與へられ、且つ大に奬勵せられたりと云ふ、斯の如くして更に斯業に一新面目を與へたるは、豈獨り同所の爲めに慶すべきのみならんや

今回同所が第五回內國勸業博覽會に於て、一等賞銀牌の重きを受領したる如き、決して其偶然にあらざるを見るべきなり。

同所社長米井源治郎氏は岡山縣作州の人、方今東京市京橋區銀座二丁目輸出入商磯野商會主として、又たキリンビール本店たる合名會社明治屋の業務擔當社員として其名聲を博しつゝあるの人なりとす、君の少壯なるに當りてや、苦學敢て寸時も怠らず、後慶應義塾に入りて能く其業を卒へ、爾後親戚法學士磯野計氏を助けて、其

第二編　明治護謨製造所

明治屋の事業を經營し、明治三十年磯野氏別に磯野商會を東京に設立するに及び、組合員として其企畫に參す、同年末磯野氏忽然病歿したるを以て、其親戚知己君を擧げて磯野家の後見人となす、人其事業の前途を危むるもの多し、君慨然として此難局に當り、自個の事業としては磯野商會を經理し、漸次其頭角を現はして、今や官私鐵道及造船所其他の大入札大受負に於て、優に三井、高田、大倉等と角逐するに至り、後見人としては明治屋の業務を統督し、店舗の增設、販路の擴張等畫策するところ一にして足らず、昨年磯野氏の嫡女菊子の爲めに佳婿を迎ゐ、其後見の任を解き一切の引繼をなすに當り、磯野家の純資產は君が後見となりたるの當時に比し、其倍額に達したるを見る、君の措置宜しきを得るにあらずんば、焉んぞ能く此の如くなるを得んや、此に於て磯野氏の親族會員及後見人監督者たる豐川良平氏等の協議を以て明治屋の事業を君及磯野氏の養子長藏氏に讓渡し、兩人をして合名會社を組織して其事業を繼續せしめ、君を推して其業務擔當社員たらしむるに至れり。

君の部下磯野商會員に廣瀨角藏氏あり、多能にして企業心に富む、君其畫策を容れ二三同志と共に出資して設立したるもの、即ち明治ゴム製造所なりとす、然るに其設立の當時諸事豫期の如くならずして、其前途知測すべからざるものあり、出資者相踵で退社し、廣瀨氏亦た病歿するに至る、此に於て君獨り其全責任を負ひ、快腕を揮つて社務を刷新し、大に部下を督勵して、漸く其頽勢を挽回し、遂に社運をし

て今日に至らしめ、更に着々前進の途に向はしめつゝあるもの、以て君の意氣の如何に壯に、又た其手腕の如何に大なるかを窺ふに足るべきなり。

第二編　明治護謨製造所

明治ゴム製造所現今の支配人速水次郎氏は曾て米國に在ること十數年、久しく文明の空氣を呼吸したるの人、昨年五月磯野商會より轉じて同製造所に入る、規律あり、熱誠あり、一意斯業に勵精して倦ます、又た同所技術長フワーガソン氏は英國の人なり、本邦ゴム工業中外國より技師を傭聘せるもの獨り明治ゴム製造所あるのみ、殊に氏は久しく英國ウイルキンソン、エンドエーカロイド社の技師長たりし人にして明治ゴム製造所の技師を招聘するに及び氏は英國に於て二百餘人の候補者中より選拔せられ、來朝したるもの、其技術の如何は今更之を喋々するの要あらず、人と爲り温恭にして爭はず、善く衆工の信賴する所たりと云ふ、此等の人誠意能く君を佐けて斯業の發達を圖る、益々以て其前途の有望を卜すべきなり。

嗚呼ゴム製造の事業は前途甚だ多望なり、從つて之を改良し擴進すべきの餘地亦甚だ廣し、而して外品輸入增加の趨勢は彼の如し、當業者豈小康に安んずべきの時ならんや、編者は諸氏の銳意斯業を起して以て此緊要に應せるの勞を謝すると同時に其益々勇進、以て更に其事業を大成せんとを、切に望んで已まざるなり。

金魚鯉石龜飼育業

高橋鉄次郎君

（東京市深川區西町三十一番地）

二等賞牌受領

君は斯業中に於ける最も舊家なり、則はち曩祖高橋七兵衛氏五代の孫喜三郎なる人の寛政年中に創むる處にして、當時江戸城下に其飼育場を設け、多數の賣子を市中に出して、汎く愛魚家の需めに應じ、能く其歡迎を受くると共に、大に其販路を擴張したり、六代目を吉五郎氏と云ひ、七代目以下何れも鐵次郎を以て名とし、君に至つて代を重ぬること九、世々相襲ぎて斯業に從事すること實に百十有餘年の久しきに亘り、孜々として其經營を怠らず、常に斯業者中嶄然其頭角を拔きたり、君は明治九年三月を以て生れ、其年齒甚だ深からざるにも拘はらず、極めて斯業に熱心し、獨り金魚のみならず、鯉及び石龜の養成法に至るまで、孜々として其改良に力め、大に好成績を得て、產額に著しき增進を來したり、現時君の所有に係る養魚生產地は、其坪數六千有餘坪、而して其生產高は實に百二十三万尾の多きに上りたり獨り其生產の斯く多數なるのみならず、又た能く愛魚家の嗜好に充てしめんが爲め若心經營して珍奇愛魚の飼育に怠らず、人目を驚かすの珍魚を出せるとも甚だ尠か

らす、而して其側ら種鯉の精選に努め、益々其生産を殖して實益上に稗益を與ふるとも決して尠からざるものあり、君又た其飼料に最も注意を加へ、數年の經驗を積んで、氣候水理等に依り、其飼料の適不適を考査し、其宜しきに從ふて之を施すに至りたるより、一層魚類の健全と生産の多額とを期することを得たり、君又た其販路に就ても大に努むる所あり、交通機關の備はれる處は云ふ迄もなく、凡そ人の足跡の至る處、全國一として其養魚を見ざるなく、其販額非常の多額に上れるも、君は決して不當の利を貪ることをなさざるのみならず、交通機關の備はれる處は、從來に比し大に運搬の費用を減せるを以て、益々魚類の代價を低廉にし、以て一に需要者の便宜を圖れるより、倍々其販額の增加を見たり、而して其需要は獨り內地に止まらす、能く外國人の嗜好をも買ふて、直接海外に輸出するの額も年々增加するに至りたり、斯く其業務の盛大となれるにも拘はらす、君は之に甘ずることなくして、將來一層本邦特有の佳麗優美なる該魚の播殖を期し、愈々斯業の發達を圖りつゝあり又た君は自ら之を企圖するのみならず、他の同業者をも勸誘して、大に之に盡瘁せしめんことを期しつゝあり、別項記載の東京金魚種鯉販賣購買組合の如き、實に君の主唱に成るものにして、而して現今君は其組長として專ら之に掌する所あり、其斯業に貢獻する所亦た大なりと云ふべきなり、君は曾て明治十一年第一回內國勸業博覽會に於て褒狀を受け、仝十六年水產博覽會に於て四等賞を得、又た三十年第二

回水產博覽會に於て有功二等賞を領したるが、今又た第五回內國勸業博覽會に際し養魚池の模型と養魚の圖書とを出品し、之に對して二等賞銀牌を得たり、其の爾かく重賞を得たる所以のもの亦た決して偶然にあらざるを見るべきなり。

第二編　東京金魚種鯉購買販賣組合

有限責任

東京金魚種鯉販賣購買組合

（東京市深川區西町三十一番地）

褒狀受領

本組合は明治三十四年三月始めて組織せるものにして、而して其主唱者は別項記載の金魚商高橋鐵次郎氏なりとす、仝氏の斯業に熱心なる、夙に其發達を期せんには同業者相一致して其販賣魚類を精選し、且つ出來得る限りの廉價を以て販路の擴張に力むるにあるを悟り、此目的を遂行するの捷徑は、一定の規約の下に鞏固なる一の組合を設け、以て互ひに斯業の奬勵を圖るにあるを知りて、乃ち自ら主唱者となり、有志を勸誘して其賛成を得、同業者二十二名の一團となして、産業組合法に則り、購買法に基きて、此に其組織を見たるものにして、爾來高橋氏推されて其組長となり、以て今日に至れるものなるが、仝組合の設立されてより以來、魚質を改良し、其生産費を減少し、以て需要者に便利を與ふると同時に、大に販路を擴張して組合員の利益を圖り、斯業の發達を來したると甚だ尠からず、其功績頗る顯著なるものあり、今回第五回内國勸業博覽會に於て受賞したるが如き、蓋し此功績に對せるものたるに外ならざるべきなり。

寒暖計製造業

佐野莊夫君

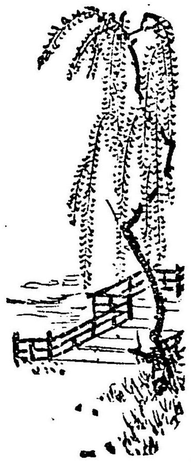
（東京市淺草區七軒町五番地）

二等賞牌受領

君は元治元年四月を以て巖手縣陸中國岩谷堂町に生る、父を周右衛門氏と云ひ、家世々仙臺藩士たり、君は其長男にして、幼より學を好み、俊秀の名あり、明治十八年鄕關を辭し、東京に遊び、大に爲す所あらんと欲し、徐ろに雄飛の機來るを待ち側ら勤學倦まず、會ま政界刷新の擧あり、世の風潮亦た將さに一變せんとするの徵を呈す、君時世に鑑みて大に感ずる所あり、即ち斷然書卷を抛ちて實業に身を委ね學術上に稗益ある業務に就き、以て國家に貢献する所あらんと欲し、茲に寒暖計の製造業を起したるは、實に明治二十年なりとす、爾來君は幾多の蹉跌に遭ひ、不慮の挫折を受けて、將さに斃れんとすること其幾回なるを知らず、備さに艱難苦楚を嘗めたるも、能く之を凌ぎ之を排けて、意志倍々堅硬、日夜成業の方法を研究し、又た其販路の擴張を企圖したるも、奈何せん當時官民共に西洋熱に浮かされ、單に舶載物と云へば、其物料の如何を問はず、其品質の良否を顧みず只だ歐製米造の名に沈醉して、實際の精粗を鑑別するの明あるなく、和製にして能く外國製に優るもの

あるも、全然一顧の價値なき拙劣のものとしして、之を排斥し去るが如きの時運なりしなり、斯る弊風の熾んなる時にありて、能く自家製作の寒暖計を、世の需要に投せしめんこと實に難中の難事なりしなり、然れども君は尚之に屈することなく、自ら山梨、群馬、栃木、長野等の諸縣下を巡遊し、有志者に就て彼我製造の精粗を說明し、實物に就て其優劣を摘示し、又た價格品料等一々相比較して、熱心我の彼に優る所以を明示したれば、人皆漸く君の製品の巧良なるを悟りて、逐次其販路を開くに至りたり、當時君の嘗めたる辛酸の、實に名狀すべからざるものありたるは、之を想像するに難からざるなり、然るに一難到る毎に君の志想は益々堅きを加へて、能く此沼々たる時勢の潮流に抗し、官民の頑冥を破りて以て我が製品の必ずしも外國品に劣らざるを知らしむるに至りたり、是れ君の今日あるを致したる所以にして、而して亦た之に依り我國民の外國崇拜熱を冷却せしむるに至りたる、其功績は決して忘却すべからざるものありと云ふべきなり、蓋し君が本業を創めたるの當時にあつては、獨り我國民の頑冥なりしのみならず、又た我が工業の甚だ幼稚にして、寒暖計の如き機かに養鑑用として少數の製造をなせるに過ぎず、而かも其製造の粗笨なる、實に言語に絶したるの有樣なりき、故を以て學術上に要する寒暖計の如きは、悉く舶載を仰がざるべからざるの域にありたるなり、是れ君が平素慨歎措く能はざりし所にして、乃ち自ら外國に讓らざる精巧のものを製出し、以て大に其輸入の途を

杜ぎ、國益に資するとあらんを欲し、拮据事に從ふて大に造詣する所あり、爾來深く官衙の信用を得、又た世人の信用を博するに至り、各種の寒暖計、体温計、晴雨計の類にして氣象觀測の用に供するもの、將た學校其他各官衙の用に充つるもの等、官民を問はず、苟くも學術上に要するものは、殆んど君の製造に係らざるはあらず斯くして能く内地一般の需要に應せるのみならず、方今遠く顧客を海外に得て、之を輸出するの額亦た益々增加するに至り、嶄然斯業界に頭角を拔きたり、仍て本年第五回内國勸業博覽會に初めて其製品を出品し、而して能く二等賞銀牌の重賞を受領したり、是れ一に君が多年間の苦心研鑽の効果、能く同業者中に卓絶するものあるに職由せずんばあらず、名譽の重賞を得る亦た偶然にあらざるを知るべきなり。今君の製造に係る寒暖計晴雨計の種類を聞くに、寒暖計にては水銀計、酒精計、最高計、最低計、乾濕吸水銀計、地中計、地皮計、地温計、水温計、日温計、室内計、寵用計、養蠶計、養蠶乾濕計、最高最低報知計、農業用計、水産用計、海底用計、酒造用計の十九種にして、又た晴雨計はフオルチン形、マウンテン形、ステーション形、マリン形、サイホン形の各水銀計に分たれ居れりと云ふ。



醬油醸造業

石井孫治郎君

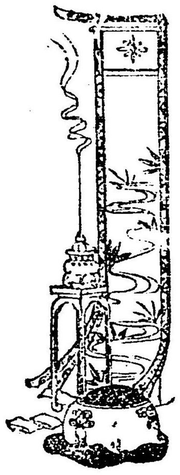
（東京府北豊島郡王子村字豊島二千三百六十二番地）

二等賞牌受領

君は天保七年六月一日を以て現住地に生る、其營業は文政三年三月初代孫治郎氏の創むる所にして、爾來代々孫治郎氏を以て名とし、君に至つて實に四代、能く其業務を持續して益々家名を發揚せり、君の家々憲あり、曰く、得意繁榮なれば我亦た繁榮を增すと、蓋し能く得意の繁榮を祈つて、而して己れ亦た其繁榮に浴せんことを云へるなり、得意の繁榮を祈る一に商業上の信義を守り、品質を益々精選して、而して高利を貪らざるに在り、是れ實に商業の秘訣にして、此精神をだに失却することなからんには、何れの營業として豈其隆盛を來さゞらんや、君の家代々此家憲を嚴守して、敢て一日も忘るゝことあらず、其益々隆盛を加ふる、素より偶然にあらざるを知るべきなり、今其業務の趨勢を見るに、明治四年前迄は千石を造れるのみなりしに、仝年二千石を增し、更に仝十七年を以て七百石を增し、昨三十五年には又々千石以上の大增加を見るに至り、即ち今日を以て三十年前に比するに、實に四倍の額に達せるを見るなり、亦た長足の進歩と云はざるべけんや、更に其販賣高を見る

に、明治三十二年には三千二百九十石、三十三年には三千五百五十三石、三十四年には三千六百〇十八石にして、年々著しく增加しつゝあるを見る、斯の如く釀造高の增加せるを以て、昨年企郡尾久村に千石以上を造るべき一大釀造場を增設し、其建築の巍々として、家運と共に甚だ鞏固なるを見るなり、其醬油は玉石印を以て賣出せるものにして、販路は東京府、神奈川縣及び埼玉縣の西部を以て其重なるものとせり、本品の特色は濃厚にして醇良、且つ其色透明なるに在り、最も割烹に適し少量を以て能く香味あるを以て、經濟上より云ふも甚だ其有利なるを見る、且つ其代價他の醬油に比して頗る低廉なるは何人も知る所なりとす、君は最も業務に熱心なるの人にして、斯く其製品の醇良にして顧客日に多きを加ふるにも拘はらず、尚之に甘んずることなくして、多年の經驗と學理とに徵して、益々機械器具其他釀造法等の改善を施し、且つ原料を精選し、食鹽の如きは播州赤穗産の精鹽の外、敢て之を用ゆることなく、斯くして幾年を經るも、其色、香味等の毫も變せざるを期し益々信義を重んじ誠實を旨とし、能く其家憲を服膺して聊かも背くことあらざれば得意は更に他の得意を誘ひ來りて、其需要は日に益々增加するあるのみ、方今世の商業家多くは新聞廣告の類を利用し、多額の金を投じて專ら顧客を得るに汲々たるの大勢なるも、君は敢て之を廣告することを好まず、若し其實質にして醇良ならば期せずして需要は之に向つて集注せん、左れば廣告に拂ふべきの資金を以て、益々

實質を擇び代價を廉ならしむるには若かず底の意氣を以て、今日に至るまで敢て自ら求めて新聞其他に廣告したる等の事なく、其博覽會の出品の如きも、從來未だ曾て之をなしたることなく、今回の第五回內國勸業博覽會には同業者等に勸められて販賣し居れる品を其儘出品したるまでなるに、之に對して能く二等賞の重きを得たるは、以て其品の極めて精良なるを證すべきなり、而して君は本業の外更に、去三十三年を以て味噌製造業を起し、本店の近傍に製造場を設けて、每季八百石宛を造りつゝあり、又た溯つて明治十七年には、同郡梶原村に材木商店を開き、是亦た今尙は繁榮しつゝあるが、君の斯く種々の事業に手を出せるものは、自ら求めて之に當らんとするにあらず、子息多人數あるを以て、其子息等の各好む處に從ひ、以て自立の途を求めしむるにあり、其子孫繁榮の策を講ずる、亦た當を得たるものと云ふべきなり、尙君は曾て諸種の名譽職に就き、又た諸種の公共事業に金圓を寄附して賞狀等を得たることも尠からざるが、今や高齡に達して閑を得つゝあり、而して其本業は令息孫三郎氏專ら之を管理しつゝあるが、令息亦君の資性を受けて、最も業務に着實勤勉なり、其今日に至るまで尙世を襲がざる所以のものは、諸種の名譽職其他の煩累身に纏はりて、爲めに本業の忽かせにならんを慮るが爲めなりと云ふを以て其業務に熱心なるを見るべきなり。



和洋菓子製造業

新杵商店

本店 桐澤桝八君（橫濱市南仲通三丁目）

支店 桐澤清吉君（東京市日本橋區照降町）

新ノ一

三等賞牌受領

數代の老舗にして其名を得たるものはあり、能く一代にして老舗に優る名聲を博し得たる新杵商店の如きは蓋し甚だ稀なる所なりとす、橫濱に於ける新杵本店の名は能く全市に於ける全業者を壓倒して、其製造の和洋菓子共に內外人の爭ふて之を愛翫せるは、世人の熟知せる所の如し、而して其東京に於ける分舗の、日本橋親父橋畔に屹然として聳ゆ、能く他の老舗を壓せんとしつゝあるも、亦た世人の熟知せる所なりとす、其橫濱の本店は乃父桐澤桝八君の主管する處にして、而して其東京の分店は子息桐澤清吉君の主宰する所たるなり、君等父子共に斯業に非常なる熱心の人にして、相俟ち相扶けて益々菓子の製法に改良を加へ、日進月步敢て少しも後るゝとなく以て新杵本分舗の名を益々發揚せしめつゝあり、乃ち全店の沿革を述べんとせば、父子を併せて之を叙せざるべからざるなり。

乃父桝吉君は其十一歳の時甫めて、當時江戸有名のものにして本丸の御用を勤めたる、日本橋石町越後屋播摩に就き、菓子製造業を研究したり、而して其獨立斯業を營むに至りたるは實に明治八年、今を距る僅かに二十餘年前の事なりとす、抑も一事一業を起すは決して容易の事にあらず、其中に就ても未だ他人の知らざる新案新事業を企て、能く之に成功する如きは、一見甚だ難事なるが如くにして、而して其實未だ最難事と稱するに足らず、何となれば新案の事業は他に類なくして、一たび其事の人氣に投せんには、忽ち需要一巳に集まり來りて、期せずして産をなし得べければなり、獨り從來有觸れたる職業に從ひ、而して何十年何百年の老舗を凌ぎ、以て能く其事の成功を期せんは、蓋し難事中の難事と云はざるべからず、殊に君の擇べる菓子製造業の如きは、其和菓子は何百年來老舗を以て誇れるもの勘からず、洋菓子の如きも明治初年以來夙に之を試むるものありて、其類甚だ夥しとせず、君此間に立ち、能く其成功を見たるもの、非凡の伎倆を有するにあらずんば能はざるなり、否獨り其非凡の伎倆を要するのみならず、又た能く非常の勤勉勵精を以てするにあらずんば、決して其成功を望む能はざるなり、乃ち知る君等父子の伎倆非凡にして、而して其勤勉勵精の、亦決して尋常一樣にあらざるを、此事既に以て優に勤業上の功績として傳ふるに足るべきなり、君等父子は極めて着實誠廉の人なり、業務に對する一に此心を以てし、又た能く勤

勉敢て一日も怠らず、其勵精眞に驚くべきものあり、業を創めて以來今日に至るまで、一日として自ら其製造場を監督せざるなく、菓子の餡の如き、自ら味ふて其鹽梅を加減し、意に滿たざるものは幾度も之を變ぜしめ、其意に滿つるに至つて初めて製造に着手せしめ、決して粗製濫造を許さず、其熱心なる使役せる職工等の常に驚嘆する所なりと云ふ、君等又た然諾を重んずること極めて深く、一たび口外したることは決して之を違約せず、業務に對する亦た能く此心を以てして、茲に世の信用を博するに至るものとす、此熱心と此信用とは、同業者極めて多き此業務の間に立ちて、能く其成功を致さしめたる所以にして、創業後未だ幷年ならざるに、新杵菓子舗の名早く既に世人の知る所となり、爭ふて其菓子を購ふに至り、一の蹉躓をも見るなくして能く其家運を隆盛ならしむるを得たり。

其業漸く成るに及んで忽ち最初の意氣の銷沈するは人情の常なるに、君等父子の熱心は年所を經るに從ふて益々深く、夙夜黽勉して敢て渝らず、日に月に愈々其聲價を高めて、獨り其創業地たる横濱人士の嗜好を、一に之に向つて集注せしめたるのみならず、更に進んで東京に分舗を開き、帝都何百年の老舗と拮抗して、能く之を凌がんとするの盛況を呈したるは、僅かに創業後數年間の事なりとす、以て愈々其精華を見るべきなり偶ま明治二十年米國に開龍世界博覽會の開かるゝあり、君等父子は日本菓子の眞味を外國人に知らしむるは此時にありとなし、夥多の職工を引率

して仝地に渉り、其製品を仝博覽會に出品せるの側ら、茶業組合中央會議所の催ふしに係る、仝地日本喫茶店に菓子の供給をなし、日本固有の良菓を以てし、茲に初めて日本茶と日本菓の眞味を米國人其他世界各國の人々に知らしむるを得て大に其注意を喚起したり、今日日本菓の外國に輸出さるゝもの頗る多きを加へたるは、君等父子の功勞最も其多きに居ると云ふも、敢て誣言にあらざるべきなり、斯の如くして仝喫茶店の催ふしは好評嘖々として仝博覽會の大呼物となり、獨り茶業組合と君等父子の名聲のみならず、大に日本の名聲を高むると同時に仝博覽會よりは其出品に對して優功一等賞の重きを授與せられたり、而して其賞讃狀に曰く、『今回閣龍世界博覽會開設に際し、日本國の菓子數十種を陳列せり、就中日本喫茶店に於て供せられたる數種の茶菓は、風味最も醇良なり、殊に其技藝卓絶意匠の巧妙及び其着眼の拔群とに依り、斯業の進歩完成を致したるの功勞を認め之を表彰せん爲め茲に優功一等賞牌を附與す』と、何ぞ其賞辭の慇懃なるや、以て其如何に名聲を發揚したるかを想像するに餘あるべし、斯くして其日本菓の粹を外人に知らしむると共に、引率せる職工をして大に外國菓子の製法を研究せしめ、益々之に依りて洋菓の製法に一大改良を加へ、和菓と共に益々之を精選して、一層世來之の嗜好を喚起するに至り、今や橫濱は勿論、汎く內外貴紳の輩の新梓の菓子ならでは之を茶席に上せざる程の盛況を見、其名聲愈々嘖々たり。

鬱に閣龍世界博覽會に際し、始めて我が菓子の風味を萬國の人士に知らしめ、頗る賞讃を受け、爾來內外を折衷して能く新意を出し、今回數十種を出陳せり、就中巢龍及び蓬龍煎は最も佳品たり、殊に克く祖業を恢弘し、前會以來販額大に增進せり銳意業務に勉勵するの結果にあらずんば、焉ぞん能く此に至らんやとは、去二十八年京都に於ける第四回內國勸業博覽會に於て有功賞牌を得たる時の賞讃の辭なりとす、以て其閣龍世界博覽會以來如何に世に注目せられつゝあるかを知るべきなり、其製品は曩の閣龍博覽會と此第四回內國博覽會とに於て受賞せるとも甚だ少からず、今其二三を摘記すれば、曾て二十三年東京會等に於て受賞せるとも甚だ少からず、今其二三を摘記すれば、曾て二十三年東京に於ける第三回內國勸業博覽會に於て有功二等賞を受領したるを初めとし、第四回同會に於ても同じく有功二等賞を得、三十年十一月第二回水產博覽會に於て有功二等賞を受け、三十二年五月仝國意匠工藝品博覽會に於ては二等銀牌を授かり、三十三年十月神奈川縣農會品評會に於ては二等賞を領し、三十四年三月商工聯合品評會に於ては有功賞銀牌を得、今又た第五回內國勸業博覽會に於て三等賞牌を受領せる等、何れも其製品の佳良なるを證するに足るべきなり。

君の店に於て特製せる新珍の美菓甚だ勘からず、就中鳳瑞の如きは、叡聖文武なる天皇陛下の御稜威に依り、四海靜穩なる聖世を祝する爲めに發賣せるものにして、其風味の絶佳なるとは云ふ迄もなく、奇薫郁々として一喫忽ち爽快を感ずるよ、彼の

鳳髓も啻ならず、而かも滋養分多量にして衛生上に特効を有するものたり、又たリ
ッチメンなる菓子は、都鄙一般殷富充實なる現世を祝して製造せるものにして、常
に之を食すれば身体を強健にし智力を進め、能く其名の如くリッチメンたるとを得
べく、又た黄金糖、鷄卵飴の二種は、東京分舗の滿三年を祝し、衛生上稗益勘から
ざる原料を精選し、製造したろ逸にして、常に此二種を併せ用ゆれば、身心爽快に
して、晨起の人となるを得べし　二ふ、其他水晶飴、つれ〳〵糖　ビスケット、閻
龍煎、玉露糖、デセール、巢ごもり、ワーフル、ヨームビスケ、健胃豆、音の梅、メ
レンゲ、ウエーフル、キャンデー、ボン〳〵、ドロップ、調
布、瓦糕、ゴムドロップ、昆布羊羹、懐中しるこ、水晶シロップ、薄ざぬ、衛生飴
さゞれ石等、皆仝店の特製として其風味佳良のものたり、而して特にライオン印ビ
スケットは仝國一の美菓として最も珍重すべき品なるも、其價極めて高きを以て賣
行甚だ多からず、之に依りては寧ろ損失を見るも、君等父子敢て之を意となさず、只
だ其製菓の粋を示さんが爲めに特に之を製造しつゝあり、亦た以て其業務に熱心な
るの一端を窺ふに足らんか。

君の店方今更にサンテーなる口中香錠を發賣せり、右は極めて馥郁たる香料と、他
の滋養分とを以て製したる丸劑にして、一たび之を口中に入るれば忽ちにして口内
の臭氣を去り、能く精神を爽快にし鬱を散ずるのみならず、之と對話せる他人にま

で其香氣を傳へ爽快を覺ねしむる者にして、最も交際家の必要品たり、由來歐米各
國にては夙にチェウインガム(Chewing gum)なるものあり、紳士淑女の口中香料として
常に懐中を放さゞる所のものにして、其用は煙草の代用とし、鬱を散じ精神を快活
ならしめ、旅行等には最も必要のものたるなり、君の店曾て此チエウインガムの日
本一手販賣をなし來れるが、更に此方に改良を加へ、終に自らサンテーを創造して
以て發賣するに至りたるものなり、右サンテーは一の銀丸にして一見甚だ藥劑の如
くなるも、決して藥劑にあらず、無論之を菓子店に於て販賣すべき性質のものにし
て、他に於て販賣すべきものにあらず、左れば西洋にては何れも之れを菓子店に於
て販賣せるも、我邦の菓子舗未だ之を販賣せるもののあらず、偶ま都下の藥舗之に類
似の品を發賣せるものあるも、這は素より採るに足らず、且つ其他店が之を發賣す
るに至りたるも、君等父子が右サンテーの包裝意匠の考案中、偶ま人に向つて之を
洩したるより他の先んずる所となりたるものにして、世人此種の元祖として君を推
すに躊躇せざるべし、左れば其發賣以來未だ間もあらざるに、早くもサンテーの名
汎く世に知れ渡り、今や交際社界の一大必要品として大に持囃されんとするの趨勢
を示しつゝあり、亦た能く機に投じたるの擧と云ふべきなり。

今や君の店益々繁榮の域に達し、菓子製造職工の如き本分店を合して百名以上を使
役せるも、尚ほ其不足を感ずる如きの現況なりとす、而して其販賣店は各本分舗の

第二編　新柞商店

外横濱市永樂町一丁目にも一の分舖を有し、又た支店としては東京市神田區和泉橋通り佐久間町二丁目にあるものを初めとして、上州前橋、大磯茶屋町、名古屋大須門前町、信州長野等各地に亘りて、何れも其賣行甚だ盛んなるを見る、其他外國に輸出せらるゝものも尠からず、外國品の輸入は勿論之に依りて殆んど全く杜絶するとを得て、其國益に資せると頗る多大なるものあり、君等父子の功績豈亦た大ならずとせんや。

新ノ八

日進塗料工場

（東京市小石川區仲町二十番地　電話番町一四一六）

二等賞牌受領

日進塗料工場は漆、ペイント其他總て塗料に關する改良進歩を圖らんが爲め、東京美術學校の出身者たる、六角紫水、磯矢完山二青年の手に依りて創立されたるものにして、方今其最も特長を現はせるは色漆たり、由來日本は漆國を以て世界に其名を得たるものにして、從つて古來製漆に關する研究決して淺きにあらず、能く精練熟磨の巧を積み、世の耳目を聳動するに足るの精品を出せるとも甚だ尠きにあらず而かも之に各種の色を出すとは殆んど不可能の事として放棄せられつゝあり、爲めに漆國たる日本の聲價は之を增進するとを得ずして、反つて粗製濫造の爲めに日に人氣を失墜しつゝありたるは、識者の常に以て遺憾としたる所なり、而して今や二青年の手に依りて、古來不可能とした各種の色漆なるもの發見せられ、其名に冠せる日進の勢を以て完成の域に向ひつゝあるは、我工業界の爲め最も喜ぶべきの現象にして、世人之を以て我が製漆業の一新紀元となすに敢て躊躇せざるべきなり。

六角紫水氏は廣島縣の人にして、夙に美術思想に富み、明治二十六年東京美術學校

を卒業し、能く群衆に卓絶するものあり、加ふるに卒業後更に其研究を怠ることなく側ら美術學校に教鞭を執りて數年を消し、仝三十年職を辭して日本美術院の正員となり、社會事業に從事せり、而して其間支那漆問題の起るや、吉田理學博士と共に渡清して、專ら支那漆に就き研究する所あり、歸朝の後屢々各地方に招聘せられて漆器改良策に關し考究する所あり、現に福島縣の如きは、氏に巡回教師を囑托して會津漆器の大改良を企圖しつゝあり、又た內務省よりは古社寺保存計畫調査を囑托せられて、年々各府縣社寺寶物の調査に出張しつゝある等、斯業に關する研鑽の功を積めること極めて淺からざるを見る、又た磯矢完山氏は大坂の出生にして、其父宗庸氏茶道を以て聞ゑ、岩崎家庭園の考案をなせる等最も有名の人なりとす、氏は此人の子として夙に美術の思想に富み、幼にして大坂芝川工場に入り、漆器業に就き研究する所あり、後仝工場を罷めて小川松民氏に師事し、仝氏の死後方今東京美術學校講師たる川邊一朝氏に就き、頗る研究を重ねたる末更に東京美術學校に入り、三十年仝校を卒業して後も更に斯業に關する研究を絶たず、又た久しく川邊一朝氏等と共に、帝室に於ける未曾有の大作たる御物御書棚の製作に從事し、傍ら社會事業に努むる所あり、是より先六角氏は久しく色漆自由發色法に就て研究する所あり、漸く其端緒を發見せるを以て、磯矢氏熱心之に援助を與ふる所あり、遂に其應用作法を完成するに至りて、茲に初めて二氏の共同工場成立するを見たり、是れ則ち當時

の日進塗料工場にして、其創立は明治三十四年八月に在り、其日は尙ほ甚だ淺きにも拘はらず、二氏の熱心は能く諸種の困難を排して、早くも之に關する大成功を遂げ、各種色漆の製作を仝工場の獨專事業として、其基礎を磐石の固きに置くに至りたるは、最も欽すべきの事柄にして、又た能く世の青年輩の摸範たり。

二氏が此工場を組織せる、其目的決して利を營むにあらずして、前述の如く我邦固有の製漆業日を逐ふて衰退の域に向へるを憤慨し、又た其他の塗料の進步改良を圖るものあらざるを嘆じ、自ら率先して之れを改良し之を進捗し、以て斯業界に鴻益を與へんと欲するに在り、故を以て二氏心を合せ、敢て一日も怠ることあらずして、專ら研鑽考究の功を積み、側ら後進者を啓發して、以て斯業の燈明臺たらんを期しつゝあり、其意氣の壯なる、人をして推服せしむるに足るものあるを見る。

前述の如く漆は古來殆んど發色法の自由を欠ぐものと斷定せられたり、維新後化學の進步するに從ふて、之が研究をなせるものも多く、僅かに發色せるものなきにあらざるも、學理上又たは實用上の何れにか缺點多くして、殆んど完成の域に達せるものあるを見ざりしなり、然るに六角氏初めて能く之が發見をなし、而して磯矢氏の援助を得て之を完成せる所の色漆は、實に學理實用共に間然する所なきものにして、既に吉田理學博士の調査を經て、其完全のものたるを認識せられ、爾來仝博士は仝工場の顧問たることを諾せらるゝに至れり、嗚呼二氏の苦慮考案は能く製漆業界

に一新面目を施して、漆國たる日本の名聲是れよりして益々高まるを得ん、其功決して沒却すべきにあらざるなり。

仝工場は創立後未だ二歳ならざるに、早くも其業務を擴張し、方今其執務せる所のものは、一般の漆器及び蒔繪に關し、最も嶄新なる意匠を用ゐ、最も篤實に其製作の依頼に應ずるの外、諸漆器及蒔繪に關する一切の考案圖案等に就き協議又は調製の依頼に應じ、其他漆或は他の塗料に關する室内裝飾及其圖案調製又は實施工事の依頼にも應じ、將た是等諸業の顧問、監督等の需めにも應じつゝあり、而して其工場に使役せる職工の如きは、總て尋常一樣のものにあらずして、斯業に志篤きも學資を拂つて研究するの餘裕なきもの等を集め、專ら之が指導啓發を目的として從事せしめつゝあるものなれば、單に其日の日當を得れば足れりとなす他の職工輩と異なり、何れも誠意斯業の研究を積まんことを心掛くるを以て、從つて其製品益々精巧を加へつゝあり、又た其色漆は學理上最も優等の品たるは勿論、實用上に於ても毫も普通の漆と異ならざるのみならず、色澤の美は反つて超越せるものあり、眞に間然すべき所なきにも拘はらず、二氏は尙ほ之に甘んずることなくして、益々之が研究の歩を進め、六角氏專ら其原料に盡し、磯矢氏專ら其應用を擔任して、愈々其蘊奥を發揮せんことを力めつゝあれば、其將來更に大成を告ぐるや期して俟つべきなり。

其五回内國勸業博覽會に出品したるは總計十三點にして、其中專ら漆の色を示さんが爲めに製作したる八個の卷煙草入あり、之に對して能く二等賞銀牌を得たるものなるが、色漆を以て此重賞を得たるもの、仝國中唯一の同工場あるのみ、巨多の漆品中より特に擢んでられて此重賞を見る、以て其如何に俊秀せるものなるかを知るべきなり、而して其受賞品は悉く大坂商品陳列所の買入るゝ所となりたりと云ふ因に記す右の色漆は、二氏十有餘年の日子と有らゆる資力を傾けて大成したるものなるにも拘はらず、其製品を出すこと少く未だ一般に認識せらるゝに至らざるを以て仝工場に於ては之れが披露を目的とし、其種類と數量とを限りて、目下月賦製作の依頼に應じつゝあり、其方法は三ケ月を以て一期となすものにして、其代價も特に普通價に比し一割以上を減じ、以て需要者の便利を圖ると共に、斯業の發達に努めつゝあり、思ふに其汎く一般人士の歡迎を受くるに至るも、決して遠き將來にはあらざるべきなり、六角氏本年三十七歳、磯矢氏二十九歳、皆最も春秋に富む、編者更に其將來の大飛躍を望むや極めて切なり、二氏乞ふ自愛せよ。

寫眞及石版材料製造販賣業

小西六右衞門君

（東京市日本橋區本町二丁目小西本店）

二等銀牌受領

君の家は古來東京市麹町區綴町四丁目に於て有名なる藥種問屋なりしが、明治十年中夙くも見るところあり、衆議を排して本店を本町二丁目に移し、寫眞及び石版器具の製造販賣に從事したるに、果して年々需用を增して、次第に販路を擴張し、今や日本全國何れの都市に至るも、君が商品の販賣店あらざるは無く、遠く歐米の市場に在りても、R.Konishi の名は東洋最大の寫眞及石版業者として認識せられ、各地大製造會社より其代理店若くは特約店たらんことを依賴するもの十數に下らず、以て其信用の內外に厚きを知るに足る。

初め君は外品輸入の不便にして、品價不廉なるのみならず、之れが爲めに財貨を外國に吸收せらるゝこと尠からざるを憂ひ、輸入を防遏して國益を增進せんと欲し、其第一手段として明治十七八年の頃より本所其他に數個の工場を設け、寫眞及石版器械の製造に着手し、內地に求むべからざる必要の原料を除くの外、一切外品を仰がずして、能く完全なるものを製造せしが、後には自家の改良を加へて、益々精巧の

譽ありしかば、數年を出でずして殆んど同店の製品を以て我邦の需用を充たすに至れり、然れども尙ほ消耗品の海外より輸入するもの頗る多く、就中乾板及び寫眞紙の如きは輸入總額の四分の三を占め、其代價に些少の昂騰を生ずるも、寫眞業者に影響すること多大なるものあり、然るに明治三十一年新稅率實施せらるゝに際して橫濱稅關に於ては審議の末、乾板及び寫眞紙に對して從價稅二割を課することゝなれり、君は之を以て我寫眞社會に恐慌を與ふること尠からざるを思ひ、獨り自ら奮つて時の大藏大臣松方伯に訴願書を呈出し　稅率適用に關する不服の理由を縷々具陳し、大に力むる所ありたる結果、同年十二月廿八日附を以て大藏大臣より『本訴願に關する物品は輸入稅表第十五號に依り課稅すべきものなりとす』との裁決書を得、一割五分稅に減せられしかば、同業者を始め苟くも斯技に從事する者は何れも君の盡力に對して一巳若くは團體の名義を以て感謝狀を贈るもの數十通に及び、君も大に滿足して爾後毎歲其日を期し、寫眞に關する有益の記事を編輯したる美麗なる小冊子を發刊し、紀念帖と名づけて同好者に頒てり。

以上の如く乾板及び寫眞紙は使用品中最も重もなるものにして、年々の輸入は實に數十萬圓を超ゆと雖も、未だ我邦に於ては之れを製造せず、嘗て明治二十二年以後に乾板製造を企てたるもの二三ありしかども、幾許もなく失敗し、終に該製造業は我邦に於ては不可能の一事たりと吹聽せられしを、君は大に遺憾として以爲らく、若

し斯事業を成就するを得ば、啻に我寫眞界の名譽なるのみならず、其國益を增進すること頗る大なるべしと、乃ち意を決して計畫すること數年、偶々佛國公使館書記官アダム氏の紹介に依り、斯術に關する學識と經驗とを有する佛人ゼオルヂ、スゾル氏を招聘することゝなり、仝氏をして先づ同業視察の爲め歐州の各工場を巡覽せしめ、仝三十五年一月仝氏の來朝を待ちて工場建築の設計を爲さしめ、又た一面に於ては前後九年間歐米に在て斯技の蘊奥に精通せるドクトル生田益雄氏を聘して、寫眞紙製造を擔任せしむることゝし、府下豐多摩郡淀橋町角筈に適宜の一地を相して仝年四月に起工し、今や落成の期に近づけり、同工場は本店と分離したる獨立營業にして、同店商標の櫻と君の名の頭字とを採つて六櫻社と名づけ、建築の半成を待ちて三十六年一月乾板及び寫眞紙の製造に着手せしに、其成績頗る佳良なりと云ふ若し夫れ斯業にして益々發達するに至らば、其影響する所外品の輸入を防ぐに止まらず、東は浦港より西は朝鮮支那を經て、遠くシンガポールに至り、南洋諸國を包ねて皆我供給地となるべく、其國益名譽を增進するの偉功獨り之れを君の掌中に收むるを得ん。

君は初め極めて質素の方針を採り寫眞及石版の器具は細微の附屬品と雖も、常に充分の設備を爲すに拘はらず、深く之れを藏して敢て店頭に飾ること無く、顧客の需めに應じて始めて之を示すを以て同店の特色と爲し來りしが、發明新作の品什年を

逐ふて增加せるに依り、茲に公衆縱覽の便宜を感じて、明治三十年中本店の向側に商品陳列場を設け、用具一式を陳列したること大に時好に適ひ、爾來販路大ひに擴張し、業務愈々隆盛なるに至りたりと云ふ、今回第五回內國勸業博覽會に於て二等銀牌の賞を獲たるは、其の出品の寫眞暗函及び乾板寫眞紙の佳良なるに對してなり殊に乾板寫眞紙に對する行賞の如きは、愷かに該事業に於ける君の成功を證するものにして、又た他に決して比類なき所のものなりとす。

赤十字石鹼
各種製造業

井村房吉君

家號整興社

（東京市本所區柳島梅森町七十二番地）

井ノ一

三等賞牌受領

君は明治六年十月を以て兵庫縣姫路市に生る、其家小間物商を以て業とせるに依り君も亦た幼少よりして其業に就き練習せるも、元大志を抱けるの人、何ぞ區々たる地方の一小商業を以て甘んずるとを得んや、依て東京に出で各種商工業の實際を觀察せんと欲し、父に乞ふて其許可を受け、明治二十四年初めて上京したり、時に年甫めて十八、尙弱冠の身を以てして、其着目する所既に衆に卓るゝものあり、仔細に諸種の商工業を觀察して、居ること數閱月、而して未だ能く意に滿つるの事業を發見する能はず、其選定に苦心せるの矢先に當りて、圖らずも一日數個の和洋石鹼を購ひ、之を彼此比較するに我が製品の拙劣なること極めて甚しく、其相違殆んど霄壤も啻ならざるを見たり、蓋し當時は我國石鹼の需要尙ほ甚だ多からず、我國に於て製出せらるゝものは彼の多量の水分を含める椰子製のものゝみにして、專ら安價を主とせる粗製品たるに過ぎず、少しく上等の石鹼と云へば必ず之を舶來品に仰げるの有樣なりしを以て、其製品の甚しく相違せるも決して偶然にはあらざりしなり、時

に君窃かに思へらく、我國の文運は日一日進歩して止まらず、就中衛生の如きは官民の共に奬勵する所にして、且つ潔癖の特質を有する我邦人のとなれば、其進歩も一層甚しきものあるべく、而して石鹸は衛生上最も必要欠ぐべからざるの日用品なるを以て、其需要の益々増加するに至らんは、蓋し必然の勢と云ふべきなり、然るに我邦の如き粗悪の製造品を以てしては、決して之が必要に應ずる能はず、需要はに我邦の如き粗悪の製造品を以てしては、決して之が必要に應ずる能はず、需要は益々外國品に奪はるゝに至らんは疑ひなきの事實なりとす、若し果して然らんには其國費を消耗すると決して勘からざるものあるべきなり、左れば吾れ今石鹸の製造業に從事して、能く精良のものを製出せんには、汎く世の需要に應じて以て一家を立つるとをも得べく、又た能く輸入を防遏して以て國益を増進するとも得べけんなり、否獨り輸入を防止するのみらず、更に進んで之を海外に輸出するに至らば、其有利果して如何ぞやと、此好箇の觀念は此好箇の少年の意を刺撃して已まず、乃ち斷然之を以て世に立たんとを決心したり、依て先づ仝製造法に就て研究せんと欲したるも、仝製造家は其極めて幼稚の製造法すら、尚且つ深く之を秘して容易に傳習の途を與へず、又た刊行物等の更に之を徴すべきものあらざるを以て、君の苦心は殆んど名狀すべからざるものあり、或ひは石鹸の實物に就て之を試驗し、或は諸種の方法を參酌し、幾多の經營を重ねて僅かに其製法の端緒を窺知するとを得たり是に於て藥品を購ひ之を試製したるに、事は豫期と違ひて殆んど何とも名狀すべから

ざるものゝ出來上り、折角投じたる所の資本は悉く水泡に歸したり、然れども君は決して之に落膽するとなく、更に研鑽考究をして再び試製せるも亦た失敗に歸し、斯くの如くすること實に數十回、其間に費したる幾多の費金と幾多の苦辛とは、實に想像に餘りあるものあり、而かも君は曾て失望の念を起したるとなく、愈々決心を固ふして之に從事したるの結果、漸くにして石鹸と目し得べきの品を製出するを得たり、依て淺草區の某所に狹隘なる一戸を借受け、之を工場として愈々實地製造に着手したり、然れども其製品未だ決して精良のものなるにあらず、加ふるに君の經驗尚ほ甚だ薄きを以てしたれば、實際之を販賣するに當つてや、更に世の注意を喚起するに足らずして、一も之を市場に上すを得ず、君が當初の豫期も全く畫餅に屬して、最早如何ともなすべからざるの境遇に陷り、多少の資本金は今や全く蕩盡し、殘れるものは出來損じの石鹸のみ、目前米鹽を購ふの料にすら欠乏を告げ、而して前途を望めば甚だ遼遠にして、果して事業の成功を期し得べきや否やの見止さへ附かず、他に賴るべきの知人もあるなくして、殆んど四面楚歌の中に彷徨したり、若し夫れ普通の青年なりせば、此時に當りて必ずや失望落膽終に自暴自棄して復た爲すなきに至れるならんを、君の精神の牢固たる、敢て聊かも自失するなく、身は荒れに荒れたる陋屋の中に在り、塵埃堆積の間に飢ゑたる腹を抱ゑ、雨に打たれ風に曝らされて終夜思ひに沈みたること果して幾許ぞ、君今日に當りて當時を追想し思はず

慄然たるものありと云ふ、此困難を凌ひで、而して益々不撓不屈の精神を奮起し、更に研鑽を重ねたる末、遂に一新法を發明するとを得たり、其一新法とは他なし、從來の石鹼何れも多季に至れば、其中に含有せる曹達の性分を吹出し、外箱にまで侵出して實に不潔不体裁なりしは、世人の能く知れる處なりとす、然るに君の發明したる新製法に依る時は、毫も曹達の侵出するとなく、如何なる寒氣に接するも更に其憂なきを得て、茲に初めて君の製品が世に歡迎せらるゝの端緒を得たり、是に於て君は益々其志を奮起し、製法を精選して汎く販賣するに至りたるが、大に世の高評を博して、茲に多數の注文を受くるに至りたれば、從來の塵埃堆裏今は工場とし て之を用ゆるに堪へず、依て始めて淺草區田島町に相當の一戸を借受け、工場の設備を整頓して、奮つて製造に着手するに至りたり、然るに時恰かも日清の平和破れて、千戈相交ゆるの不幸に陷り、君も亦た豫備徵員たりしの故を以て召集せるゝとなり、二十七年十一月入營するの身となりたり、是に於て君が積年慘憺の餘に成りたる仝事業の、忽ち鋒先を折かれたるも、一家の事素より奉公の大義に代ゆべきにあらず、乃ち總ての事業を抛ちて入營し、第一軍に從ふて仝年十二月渡清し遼東の野に轉戰して彈丸雨飛の間を往來し、時に斥候に出でゝ敵の追擊に遇ひ、萬死に一生を得たるも尠からず、斯の如くして備さに危險を冒し、殊功を樹てゝ翌年六月無事凱旋し、直ちに除隊となりて再び石鹼製造業に從事するに至りたり、君は從

軍中見聞せる所の、赤十字社の事業極めて偉大にして戰友等の負傷し又たは疾病の爲め收容せらるゝもの、將た敵兵の傷病者に至るまで、一視同仁之を治療看護して敢て至らざるなきを深く嘆稱し、仝社の設立の初めは實に一婦人の熱誠に成りたるものなるを聞きて、其感愈々深きものあり、仍て其偉功に因み、自己の石鹼に附するに此名を以てせんとを考ねたり、蓋し其意は赤十字社が戰時に在て偉功を奏するが如く、自己の石鹼の衛生界に在て偉大なる功績を擧げんとを期したるものなるべく、其抱負の大なる以て見るべきなり、乃ち其石鹼を赤十字石鹼と稱し、益々其製造法に改良を施して、遂に能く外品を凌駕するの精品を出すに至りたり、而して其資本金も漸く茲に調達するを得たれば、其年八月淺草區永住町に轉住し、資本金の許す限り其業を擴張し、赤十字石鹼の登錄商標を附して、盛んに之を發賣するに至りたるが、折柄戰後の好景氣に連れて、其商勢日を逐ふて盛大の域に向ひ、君の素志漸く其緒に就き、之より更に進んで大に雄飛を試みんとするの矢先に當りて、再び二十九年三月現役兵不足の爲め補充として召集せらるゝの身となりたり、當時君は大に其事業の擴張に着手せるの折柄にて、其困難は初め召集の時に數倍し、事業の頓挫名狀すべからざるものあるも、君敢て之を顧みるとなく、奮然入營して清國威海衛守備隊に編入せられ、仝地に渡りて居ること一年、翌年六月歸朝の上除隊となりたるを以て、直ちに再び仝事業に着手したるも、當時は既に戰後事業の膨脹して

第二編　井村房吉君

其進歩の度著しく、石鹸事業の如きも亦た舊來の製法を以てしては、到底前途の盛大を期すること難きを知りたり、然れども創業日尚ほ淺く、殊に開業以來二度迄も軍隊の召集に應じたれば、製造機械の購入の如き決して容易の業にあらず、茲に於て君は又た々々非常に苦辛經營する所ありたり、仝三十二年に至り、益々在來の製造の舊式にして、之を改めざるべからざるの必要に迫り、煉器械なるものを購求せんと欲したるも、其資金不足せる爲め更に種々奔走し、漸く之を購入するを得たるを以て、更に製造法に一大改良を加へ、種々新意匠の品を製出して之を發賣するに至りたり、此間君の苦辛經營は筆紙に盡すべからざるものあり、其結果能く世の高評を博するを得て、注文益々增加するに至り、夜を以て日に繼ぐも尚ほ足らざるの盛況を呈し、茲に永住町の家屋も忽ち狹隘を告ぐるに至りたれば、更に現在の處に家屋を新築して、以て今日に至れるものにして、今や赤十字石鹸の名は到る處之を知らざるものなく、其効用其名に對して恥ぢざるものあり、尚ほ方今は赤十字印の內富士印三種、博愛印三種、須磨印三種を製出し、何れも充分品質に責任を負ふて發賣するに至りたるが、其製品悉く能く世の嗜好に適して、獨り內地仝體に行渡り、以て君が當初の目的たる輸入品防遏の實功を擧げ得たるのみならず、更に進んで汎く之を海外に輸出するに至るも、決して遠き將來にあらざるべく、君は益々不撓不屈の精神を鼓吹し、毫も倦怠することなく、日に其品質改良に意を砕きつゝあり、其前

途の益々有望なる想ふべきなり、君は曾て三十一年香川縣に於ける第七回內國々益品縱覽會に出品して有功一等賞金牌を受け、又た本年の第十回仝會に於て、名譽賞金牌を得、更に今回第五回內國勸業博覽會に於て重賞を得たる如き、亦た當然の事と云ふべきなり。

色元結製
造販賣業

吉川金兵衛君

（東京市本所區相生町一丁目七番地）

三等賞牌受領

君の店は文化年中に創むる處にして斯業中頗る老舗たり、明治元年初めて元°結°に着°色°したるは君にして、爾來他に之を擬するもの續出したるも、多くは蠟を引き光澤を出せるものにして、變色剝落等を免かれざるに反し、君は特種の製法に依り之を製するを以て更に其憂なく、且つ引力強くして光澤も他品に比し數等の上に在り、從つて其販路も他に卓絶すと云ふ、殊に明治二十三年第三回内國勸業博覽會に出品して三●等●有●功●賞を得たるより、其名聲一層高まり、特に關西地方に於ける販路を大に擴むることを得たりと云ふ、此色元結の長きものを物°結°びと稱し、同じく君の製造する所にして、去二十四年中横濱居留地六十七番館ボール商會の手を經て、佛英米等の諸國に輸出したるに、亦た能く外人の嗜好に適し、爾來漸次其輸出數を增加し特に方今英米二國への輸出多く、甚だ盛況を呈し居れり、君は業に服する最も着實精勵にして敢て苟くもせず、愈々製法に改良を加へて時勢の進運に遲れざるを以て其製品は内外共に毫も聲價を下すとなくして、販賣高年に月に其增加を見つゝあり今回第五回内國勸業博覽會に三等賞牌を得たる、亦た當然と云ふべきなり。

絹手巾製
造販賣業

中西儀兵衛君

（東京市日本橋區葺屋町七番地）

二等賞牌受領

君は天保十二年正月十六日を以て江戸日本橋西河岸に生る、熊澤兵八の長子にして母を吉澤美喜子と云ふ、君幼名長吉、資性恭謙能く父母に事ふ年市て十一、出でゝ日本橋伊勢町松田喜右衛門の店丁となり、精勵克く主家の信を得、廿二歳其番頭支配役に擢でられ、今の名に改む、二十八歳にして中西家を繼ぎ通勤番頭となる、時恰も明治維新に際し商海一大變動を來せしを以て、君身力を拋て主家に盡す所あり尋て下總原野八街窮民授産の爲め原野の開墾あるや、君主人と共に熱心之に從事す以後勤續する廿八年に及ぶ、元來君の養家は商估にあらざるも、君幼より商家に成長せるを以て、身を之に委ねて國恩に報せんことを期し、主家及養母佐知子の承諾を得て、明治十二年十一月十六日創めて舶來雜貨店を現地に開業せり、時に年三十七なり、當時既に養母中風症に罹りて病臥しつゝあり、君夫人龜子と共に且暮病床に侍して看護十數年一日の如く、未だ曾て毫も倦色なし、人其孝道を賞せざるなし爾來孜々として業務を經理し、更に意を社會の趨勢に注ぎ、國家有利の事業を起さ

んと欲し、竟に自家營業品に見る所ありて、率先ハンカチーフの製造を企つるに至る、蓋し是れ本邦斯業の嚆矢なり、此時に際し君は我が國俗民風の歐州文明に進化し來りて、其粧飾品の輸入日に盛なるを洞察し、外國貿易の均衡を失はんことを憂へ、先づ其需要に富める、女持煙草入の輸入を防遏せんとして、之が製造を內地に試みしに、苦心の結果遂に舶來品に優る所の製品を得て、大に世の賞賛を博し、專ら貴婦人令孃等の用品調製に應じたり、明治十九年東京府工藝品共進會の開設に際し之を出品し、頗る內外人の高評を得たり、而して君が宿望とせるハンカチーフ及び首冠卷は實用的裝飾に屬する需用品にして、其輸入額亦尠少ならざるを察し、之を本邦特色物產たる絹布を以て製作せば必ず外人の嗜好に適して、輸出重要物產となるべきを思ひ、熱心以て山梨群馬等諸縣の機業家に諮り之が製作を試みしに、機未だ至らず損失を招き資產を傾くるに及びしも、君敢て屈するなく、銳意熱衷を此に灑ぎて經營到らざるなく、或は產地に出張して機業家を奬勵し、又た山梨縣郡內北都留郡に至りて其有利の事業たるを說き、終に其地の機業家伊藤井上兩氏の賛同を得、之が販路の機關として郡內織物會社を起し、其擴張に勉めて大に同地方の產業を富まし、時の郡長藥袋義一氏をして屢々感賞の辭を與へしめたり、明治二十三年第三回內國勸業博覽會の開設に際し、ハンカチーフ及洋傘を出品して共に褒狀を受領せり、是れ實に斯業に於ける受賞の嚆矢たり、爾來ハンカチーフ及首冠卷の販

路漸く開くるに從ひ、社會の嗜好に鑑みて斯業を專門とするに至り、進んで西陣、桐生、足利、川俣、信州等の機業家を促し、益々其織製の改良を圖り、糸質の精選染色の改良よりして、刺繍の精良印刷の鮮麗等に至るまで、千辛萬苦之を經營せざるなく、或は意匠を海外の流行に求め、或は本邦固有の美術を應用して、專ら實用と裝飾の二點に注意し、且つ勉めて價格を低廉ならしめ、益々世の好評を博するに至りたり。

明治二十七年日清戰役當時、聊か報國の微意を以て赤十字社正社員となり、翌二十八年第四回內國勸業博覽會の開設あるに當り、出品計畫中、圖らずも商業上不慮の災害に遇ひ、之が爲め出品をなす能はざりしのみならず、殆んど破產の不幸を見んとしたるも、君が不撓の一念能く之を挽回して、幾ばくもなく復た世の信用を得るに至れり、時恰かも日清戰役に際し、陸軍省恤兵部及び本願寺等より軍用品手巾の調製を命せられ、大に名聲を高め、由りて以て今日の繁盛を來すの端を作れり、三十一年日本赤十字社總會に際し、紀念用絹手巾の調製をなし、三十三年北淸事件の起るや、又た陸軍省御用綿手巾の製作に從事す、此時に當り日本赤十字社救護船博愛丸聯合軍傷病兵の救護に盡し、內外人の感激する所となる、君又同社忠愛の主旨に協同し、國恩の萬一に報せんが爲め金二百圓を寄贈す、此年十二月同社長伯爵佐野常民氏は君の篤志に酬ゐん爲め木盃一個を贈り、永く謝意を表せられたり、明治

卅三年五月東宮殿下御慶事奉祝の微意を表せん爲め、菊桐藤模樣手巾十二枚を謹製して獻納し嘉賞せられたり、尋て又東宮御慶事紀念美術館建納の擧あるに際し、金百圓を獻納して其美擧を贊したり、卅四年四月日本赤十字社にては君が社資幇助の功に對し、社則に照し特別社員に推薦したり、卅五年五月博愛厚義の主意を贊して大日本水難救濟會正會員となる、此年四月菅公千年祭の擧行あるや、筑前太宰府京都北野東京龜井戸等の各神社幷に寺院に指金する若干たり、同年日本美術協會秋季展覽會開會に際し、印刷君が代模樣手巾及び龍雀模樣スカラ刺繍手巾を出品して一等褒狀を授與せられ、又其出品に係る赤十字社二十五年祭紀念模樣ヘンム刺繍手巾に對しては二等褒狀を受與せらる、三十六年三月第五回内國勸業博覽會の開會に際しては其出品の君が代模樣のスカラ刺繍十二枚及花兎の模樣ヘンム刺繍手巾十二枚何れも東宮兩殿下御買上の恩命を辱ふし、猶其マフラ及前記の絹手巾各種に對しては孰れも共に二等銀牌を得たる等、以て其如何に精巧なるかを知るべきなり、君は以上の如く業務に忠實なるのみならず、愈以て精良のものを製出するに勉め、本年六十三の高齡を以てして、尚鑛鑛自ら大阪に出張し其事務を執り、閉會に至る迄孜々怠るなく、實に壯者も及ばざるの概あり、君其店員を御する懇切を極め、其家庭に在つては圍欒克く其圓滿を做すもの、以て君が人と成りを證すべく、其素行亦以て推服する所たり、而かも其事業の發達進歩を計り、今日の隆昌を來せし苦心名狀

すべからざるなり、今ま爰に君が經歷を叙して後進徒弟の龜鑑となす、豈に夫れ世道人心を稗益するに足らずとせんや。

東京瓦斯株式會社

（東京市神田區錦町三丁目二十三番地）

二等賞牌受領

瓦斯の用や極めて廣し、其光用ゆべく、其熱用ゆべく、又た其動力用ゆべし、而して清潔と安全と輕便と經濟との四德を兼備するが故に、之を燈火に用ゐて幾多の利便を市民に與ふるのみならず、又た帝都の光彩を添ゆ、之を工業の原動力に使用して、獨り其工場主を益するのみならず、延て一般工業の發達を幇助す、瓦斯の効用斯の如く莫大なるを以て、歐米文明國の如きは、都會は勿論小市街に至るまで、貴賤共に燈火は言ふに及ばず、家庭の庖厨には石炭及薪炭を用ゐずして、一般に瓦斯を應用するの風、年一年に隆盛となり、殊に瓦斯機關は市内工業動力用として盛んに行はれ、既に英國倫敦市内のみにて、瓦斯事業に投せる資本金は、實に六億圓以上の巨額に上れりと云ふ、東京瓦斯會社は我が大都に於ける唯一の瓦斯供給所にして、其効果の我が市民を稗補せると實に尠少ならざるものあるを見るなり、同社の事業は元東京府に於て、明治七年創設したるものなるを、同十八年に至り、澁澤榮一、藤本精一の兩氏總代となりて之が拂下を受け、株式會社組織に變更し、二十七

萬圓の資本を以て事業に着手したるものなるが、前述の如く瓦斯は文明の利器として必要欠くべからざるものなれば、市民の發達と共に年々其需要を加へ、極めて平調に極めて安靜に、能く其隆盛を增加して、以て今日の狀況を呈するに至りたり、今其創業以來の瓦斯產出高を見るに、明治十九年頃は一半季毎に一千萬立方呎內外に止まれるもの、二十五年頃は既に其倍額に達し、二十七年下半季は早くも三千萬立方呎以上となり、二十九年は更に進んで四千萬臺となり、三十年上半季は六千萬臺を超ゑ、三十二年下半季は一億一千萬の巨額に達し、更に累進して本年上半季二億一千百三十三萬千百立方呎の驚くべき多額に上るを見たり、而して之に要せる石炭の總量は實に四千百十七萬四千百二十斤、即ち一萬八千三百八十一噸餘に上れるなり、斯くの如く產出高の增加せると共に、供給高の著しく增加せるは無論の事にして本年上半季間に於ける同供給高を日割にせば、一日平均百十六萬五百三十三立方呎に當り、之を其前年に比して一日七萬六千四百六十一立方呎の增加を見たり、本年上半季は人も知れる如く、一般の商況殊に不振なりしにも拘はらず斯く需要家の增加せるは、世人が瓦斯の必要を感ずること益々切なるに至りたるの證として見るべきなり、殊に白熱燈の流行は逐年增加の度著しく、又た炊事用瓦斯の應用も頗る見るべきものあり、今本年六月末日現在の瓦斯引用家數を閱するに、燈火引用家一萬八千五百三十戶、燃料引用家九百八十二戶、機關引用家四百五十二戶、燈火口數八

萬二千〇〇八口、燃料口數九千百六十四口、機關臺數五百十六臺、同馬力數二千六百四十五馬力、街燈臺數千五百九十四にして、尙逐日其增加を見つゝあり、斯の如きの狀況なるを以て、最初二十七萬圓の小資本金を以て起れる同社は忽ちにして其資金の不足を感じ、十九年增加して三十萬五千圓となし、三十年之を倍加して百〇五萬圓となし、二十八年又た增して五十二萬圓の大資本となしたるが、今や更に其不足を感じて八百四十萬圓の大資金となさんと欲し、重役及び大株主間の議既に決せるものあり、將さに明年一月總會を開ひて之を議する所あらんとす、其可決の上は同社が更に一大飛躍を試むべきや刮目して俟つべきなり、方今同社は其隣地に一大製作所を有する外、芝區濱崎町三番地に第一製造所あり（本書卷頭に揭ぐる瓦斯貯蓄器は此第一製造所に在るものにして、乾燒として一の壯觀をなしつゝあり）府下北豐島郡南千住町大字地方橋場千四百五十一番地に第二製造所あり、深川區猿江町九十二番地に第三製造所あり、而して更に三十四年より同區本村町四十番地に副生物精製所を設立し、極めて盛んに其業務を營みつゝあり、又た方今同社が敷設せる瓦斯鉄管の延長は實に二百九十二哩餘の長きに達せるを見る、盛んなりと云ふべきなり。

瓦斯燈の效用は世人の既に熟知せる所なるも、更に之を概言すれば、之を店頭に點

じて最も陽氣に、之を座敷に用ゐて最も安全便利に、且つ裝飾の一具となり、又た其光力は強きのみならず、色彩を正しく示すが故に、呉服店勸工場其他商品陳列所等に最も適し、能く一所を明かに照をが故に銀行會社其他多數の職工を使役する工場等に最も宜しく、其他如何なる家に用ゐるも安全にして便利なると遙かに燈火に勝れり、其種類は實用ランプ、實用二等ランプ、兩用ランプ（燈火七輪兼用）腕ランプ立關ランプ、飾付ランプ、同釣ランプ、シーメン燈、アルガント燈、白熱燈等あり構造夫々相違して、各用ゆる所に依り總て妙なり、飾火は目下大に行はるゝ花瓦斯にして、家號商標營業品の名目形狀、總て隨意に之を現はすとを得、店頭極めて陽氣にして人目を引くこと此上なく、祭日其他廣告用招牌として最も妙なるは人の知る所たり、暖爐には石綿暖爐、白熱暖爐、射熱暖爐、サイホン暖爐、其他煙突を要せざるもの、種類多數あり、何れもマツチ一本にして直ちに焚付き熱は强大にして油煙なく臭氣なく、且つ安全にして石炭よりも低廉なり、料理用としては和洋向何れもあり、之を庖厨に用ゆるに場所を塞がずして、煮るも燒くも、將た飯を炊ぐも湯を沸かすも、極めて自由にして且安價なり、故に西洋にては貴賤共に、水道と瓦斯とを人生欠ぐべからざるの必要品とせり、瓦斯七輪、瓦斯釜、瓦斯風呂等よりして種々の工業用に至るまで、一も備はらざるなく、而して何れも便利低廉ならざるはなし、是等の諸器具皆全社の精巧なる技師と職工とに依りて製出され、能く世の

需要に投じて以て其便利と安全とを得せしむるのみならず、更に薪炭の費用をも節せしめて、以て國家經濟の上に資せるの點も甚だ尠からざるを見るなり、特に右の瓦斯竈の如きは、全社最新最良の案出に係り、昨三十五年二月之が專賣特許を出願して特五二一〇號の證を得たる所の精品にして、家々日々欠ぐべからざる炊米用として最も緊切の効用あるを見る、其他市內諸工業動力用として最も市內の工業家に利益を與へ、之に依つて大に市內の工業を發達せしめつゝあるは世人の親しく目睹せる所の如し、瓦斯の効用亦た偉大ならずとせんや、如上の諸種精良なる瓦斯器具は、全社陳列所に備付けられて直接に其効用を世人に現はしつゝあり、就て之を一覽し、購入若くは注文するの便法も設けられつゝあるなり。

又た其副生物精製所に於て方今製造しつゝあるもの、二三を摘記すれば、藥學博士丹波敬三氏の發明に係るクレシンは、東京帝國大學醫科大學教室及び東京傳染病研究所の試驗成績に依り、消毒殺菌の力遙かに石炭酸よりも强きものと認められ、且つ防臭の効あるものにして、便所、下水、芥溜及床下等平素不潔に成り易き場所に隔日一回位撒布せば、消毒防臭の効あるのみならず、流行病の豫防となり、又た蚊蚤其他惡蟲の發生を絶ち、且つ日常痰壺灰吹等に少量を注ぎ置かば、衛生上最も有益の品にして、而して其價は石炭酸よりも非常の低廉なり、又たクレヲソート油は木材防腐の必要品にして、鐵道枕木、電信電話木柱、建築用材其他とも、此油を施

さゞるものに對して、十六倍餘の保存力を有するものたり、左れば歐米にては一般に之を使用し、彼の明治七年京濱間の鐵道敷設の際、英國より輸入したる枕木の如き、之を注入したるものなるを以て、三十年後の今日に至るまで、尚其使用に耐ゆるを見る、故に目下遞信省、電話交換局、電信局、日本鐵道會社等皆之を使用せざるものあらずと云ふ、再製コールタールは瓦斯製造の爲め本邦隨一の石炭を使用して製出せる純良品なるを、更に工科大學教授高松工學博士の考案方法に依り、同社技師内藤工學士擔任再製したるものにして、品質一層精良となり、粗製なる人造品又は粗惡品を混合したる物等とは全く別物にして、濃厚黑色を帶び、塗料防腐用とも之に及ぶもの更にあるなし、右は農商務省の登錄商標を得たるものにして、其効用は工業用として造船、鐵工、屋根用、板紙其他の物質を鞏固ならしむるを初めとし、鐵金具の錆を止め、且つ光澤を生じ保存を永くし外觀を美にし、船底に塗りては防腐劑となるのみならず、又た船の進行を快利ならしむるの益あり、其他屋根垣、塀、樋等に塗りて何れも三倍以上の保存力を有する等、効用極めて多きものなりとす、其他ペンゾール及溶解ナフサ、ナフサリン、コールタールピッチ、石炭酸、ナフタリン等亦た其製造する所に係り、何れも精良能く其効用を完ふせざるなし、又た瓦斯コークスは薪炭代用の德用品にして、煙なく臭氣なく、而して火力最も强大なるものなれば、官衙、銀行、會社、工場、湯屋、理髮店等よりして、鍛冶工用、製造家用

等に至るまで、近來非常に需要を增加しつゝあり、是亦た國家經濟を益すると極めて尠からざるものあるを見る。

由來同社は諸種の博覽會共進會等、未だ曾て一回も出品したることあらざりしが、今回第五回内國勸業博覽會の開かるゝに當りては、其副生物精製所の製造に係るクレシン、クレヲソート油、コールタール、ベンゾール、ナフサリン、コールタールピッチ、石炭酸及び硫酸アンモニア等を出品して、悉く之に對して二等賞を得、又た瓦斯竈を出品し、之に對して褒狀を得たる等、皆以て其精良なるを證すべきにあらずや。

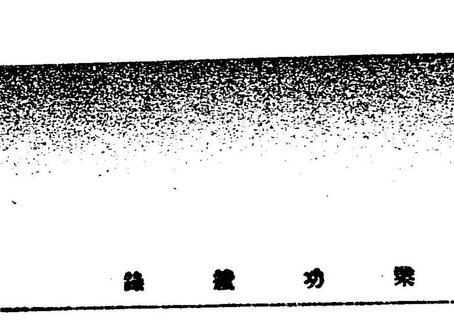
以上の如くして同社が東京市に貢獻せる所甚だ尠からざるものあり、之に依りて市の文運に多くの稗補を與へ、以て愈々市の繁榮を增さしむると同時に、又た能く同社の盛運を來すことを得たり、即ち知る同社事業の紳縮は東京市の盛衰と相關すると極めて切なるものあるを、而して世人將來益々東京の繁榮を必すことせば、同社事業の前途亦た其益々多望なるを必すべきにあらずや。

現今同社の重役及び重なる社員の氏名を掲ぐれば左の如し。

取締役會長	澁澤榮一君	專務取締役工學博士　高松豐吉君
取締役	渡邊福三郎君	淺野總一郎君
取締役	大橋新太郎君	椅田喜四郎君

監査役　西園寺公成君　監査役　淺野彦兵衛君
監査役　淺野彦兵衛君　支配人　福島甲子三君
技師長　平松末吉君

同社の將來係つて是等諸氏の双肩に在り、其任亦た決して輕きにあらざるなり。



東京瓦斯紡績株式會社

（東京市本所區押上町二百八十三番地）

一等賞牌受領

紡ノ一

全社は明治二十九年三月設立の免許を得たるものにして、其日尚ほ甚だ深からざるにも拘はらず、能く其基礎の鞏固なるを得て、數年來財界の不振、棉花相場の暴騰等、一般紡績業者に大打撃を與へたるもの一にして足らず、爲めに其錘數を減するもの、夜間の機械運轉を休止するもの、將た全然會社の瓦解を見たるもの等甚だ尠からざるの間に立ちて、依然其動搖を來すことなく、能く業務を維持して財界の不振に抵抗したり、而して全社は獨り此一般全業者が蒙れる大打撃に遇ひたるのみならず、更に他の特殊の一大打撃に遭遇したり、即ち昨三十五年全社職工中に惡疫ペストに罹はるゝもの頻繁にして、爲めに幾百の職工は隔離せられ、爲めに幾十日間全く休業の已むべからざるに至りたるのみならず、原料の燒棄、屋舍の取毀等諸種の事柄よりして、全社の受けたる損害は實に莫大なるものありたるは、世人の熟知せる如くにして、何人も之に對して全社に同情を寄せざるものはあらざりしなり、若夫れ其基礎薄弱の會社ならんには、此大打撃に遇ふて何ぞ能く瓦解せざるを得んや

然るに全社は此大打撃にも屈するなく、其隔離の解かるゝを俟ちて、直ちに諸般の整理をなし、舊に依つて再び盛大に就業するに至りたるは、素より其當事者の手腕非凡なるに依るものなりと雖も、又以て全社の基礎極めて鞏固なるものあるを示せるものにして、全社に對する世の信用は之が爲めに一層高まれるを見るなり。

全社は設立免許後直ちに第一工場の建築に着手し、三十一年十月二十日を以て業務を開始するの運びに至り、全月二十五日より晝夜の運轉を始めたるが、未だ暮年ならすして能く業務の盛大を來し、其工場狹隘を告ぐるに至り、更に三十四年一月臨時總會を開いて、第二工場の增築を議決し、直ちに建築に着手して、翌年五月其工を竣ゑ、茲に二大工場の運轉を見るに至りたり、第一工場は其建坪約二千坪、第二工場は約二千五百九十坪を有し、製造用機械は總て英國プラット社及びジョセフスタブス社製のものに依り、其最新式のものを採用せり、其錘數は精紡機五萬〇四百二十四錘、撚絲機一萬九千百五十二錘にして、又た其原動瀛械は、第一第二兩工場とも、英國ジョンマスグレーブ社製造のものを用ゐ、一は六百馬力、一は一千貫馬力を有せり、其製造方法は通常の綿絲紡績と大体に於て異ならざるも、只だ練条機（トローインク）を四回通ずると、練紡機（ローピングン）を通じたる後更に精練紡機フハインローピング）を通ずると、二子に撚り合せたるものを瓦斯の燃燒せる炎中に通じ、糸の周圍に於ける纖維を燒く事とは、普通紡績に於て見る能はざる所なり、是れ瓦斯

糸の名の因て起れる所にして、而して又た其製糸の普通紡績糸より精良なる所以なりとす、又た其原料の棉花も、普通紡績糸に用ゆるものと異なり、纖維の極めて細く且つ長きものにあらざれば使用に堪へざるより、專ら之を埃及産のものに採り、斯くの如くして全社の製出せる綿糸數量は、昨年上半季の産額百〇七萬〇八百五听二分五厘、此價格九十四萬九千九百四十九圓七十一錢、全下半季産額百七十三萬〇八百四十二听、此價格九十四萬九千九百四十九圓五十錢、全社現在の重役及び重なる社員は左の如し

社長	前川太郎兵衛君	日比谷平左衛門君
取締役	平沼專藏君	專務取締役
取締役	木村利右衛門君	柿沼谷藏君
監査役	小澤佐助君	馬塲金助君
事務長	小寺芳之助君	幸田成常君
副事務長		技術長代理
		淺田廣二郎君

全社今日の隆盛を來せるもの以上諸氏の經營其宜しきを得たる爲めと云ふべく、其勞誠に多とすべきものあるを見るなり。

壁紙製造業

山路艮三君

（東京市牛込區水道町四十番地）

一等賞牌受領

君は嘉永六年二月を以て東京市に生る、夙に技術を以て世に立つの志あり、明治十二年初めて印刷局に奉職し、同局印版部助役を仰付けられ、孜々勵精の功を積み、同十九年同局二等技手に擧げられ、同局製造の壁紙業を主宰し、能く其技術の精巧を積みたり、然るに由來壁紙製造業の如きは、民間一私人の爲すべき業務にして、政府の事業として經營すべき性質のものにあらざれば、同局に於て之を廢止するの議あり、終に明治二十三年憲法の發布と共に之を廢止するに至りたり、依て君も其職を罷めて民間の人となりたるが、君は同事業の最も有望にして且つ其有要の品たるを思ひ、自ら之が製造に着手せんとを企て、大藏大臣に乞ふて其認可を得、印刷局に於て同製造に用ゐたる不用の機械一式の拂下をなし、地を現在の處に卜して工場を新築し、印刷局の同業廢止と共に罷められたる夥多の技術者職工等を其儘自己の工場に使役するとゝして、同業に着手したるは實に明治二十三年六月なりとす、斯くして技術者職工は大に勤勉奮勵する所あり、加ふるに君が積年の經驗を以てして

業務は極めて完全の中に開始され、着々其蹟を擧げて日一日精良のものを製出するに至り、須臾にして忽ち世の嗜好に適し、民間の需要頓に其數を增せるのみならず諸官衙諸會社等亦た多く之を用ゆるに至り、終に宮內省御用品たるの榮をも荷ふに至りたり、爾來漸く同製造業者の現はるゝに至りたりと雖も、多くは君の製品を摸倣せるに過ぎずして、未だ曾て之より精良なるものあるを見ず、然れども君は尙ほ之を以て足れりとせず、更に研鑽考究を重ねたる末、二十九年布摸樣壁紙を發明製造し、之が專賣特許を得て、大に製出販賣するに至りたるが、此品更に世の歡迎を受くると一方ならず、內地は勿論遠く海外諸國に涉りて其需要日に益々增加の狀況を呈せり、方今君の工場に使役する所の職工、男女を合して無慮二百人の多きに及び、製出頗る多額に上り、販路も漸次增加の傾を呈し、特に海外に在ては、倫敦に其需要最も多しと云ふ、由來君は利を以て先とする人にあらず、一意此事業の有要なるを信じて、益々其進步發達を期するものなれば、徒らに多數の注文を充さんが爲めに、經驗なきの職工を殖して之に從事せしめんか、其結果は必ず粗製濫造となりて、遂に其聲價を墜すに至らん、されば假令製出額少くして汎く一般需要者の希望を充たす能はざる迄も、能く精良の品を製出して永く其聲價を保維するに若かずと、是れ實に君の心事にして、以て能く其事業に忠實に、且つ決して利に趨るの人にあらざるを見るべきなり、嗚呼君の如き亦た工業家の摸範として目すべきにあら

すや、君は又た由來實力を以て貴ぶの人にして、徒らに博覽會共進會等の賞牌を飾立て、以て人氣を買ふが如き其好む處にあらざるを以て、諸種の共進會等多くは之に出品せず、只曩に二十八年京都第四回內國勸業博覽會に出品して、進步二等賞を得たるとあるのみ、今回の博覽會にも進んで之に出品するの意志なかりしに、他の勸誘頻りなるより終に間際に至りて有合の品を出陳したるに、之に對して能く斯業第一の重賞たる二等賞銀牌を受領したるが、由來博覽會の出品物の如き、特に入念の精選品を出して、其平素の製出品と殆んど別物なるかの觀あるもの多きの時に當つて、君は前述の如き意志なるを以て敢て之を念頭に置かず、決して博覽會の出品物として、別に之を製する暇もなく、否當に之を製出するが如きことをなさず、又た實際前述の如く極めて多忙にして、別に之を製する暇なきのみならず、殆んど出品物の荷造りをなす暇さへなくして、出品期愈々切迫せるにも拘はらず、之を打捨て置き、其筋の督促屢々なるに及んで、初めて有合の品を出陳したる次第なりと云ふ、然るに此有合品に對してすら尙ほ二等の重賞を得たり、若し之を特別精選したらんには、更に其以上の賞牌を得たるや知るべきなり、以て君の製品の如何に精良なるかを知るに足らん。

水産業家

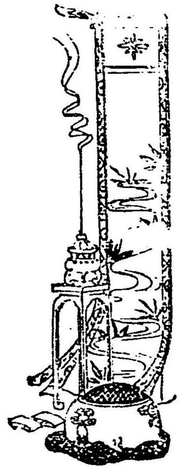
山本與平君

（千葉縣下總國海上郡銚子町）

一等賞牌受領

君は千葉縣銚子港に於ける舊家にして、祖先以來水産業を以て最も名あり、而して其祖の最も雄飛を試みたるは、寶曆年間より延ひて文政年間に至る六十餘年の長日月にして、當時水産業者として、世間其名を知らざるものなく、廣く手を近海數十里の間に延ばして、年々漁獲の實に驚くべきものあり、近海の漁夫殆んど其庇に浴せざるなきの盛況を呈し、以降橫濱地方に貸出したる漁業資本金の如き、極めて莫大の額に達したり、然るに漁業は由來國利を水中に拾ふものにして、最も有益なる事業なるにも拘はらず、極めて危險の性質を帶び、風波一たび荒るれば忽ち船体を破壞し、人命を殞す等のこと珍らしからず、將た一たび不漁の季節に際會せんには人爲を以て能く之を挽回する能はずして、見す〳〵多額の損害を招くことあり、君の家亦た時に如上の災害を免かるゝ能はずして、近海を風靡したる其勢力も天災の爲めに忽ち破壞し盡され、殆んど倒産せんとするの不幸に陷りたる事あり、時恰かも君が祖父の時代にして、當時其苦境は實に名狀すべからざるものありたり、是に於

て祖父深く其危險の事業なることの心肝に銘じ、深く子孫を戒めて再び水產事業に從事するとなからしめんとす、然るに君は最も堅忍不拔の氣性に富み、人の大事を擧ぐる必ず幾多の危險をも冒さゞるべからざるを知覺し、尙ほ弱冠の身を以てして心窃かに思へらく、祖父が我々を戒しめて再び斯業に從事せしめざらんとするは、我々を危險の境遇より救ひ出さんとする、一片慈愛の情の溢れたるに過ぎず、我々は其慈に對しては無論之を感謝せざるべからず、然れども水產の業は國家最も有要の事業なり、之を放棄せば空しく國寶を腐敗せしむるものなり、殊に我が日本の如き四面環海の國に在つては、尙更水產事業の最も必要欠くべからざるを見るなり、左れば此事業は決して之を一個の私營事業として目すべきにあらず、方さに我々海國男兒が當然採るべきの國家的事業と云ふべきなり、思ふに將來世の識者必ず斯業を鼓吹奬勵して、大に其發達に努むべきや必せり、我々幸ひにして水產業家に生れ、幼よりして既に斯業に幾分の經驗を積めるあり、今其最も有益の業務なるを知りながら、斷然之を放棄せんは情に於て忍ぶべからざるなり、否な一已の私情は尙之を忍ぶべし、抑も其國家に貢獻するの道に於て欠ぐる所あるを如何せん、祖父の慈や謝すべきも國家の重きには代ゆ難し、我れ斷然此業に献身して、以て國益を圖ると仝時に、再び我家の盛運を來して、以て祖先の功業を光らさんには若かずと、乃ち決然意を定めて之に從事す、然るに其祖が失敗の餘を受けて、加ふるに天災又た時に



幾來するあるを免かれず、殆んど復た起つ能はざらんとするの窮境に陷るも、君之を以て敢て意を屈するなく、一に克く祖業を恢復し、以て今日の盛況を見るに至りたり、斯くの如くして君は大に海中に沈める國寶を拾ふと同時に、之が諸種の製造法等も最も意を注いで其改良を加へ、搾粕魚油等の如き最も世の賞讃を博する所きなり、斯くの如くして君は大に海中に沈める國寶を拾ふと同時に、之が諸種の製造法等も最も意を注いで其改良を加へ、搾粕魚油等の如き最も世の賞讃を博する所たり、されば嘗て二十八年京都に於ける第四回內國勸業博覽會には、其製品を出陳して三等賞牌を受け、今又た第五回仝博覽會に於ては、其出品の鰮搾粕に對して一等賞銀牌の榮を荷ひたり、實に君の如きは能く祖先を榮飾し、子孫を奮興せしめ、又た能く國家に貢獻するものと云ふべきなり、君の息豐之助氏亦た最も斯業に熱心にして、能く父祖を辱しめざるの新知識と新伎倆とを有す、其將來の發達更に想ふべきものあるなり。

有名賣藥和洋高等
化粧品卸賣貿易商
小町水ダイヤモンド本店

平尾贊平君

家號岳陽堂

（東京市日本橋區馬喰町一丁目六番地）

二等賞牌一個三等賞牌一個褒狀二通受領

君は明治七年八月八日を以て東京市深川區に生る、幼名貫一、後父氏の名を襲ひで贊平と改む、夙に慶應義塾に入りて孜々勉學する所あり、出でゝ實地に就き、父氏の業を翼け造詣する所のもの頗る多し、今日ダイヤモンド齒磨小町水等の製造本舗として普ねく其名を世に知らるゝ處の岳陽堂平尾の店は、實に父氏の手に依て創められ、而して君の功に依て益々隆盛を來したるものなるを知らば、何人か君父子の敏腕に服せざるものあらんや、父贊平氏は駿河國靜岡市の人、家世々土地の名主を勤め、名門鄉黨の推す所となる、幕府の頃選ばれて府中より三島に至る九ヶ宿組合の元締となり、又駿府勤番屋敷の御用商人となり、傍ら質籠業を營みたり、然るに父氏性豪毅にして殊に武術を好み、祿々牙籌の中に日を消すを欲せず、武士となつて大に武力を伸さんとを希ひ、其出入屋敷なる武具奉行山內喜內の江戶勤番となれるを機とし、之に謀りて俱に江戶に出づ、然れども機未だ來らず、空しく腕を扼し

て歸鄕したり、當時佐幕攘夷の二派互に軋轢甚しく、人心恟々として安んぜず、父氏一片の義俠禁する能はず、自ら進んで靜岡市中の取締をなさんことを出願せるも、町奉行之を破格なりとして許さず、父氏の志念終に伸ぶるに由なくして已めり、維新の後明治五年、父氏は更に新たなる希望を齎らして上京せり、蓋し父氏の機を見るに敏なる、實業に非ざれば以て身を立て難きを看破したるなり、乃ち知己勝間田某の薦めに依り、入つて三井組の縣係となり、孜々其業を勵みたり、君は實に此間に際して呱々の聲を揚げたるものなり、斯の如くにして父氏は明治十年二月三井銀行幹事に擧げられ、大に勢力を作るに至りたるも、翌十一年故あつて銀行を退きたり是より先三井組に日本橋區本町の賣藥店資生堂を引受けたることあり、父氏其業務擔當者となりて賣藥に從事せるの經驗あるを以て自ら獨立此業に從事せんことを企て、三井銀行より五百七十五圓の金子を借受け、之に依て日本橋區馬喰町一丁目、即ち現在の處に一戸を構へたり、然れども尙ほ營業の資を餘さゞりしを以て、更に知人三谷斧三郎に就て金三百圓を借り、始めて化粧品賣藥等販賣の業を開きたり、時に明治十二年二月なりとす、而して其店に岳陽堂の名を附したるは、其靜岡の出身なるに因み、扶桑第一峰の富岳が旭天に沖するが如く、大に財寶を積まんとの意に出でたるなり、然れども其初めや尙ほ人の知る所とならず、事豫期と違ひて業務振はず父氏の苦心名狀すべからざるものありたるなり、偶ま十二年夏全國大に虎列拉病の

流行を見たるも、世人未だ之が豫防法を知らず、人心の恟々たる其前年の西南戰役にも增して、唯だ徒らに周章狼狽するあるのみ、流疫の勢愈々猖獗にして、之が爲めに斃るゝもの日に幾百人なるを知らず、父氏之が豫防劑を製して、一は以て民生に資し、一は以て家業を興さんことを企て、日夜工夫研鑽の末石炭酸に他物を加味調合せるものを製出するを得、之を官に屆けて六十日間の調劑許可を得、名けて虎列拉病除匂ひ袋と稱し、小さき紫の絹袋に入れて世に發賣したり、此事忽ち世の需要に投じて、都下は勿論全國よりの注文矢を射る如く、六十日の許可期限を以てしては到底需要者に滿足を與ふる能はざるを以て、更に六十日間の延期を追願し、且つ前軍醫總監松本順氏に托して、其能書及豫防法を作りたれば、一層人氣を加へて、店頭之を購ふの客山をなし、喧囂雜踏宛然火事場に異ならず、父氏之に依て大に其產を興したると同時に、其民生に資したること果して幾許なるを知らず、其功豈多とせざるべけんや、岳陽堂の名此一擧に依りて大に世に知らるゝに至りたりと雖も、而かも尙ほ未だ嶄然頭角を現はすに至らず、殊に此擧や一時的のものにして、惡疫の斃息と共に其販路忽ち止れり、是に於て機を見るに敏なる父氏は更に永遠に持續すべき好發賣品を得んことを欲し、種々考案の末先づ其製出し得たるものを小町水となす、抑も父氏が之を作るに至りし所以のものは、曾て其知人渡邊東洋より香水の製法を傳授されたることあるに基けるものにして、父氏は之に種々の工夫を加へて終

に完全なるものを得、一たび之を塗布すれば忽ち皮膚を精良ならしめ、光澤を增さしめ、古美人小町の如きの美貌となるも敢て難きにあらずとの意よりして、之に小町の名を附したるものなりとす、而して此化粧水に西洋風の摸範を採りたるは實に小町水を以て嚆矢とす、此品一たび發賣さるゝや亦た直ちに世の嗜好に適し、其販路日を逐ふて增加し、須臾にして岳陽堂の名化粧品問屋中に重きをなさるゝに至りたり、是れ實に父氏の機敏にして且つ業務に忠實なるに基くものにして、而して父氏の如何に機敏なるかを證するに、極めて好適なる一事例あり、明治十四年一月二十六日神田柳町に出火あり、火勢猛烈にして氏の家亦類燒を免かれざらんとす、父氏急に使人を深川に派し木材を購はしむ、衆皆怪みて曰く此家未だ燒失せず、或ひは幸ひに災を免かるゝも計り難きにあらずやと、父氏笑つて曰く、災を免かるれば僥倖なり、購ひたる木材の如き之を罹災の知人に贈るも亦可ならずや、事は未然に圖るを良しとすと、既にして火燼り其家終に烏有に歸す、父氏直ちに人夫を勵まし殘灰を收めて板圍をなし、直ちに再築に着手す、見るもの其迅速の手運に驚嘆せざるなし、父氏の敏捷斯の如し、而して其商機一に此敏捷に基くものなるを知らば、世の實業家たるもの宜しく之を以て摸範となすべきなり、君は父氏が斯る敏捷の商戰中に在つて漸く生育し漸く發達し、其恰悧の質は能く父氏の氣性を享けて加ふるに日夜の見聞を以てし、賦性と素養と交も相俟つて君の心性を作成せり、焉んぞ濶達

ならざるを得ん、焉んぞ敏捷ならざるを得ん、嫩にして早く既に梅檀の馨しきより も馨しかりしもの、決して偶然にあらざるを知るべきなり、左れば君父子の情は篤然として春氣の常に其間に漾へるものあり、父氏之を君に謀る、君曰く任に就て名を貪らんよりは、守りて贊成を得たり、依て更に之を君に謀る、君曰く任に就て名を貪らんよりは、守りて氏を推して其重役たらしめんとす、父氏之を婦に店員に又た從子に謀つて孰れも其名を潔ふせんに若かずと、父氏忽ち釋然として悟る所あり、遂に其勸誘を辭したり以て君父氏の交情を見るべく、又た以て君の意志を窺ふべきなり、嗚呼世間沿々名を貪るの時に當つて、君弱冠尙能く此氣慨を有す、抑々又た欽羨すべきかな、斯の如くして君父子は相俟つて業務に勵精し、常に精品を製出して能く世の信用を博し、又た能く世の機先を制して敢て人後に墜つるなし、方今君が店第一の製造品たるダイヤモンド齒磨は、明治二十四年六月の創製に係るものにして、其ダイヤモンドと名けたるは斯の如く光澤を出し、斯の如く齒質を堅牢ならしむるの義に採りたるものにして、而して其名に負かず、能く齒牙の汚穢を除き附着物を去り唾石を消散し又た惡性黴菌を撲滅し、齒齦を強固にし口中の爽快を感せしむるは、之を使用せるものゝ既に實驗する所たり、由來齒磨粉の多くは澱粉を加へ、粗惡なる混合物をなせるもの多く、爲めに齒齦に害を及ぼすこと尠からざりしを、ダイヤモンド一たび出

で丶其弊害を除く、功勞亦た多大なりと云ふべし、ダイヤモンドなる名稱は極めて恰當の文字にして、其實質の能く之に適せるのみならず、其齒磨粉の名稱に假名文字を用ひたるは實に之が嚆矢にして、其人目を惹く事の新たなりしも、亦た其賣行を盛んならしめたる一因たらんか、是亦其機先を制するの一證として見るべきなり齒磨に次いで方今最も賣行宜き日本美人洗粉は、近く四五年前の製出に係るものなるにも拘はらず、從來のものに比して幾多改良進歩の實蹟を顯はし、現に東京一二の有數品として汎く世に持囃されつゝあり、又た無鉛煉白粉メリーは植物製の原料を以て製出せるものなるが故に、毫も皮膚を害するの虞なきのみならず、其製法に吟味を加へて、最も顏に丶リよき極めて精良なるものを製出したれば、是れ亦盛んに婦人社會の愛顧を博しつゝあり、是等數種の精良品は悉く君父子の考案研鑽に成れるものにして、汎く世を利すると極めて勘少ならざるものあり、然れども君父子尙決して之に甘んぜず、更に相扶けて大飛躍を試みんとするに當り、情ひ哉父贊平氏は偶ま二豎の襲ふ所となり、明治三十年一月溘焉として逝けり、君大に悲むも及ばず、乃ち更に奮然蹶起し、父氏の名を襲ふて專ら業務を擔任し、一意之に率負せざらんことを期し、孜々として勵精せるの結果、家運層一層隆盛の域に達しつゝありて明治三十三年佛國巴里萬國博覽會の開かるゝや、君東京出品協會評議員として此事に緣掌したるが、此機を以て大に海外の事情を視察せんと欲し、仝年二月先づ佛國

に渡り、次ひで英獨白の三國を經て米國に航し、專ら化粧品類の調査を爲し、機敏なる眼光に幾多の新經驗を收めて仝年七月歸朝し、又た外務省に乞ふて、在外領事館をして、西洋向日本小間物の調査をなさしめ、大に得る所あり、依て齒磨粉其他の輸出を試むるに至りたり、而して君の畑眼は能く之にも功を收めて、現に淸國、香港、新嘉坡、濠洲、南洋諸島、南米各地等、其輸出日を逐ふて益々隆盛に赴きつゝあり、之に依て國益に資すること亦た決して尠きにあらざるを見る、特に其ダイヤモンドの名は深く彼國人の愛する所となりて、日に其光輝を發揮しつゝありと云ふ、君は斯の如くにして大に其素志を貫徹するや、益々總ての製品に改良を加へ、孜々として其精良を極めつゝあり、現に第五回內國勸業博覽會に出品したるもの丶中ダイヤモンド齒磨は二等賞銀牌を、無鉛白粉メリーは三等賞銅牌を、小町水と日本美人洗粉とは共に褒狀を得たり、而して是等の賞與は何れも同一製作品中の最上なるものにして、齒磨として二等賞を得たるものは全國中僅かに三名あるのみ、又た洗粉に賞與を得たるは君を以て嚆矢とす、以て其の製品の如何に精良なるかを證すべきなり、之を外にしてダイヤモンド齒磨は三十三年佛國巴里萬國博覽會に褒狀を得、三十五年佛領安南博覽會に銀牌を受け、其他五二會品評會共進會等に於て賞牌褒狀等を得たること數ふるに遑あらず、斯の如くなるを以て君は當業者間に最も重きを置かれ、曾て明治三十二年には農商務省より宮崎縣五二會品評會審査官を囑托さ

るゝの榮を擔ひ、本年第五回內國勸業博覽會には第五部二十類の十一なる石鹼化粧品部の審査囑托を命せられたり、而して仝囑托を命せられたるもの東京には只君一人あるのみ、博覽會閉會の後君は其功勞として銀盃を下賜せられたり、尙君は仝博覽會東京出品協會評議員となり、又た小間物化粧品卸商組合出品同盟會委員となりて出品に奔走し、今又た聖路易斯萬國博覽會東京出品協會評議員となりて執掌せる等、以て其斯業の爲めに貢獻せる所勘からざるを見ると同時に、以て其實業者間に重せられつゝあるを知るべきなり、君は又た日本商店の弊として使用人を冷遇するもの多く、之が安息日等を與ふるとも甚だ稀にして、使用人に不愉快の念を與へしむること多きを見、此弊を匡正せんが爲めに自ら率先し、每月十五日を定期安息日と定め、使用人をして趣味あり實益ある諸種の遊戲をなさしむる等、頗る商家文明の設備に造詣しつゝあり、其意志の遠大見るべきなり、尙ほ君は此文明的設備の一端として、二十世紀なる商號の登記をなし、自家の製品悉く之を冠して、以て其精良を證據立てつゝあり、其商號が示す如く二十世紀新文明的商家として、能く恥ざるものと云ふべきなり。

染革販賣業

佐藤勝次郎君

（東京市本所區中ノ鄕竹町三十九番地）

三等賞牌受領

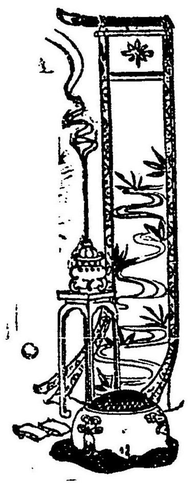
君は東京市下谷區池ノ端仲町に生る、父は越中富山の藩士にして、其名を彦三郎氏と云ふ、往年故あつて鄕を去り、東京に來り住む、君は其四男にして、幼にして溫厚恭順能く父母に事ふ、十五歲の頃早く旣に袋物業に從事せり、當時袋物用の革は多く手揉革を使用したるものなるに、其革の中往々にして粒の出でざるものあり、體裁甚だ備はらず、是れ一に製法の不完全なるに坐するものたり、君弱年の身を以て之に就て考究する處あり、日夜研鑽を重ねて、終に能く其法を發明することを得たり、時に明治十年の頃なりとす、其法たる卽ち今日所謂機械粒なるものにして、此法に依る時は如何なる革も粒の出でざるものなく、極めて完全のものたるを以て、之に依れる君の製品一たび世に現はれてより、忽ち世人の注目する所となり、日を逐ふて其需要の多きを加へ、今日に至るも尙ほ殆んど君の專賣物として世に賞讃せられつゝあり、以て君が幼少よりして、如何に業務に熱心なりしかを見るべきなり、今

其機械粒なるものに就て聞くに、鞄、袋物、鼻緒等よりして、椅子張サック張等の粒打に至るまで、意に從つて何れも精巧に出來上らざるものなく、之に依りて儘かに染革法に一新紀元を開きたり、是れ君が幼少の時に於ける一大功業として、最も世に傳ふべきの一事と云ふべきなり、方今粒を出すの法に就ては、外國品中亦た頗る精巧のものなきにあらざるも、此等は皆機械を以て革を壓搾し、以て粒を出すものにして、革の面積を縮少するの弊を免かるゝ能はず、然るに君の製法は漆版に依りて形を付くるものなるを以て、更に此憂あるとなく、將た其外見に就て比較するも、精巧優美なるの點に於て、毫も外品に遜色あるなく、而かも其價格は外品に比し、非常に低廉なるを以て、何れの點より見るも君の製品の、外品に對して優に一等地を拔けるものなりと云ふも、敢て誣言にあらざるなり、左れば他の同業者中君に做ふて此方法を採らんと企てたるもの尠んどあるなく、乃ち君の製品は特許を得ずして、而して自然に日之を企つるもの尠んどあるなく、乃ち君の製品は特許を得ずして、而して自然に專賣の姿を呈せるものなりとす、以て其技術の如何に巧妙なるかを知るべきなり、斯の如く君は此法に就て既に充分成功せるにも拘はらず、尙之に甘んずるとなくして更に剝革機械に就て大に研究する所あり、而して其結果亦た充分の成功を遂げたり從來皮革を剝ぐには庖丁を以て其裏面を削りたるものにして、其削り取りたる屑皮は悉く廢物に歸したるものなり、君之を見て大に其不經濟なるを思ひ、之に就て種

々工夫したるの結果、終に能く一の完全なる剝皮機械を發明するに至りたり、此機械に依る時は一枚の皮を屑を生ずるとなくして能く數枚に剝がし、悉く之を使用し得るものなり、左れば此機械の斯業の爲めに利する處、決して尠少にあらざるを知るべきなり、方今大坂に於ても剝皮の法頗る發達したるものあるも、大坂の製法は硝子板の上に革を載せ、其寸法に依り剝がすものにして、君の製法は之と異り、定木の上に革を當て、及物の巾に剝がすものなれば、比較的熟練を要すること早く、熟練の早き丈夫れ丈器械の効能多きを知るべきなり、斯の如くして君は以上二者の大發明を遂げたり、其斯界に貢獻する處亦た大なりと云ふべきなり、方今君の製品は右の精巧なる器械に依て剝がれ、而して其獨得の技術に依りて染出されたるものなれば、其出來上りたる品の優等なるは云ふ迄もなく、現に今回第五回內國勸業博覽會に出品したるもの〻如き、一枚の羊革を數枚に剝ぎ、之に種々の色を染出したるものにして、其剝皮の手際と云ひ、其染色の精巧と云ひ、觀者をして感歎の聲を放たしめざるはなかりしと云ふ、斯くの如くなるを以て君の製品は大に使用者の歡迎する所となり、需用日を遂ふて益々多きを加へつゝあり、而して其原料は淸國、印度、其他歐米各國より盛んに輸入し、就中原料の最も多く使用せらるゝものを羊皮なりとす。

君は前にも述べたる如く極めて溫厚篤實の人にして、何人に接するも能く其信義を

守り、營業上に對しても決して不當の利を貪る如きことをなさず、極めて薄利を旨として、而かも益々製品を精選し、毫も粗製濫造に渉るが如きことあらざるを以て、能く其製品の聲價を高め、需要日を逐ふて益々增加すると共に、君が一身の信用も愈々高まりて、其德望同業者中稀に見る所なりとす、人若し其風采を一見せば、餘りに沈着に餘りに昔風にして殆んど大事業をなすの人なるを信せざるべし、而かも所謂良賈は深く藏して虛きが如きものにして、其沈着なる處能く一意專心業務に熱心なるの實を現はし、其昔風なる處即ち輕佻浮薄の時流に染まず、能く信義を重んじ事に忠實なるの證として見るべく、其斯業に貢獻せるも亦宜なりと云ふべきなり。



象印齒磨製造
化粧品販賣業

安藤福太郎君

家號井筒堂

（東京市日本橋區蠣殼町水天宮前）

二等賞牌受領

既に象印齒磨と云へば、世人悉く其安藤井筒堂の製品たることを知る、既に安藤井筒堂と云へば、世人亦た悉く其象印齒磨の製造本舖たることを知る、此二者の名能く全國に普及して三尺の童子も殆んど之を知らざるなし、斯の如く名聲の相並びて滿天下に轟々たるもの、象印齒磨なるものゝ品質が、優に他の製品に超絕するものあるに因るか、抑も亦た安藤井筒堂なる店舖が、都下最も有數の地たる、蠣殼町水天宮前に設けられたるに因るか、二者共に其一因たるには相違なし、而かも是れ其末たるのみ、二者の素あるものは實に象印齒磨の創造者にして、井筒堂の主人たる、安藤福太郎君其人の勤勉に依らずんばあらず、乞ふ少しく其平生を語らん。

君は信州下伊奈郡山吹村の人、元治元年正月を以て生る、父を廣助氏と稱し、世々農を以て業とせるの人にして、君は其第四男たり、資性英邁にして強記、幼にして尋常收童に超絕する所あり、長ずるに及んで猛志決行、敢て或ひは躊躇することあるなし、且つ能く時勢を達觀して、常に碌々耕耘を以て事とするを好まず、商業を

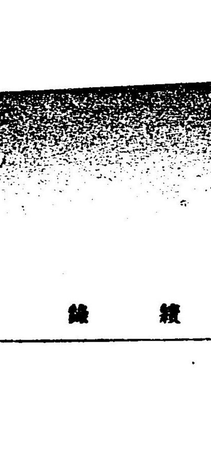
以て其身を立てんと欲す、然れども其志望を遂行するの機を得る能はずして、空しく志と違ふこと幾んど數年、既にして機の漸く熟するに會し、斷然袂を拂つて東京に出づ、是れ即ち明治十八年十二月にして、君方さに二十二歳の時なりとす、年齒は壯なり、意氣は鋭なり、萬斛の希望勃々として胸に湧くものありと雖も、而かも懷中黄金の貯ねあるにあらず、知友の君を優遇歡待するものあるにあらず、身は是れ蔽衣溫袍の一田夫たるのみ、況んや都會熱鬧人情浮薄の地、誰か君と共に當世を談じ、君と共に其志を語るものあらんや、東西を知らざる熱鬧炎塵の中に起ちて、語るに友なく談ずるに人なく、恰かも大洋中に漂へる一孤舟の如く、唯浪々として鄉友の家に寄食するのみ、茫として指針の向ふ所を知らざるもの幾十日、偶ま人あり君に勸むるに奉公を以てし、且つ田所町の油商井筒屋號金原明善氏の店に缺員のあるを告ぐ、君大に喜び其厚意を多謝すると共に、其周旋を得て玆に同店の傭夫となるに至れり、然るに同店の規定として、其店員なるものは何れも十二三歳の丁稚よりして勤續するものにあらざれば之を用ゐず、其中年よりするものは、單に市中の外廻りとして其油を賣歩くか、然らざれば藏働きとして使役せらるゝに過ぎず、玆を以て君も亦其例に依り、外廻りの行商に從事し、晨に星を戴ひて出で、夕に月を踏んで歸り、櫛風沐雨、筆紙に盡す能はざるの辛酸を嘗め、其勞を勞とせずして粉骨碎身すること殆んど三年、志氣愈々堅ふして功勞漸く現はる、仝店君の爲すあるを

認めて中年者の監督となし、更に精勤すること二年の後愈々擢んでられて若衆格、即ち彼の幼年より勤續せるものと同等の店員の列に加はるに至りたり、是れ同店には未だ曾て其前例なき所にして、實に君を以て嚆矢とす、嗚呼君が此異例を作りたるの名譽は、恰かも一兵卒の一躍して士官に昇進したるに異ならず、誰か之を羨望せざるものあらんや、要するに此一事を以てするも當時君が如何に忠實なりしか、又た如何に精勵なりしかを想像するに餘りあるべきなり、君は斯の如く忠實に、斯の如く精勵なりしを以て、何人も其將來有爲の人物たるを認め、君を以て女婿となさんと欲するもの頗る多く、就中森某なるもの最も熱心にして、人を介して君を懇望すること三年の久しきに亘れり、君は元來獨立自營の志に富めるの人、碌々他家の養嗣となるが如きは夢寐にだも思ひ及ばざりし所なりと雖も、其懇望の益々切なるに及んで、終に其至情を絶つの力なく、止むを得ず之を諾して森氏の家に入り、其些々たる資本金を基礎として依然養家の營業を繼ぎ、刻苦勵勉更に一層を增して、漸く其盛況を來さんとするに方り、天尚ほ君の爲めに幸榮を許さず、二豎襲ひ來つて殆んど瀕死の中に呻吟するに至り、加ふるに其不幸は之に止まらずして、養家の叔父某なるもの、其性奸譎邪惡にして貪婪飽くを知らず、君の瀕死を奇貨として其財産を橫領せんと企て、濫りに君の實印を盜用して惡策至らざるなく、爲めに君の資産は殆んど橫奪し盡されたり、既にして其病勢は幸ひにして漸次輕減し、稍枕を擡

ざるを得るに至りたりと雖も、如何せん自己の財産は既に悉く他人の有に歸し、反つて負債の其身に遺れるあるのみ、君以爲らく若し之を法律に訴ねんか其人は苟くも養家の叔父なり、義として之を縲紲の人となすべからず、默して玆に止まらんか更に奇禍の此身を襲ひ來るを測るべからず、如かず虎口を脫して後徐ろに後圖の計をなすにはと、竟に其負債を一身に負ふべきを條件として離緣を求め、協議相整ふて養家を去る、實に是れ明治二十九年三月、而かも春季皇靈祭の當日なりしと云ふ而して其養家を去るに臨んで、養家より五十金を受けたるも、其半を仲裁者に贈つて其勢を謝し、尙十金を養家の菩提寺へ祠堂料として寄附したる、其用意の周到なる感ずるに堪ねたり、斯の如くして餘す所は僅かに十五金あるのみ、加ふるに病後贏弱の身を以てして、尋常人ならば勇氣忽ち沮喪して復た爲す能はざるの境遇に陷りたらんも、君の志氣は一難を經る毎に益々加はり來り、且胸中既に成算のなれるあり、乃ち衣服其他の所持品を典賣して、僅かに百金に滿たざるの資本を作り、之を以て覺束なくも現時居住の地に化粧品販賣の一小商店を開き、其曾て井筒屋の店員たりしに因みて、玆に安藤井筒堂の暖簾を掲ぐるに至りたり、然れども其業務未だ振ふに至らずして、而して彼の養家より繼ひ來れる負債は、之を合して七百餘圓の巨額たり、若し夫れ普通人ならば、到底其の負擔に堪ゆる所にあらざるも、君は窮境中に在つて毫も之を意に介せず、約三ヶ年間を期して月賦返濟の方法を設け、刻

苦勵精粒々辛苦の中に生み出したるの利益金を以て、約を違へず悉く其義務を完了するに至りたり、亦た以て信義を重んずる君の性行の一班を窺ふに足らんなり、而して君が今日の象印齒磨を製造販賣するに至りたる所以のものは、素より一時の僥倖を賭したるにあらずして、當初より大に企圖する所のものありたるなり、即ち君曾て以謂らく、從來我國に行はれつゝある所の齒磨粉なるものは、多く其原料を房州砂に採り、且つ粗製濫造の惡品にして、殆んど使用に堪ねざるなり、殊に衛生の道益々進捗せる今日に當つて、此の如き齒牙に危害を加ふるものゝ世に存在するは實に慨嘆の至りなりとす、我にして若し機會を得ば他に率先して完全無缺のものを造り、此惡習を除去せざるべからずと、既にして君が此目的を達するの機會は來れり、是を明治廿六年の春季となす、當時米國市俄古府に於て萬國大博覽會の開催あり、其出品中一種の新製齒磨粉ありたりとて、之を君に報ずるものあり、君大に喜びて直ちに其製造の傳習を受け、種々研鑽の後精良なるものを製出するを得て、之をシカゴみやげ象印齒磨と命名して試賣したるに、果せるかな品質純良にして最も齒牙に特効を有し、且つ當時は本邦に於て洋風の齒磨粉を製賣するもの、未だ曾て之れあらざりしが爲めに、大に需要者の喝采を博し、爾來長足の進歩を以て其販賣額を增し、盛況は獨り安藤井筒堂に向つて集注し、未だ幾許ならずして其名聲の天下に轟々たるに至れり、現今に至りては全國中多くの洋風齒磨粉を見るありと雖も

由來其象印齒磨の大好評を博するを見て、之に摸倣せるに過ぎざるのみ、即ち洋風齒磨の始祖として君を推すは何人も異論なき所にして、而して其社會に對する功勞の大なるや、亦た能く人の推服する所たるべきなり、其今回第五回內國勸業博覽會に於て斯業第一の重賞たる二等賞銀牌を得たる如き、亦た當然の事と云ふべきなり斯くの如くにして君は其業務に對する大成功を見たるにも拘はらず、尙之に甘んずるとなくして、更に昔日の勇氣を皷吹し、勵精敢て苟くも撓む所あらず、加ふるに年齒未だ不惑を出でず其將來更に有望のものあるや期して俟つべきなり。



安ノ六

美術的鹿革
裝飾染業

松金新次郎君

（東京市本所區外手町七十八番地）

二等賞牌受領

金ノ一

君は安政五年を以て下總國猿島郡古河町に生る、家元と乾物商を以て業とす、父を安兵衛氏と云ひ、君は其長男たり、幼にして怜悧、能く業務に勵精す、慶應年間出京して、日本橋區本石町革羽織商熊谷利八氏の店丁となり、斯業に就て孜々研究する所あり、得る所亦た尠からず、偶ま明治維新の事あり、時勢の變遷は大に革羽織の需要を減ずるに至れり、君早くも此事に就て着目する所あり、之に代るべきの業務を發見せんと欲す、時に西洋革の輸入漸く多く、特に露西亞革及各染革の輸入最も盛んなり、而して其製法たるや極めて精巧にして、時に絢爛、時に清雅、能く人目を惹くに足るものあり、邦人之を摸倣せんと欲するも、技術の巧足らざるに加へて、藥品の調合其他總て之を採る能はずして、空しく外品の跋扈するに委せるのみ君時に十七八歳の弱年を以てして、尙ほ且つ慨歎措く能はざるものあり、以謂らく徒らに外品を摸せんとす其事難にして而かも甚だ卑なり、若かず從來我國產たる鹿革の染法に改良を加へて、以て大に之と拮抗し、其輸入を防ひで國益を增進するに

ほと、依て鹿革に摸様を附するの事に就て大に研究する處あり、蓋し鹿革は其質柔軟にして而して堅牢、獸皮中有數のものにして、之を總ての携帯品に製作するに、最も其適當のものたるを見る、若し之が染法及び製法に一大改良を加へば、其外國品を壓倒する、亦た難しとなさゞるなり、君深く玆に着目して、敢て外品の絢爛に目を眩まさるゝとなく、更に之を凌駕するの精品を我國産に依つて得んと欲す、其見識の高くして着眼の非凡なる見るべきにあらずや、君此見識を以てして、而して加ふるに非常の熱心を以てし殆んど寢食を忘れて苦心經營する所あり、終に能く鹿革の染法に一大改良を加へて、極めて精良のものを製出するを得たり、然れども單に染法の精良なるのみを以て甘んずべきにあらず、其販路を擴めんには必ずや世の時勢に適ひ、人の嗜好に投ずるの新摸様を出さゞるべからず、而して新摸様を出さんには自ら繪畫を研究し、自己の意志を描き出すにあらずんば、到底完全のものを製出する能はざるを悟り、乃ち紫藤某に就て繪畫を學ふ、而かも其之を學ふや、晝間は主家の業務に殆んど寸暇なきを以て、夜間其休務の暇を偸んでせるものなれば、其苦心は實に名狀すべからざるものあり、然るに君敢て之に屈することなくして、終に能く之に熟するに至りたり、是に於て君は明治十八年を以て初めて獨立の業務を營み、其蘊蓄せる新意匠を發揮し、自ら縦横の筆を弄して、其改良の法に依り新摸様を染出したれば、之を世に發表すると同時に人氣は靡然として之

に向ひ、之に依て製せる袋物鞄等爭ふて之を携ふるに至りたれば、爲めに其當初の目的たりし外國革の輸入を防止したるに止まらず、更に進んで之を海外に輸出するを得たり、斯の如くして君は充分之に對して成功したるにも拘はらず、尚之に甘んせずして、更に文庫革の製造に深く意を注ぎ、其製法に就て研鑽大に得る所あり然るに是れ亦た自ら蒔繪を施すにあらざれば、充分意に滿つる能はざるを以て、更に夜間の餘暇を利用して、蒔繪法を鹿島寒山氏に學び、既に之に熟達して彼此を取捨配合し、苦心經營の功を積みて、終に能く完然無欵の精品を出すに至り、鹿革と相並んで大に世の賞讃を博し、需要日を逐て益々增加せり、而して君の製品の海外輸出最も多きを加へたるは、三十三年巴里萬國博覽會の時よりにして、爾來外國の注文引きも切らず、其工場の設備は年々擴張せらるゝも、尚且つ悉く需要に應ずる能はざる 盛況を呈し、其原料の如きも亦内國産のみにては不足を感ずるに至り、方今之を米、露、印度等の諸邦より輸入して、以て其製作に從事しつゝあり、特に印度に取るもの多しと云ふ、君は由來海外の輸出を以て目的とせるもの、依て其製品の如きも專ら外國人の嗜好に意を注ぎ、深く其製法を精選するのみならず、我國の商人が往々信義の心に乏しきを慨し、一に其信用を失墜せざらんことを期し、苟くも之を忽諸に附するとあらざるを以て、大に外人の信用を博し、前述の如く海外の輸

出日を逐ふて盛大に赴きたるものなるが、君は尚ほ大に其輸出を圖り、以て益々國利を增進せんが爲めに、特に毛皮貿易商西村長次郎氏に托し、其見本を世界各國に送附したるより、一層其注文を增加したるが、特に方今其輸出の最も盛んなるは米國ボストン、紐育、桑港等なりとす、斯の如くして其一ヶ年の販賣額は實に七萬圓以上に及べりと云ふ、亦た盛んなりと云ふべきなり、君は曾て明治二十年工藝美術品共進會の開會に際し、各種の鹿革染を出陳して、銀牌及び銅牌を受領し、二十六年米國圖龍萬國博覽會に於ては銅牌を得、且つ其發明者としての名譽賞を受け、二十八年京都第四回內國勸業博覽會には、其製品を熊谷、清水兩氏の手に依りて出品し、有功賞を受領し、三十三年佛國巴里萬國博覽會には、更紗染繪革を清水喜助氏に依りて出品し、金銀賞牌を受け、其他人の手に依りて出品し、受賞したること頗る多く、今又た第五回內國博覽會に於て二等賞銀牌の重きを得たる等、以て其精巧の品たるを知るべきなり、聞く君の製品の獨得とする處は、繪畫中に巧みに薄墨を用ゐるに在り、他の染革業者亦之に摸するものなきにあらざるも、薄墨使用の一點に至りては到底摸擬する能はずと云ふ、其他の繪畫の如きも燦爛眼を射るものあり、特に今回の博覽會に出品したる張交屏風の如きは極めて壯麗なるものにして、或ひは銀地に菖蒲を現はせるあり或は山水の極彩色なるあり、櫻閣の金碧なるもの、蒔繪の濃厚なるもの、其他一として目を驚かさゞる

ものなく、實に觀者をして其染革なるを疑はしむるものあり、其技の精巧殆んど人をして惑に堪へざらしむると云ふ、然るに尚ほ君は之に甘んずることなくして、更に新案の發明に日夜苦心を凝らし居れば、今後更に人目を驚かすべき幾多の新形染製出さるゝに至らんと期して俟つべきなり、君は斯の如くして專ら業務に執掌するの側ら、又た心を風流の道に寄せ、特に俳句を嗜み、名汁佳吟尠からずと云ふ、所謂英雄閑日月あるものと云ふべきなり。